

市立横手病院年報

平成 26 年 度

市 立 横 手 病 院

平成26年度年報発刊に当たり

市立横手病院院長 丹 羽 誠

当院設立125年周年という平成26年度は、4月の病棟再編から始まった。診療報酬改定の時であり、医療法の改正に基づく急性期病床削減方針に対応することを覚悟し、10月からの地域包括ケア病棟開設への体制を整えた。あまりに急なことであったが、職員はよく理解をし、協力をしていただいた。病棟再編・地域包括ケア病棟開設は結果として、運営の安定に大きく貢献した。

また、忙しい中、病院機能評価の認定更新受審（訪問審査平成27年3月）を吉岡委員長始め、全職員がよく準備し為し遂げ、病院の新しい進歩の機会とすることができた。

DPC対応として入院期間の短縮は、秋田県内で突出した成果を出し単価増となったが、病床利用率が減少し、十分な増収に結び付かなかった。収支改善が大きな課題となった1年となった。

全国トップクラスで人口が減少し、少子高齢化が進むこの地域で、我々は「地域医療ビジョン」を策定し、地域医療需要予測をもとに機能分担や連携、病棟機能変更を含めた改革を推進することが求められている。そして、「地域包括ケア」をさらに具体的に進めていくことが求められている。

このような状況で平成27年2月に第3次中長期計画(平成32年まで)を策定した。

ここに計画の基本原則を示させていただく。

I. この地域での質の高い急性期医療を担う

当院は、基幹病院として、今まで通りこの地域での質の高い急性期医療を担う。特に、県南で唯一の消化器センターを持つ当院は、消化器内科・外科ともさらに充実を図り、当地域だけではなく他地域からの消化器疾患も受け入れていく。脳血管疾患、心筋梗塞などの疾患は、他施設との綿密な連携を図り、当院での高度急性期医療提供を行っている。

II. 「地域包括ケア」具体化実現に向けて連携する

当院は、「地域包括ケア」具体化実現に向けて、「地域包括ケア病棟」の運用、さらに在宅・施設での療養につながる連携を進める。当院からの訪問診療は歴史のある実績を持つが、これを継続する。訪問看護の充実、医師会訪問診療医師・ケアマネージャー・施設との顔が見える連携をさらに推し進め、在宅療養後方支援病院としての実績を積み、介護行政を担当する市とも積極的に連携を進める。

平成26年度の我々の歩みを年報として記録し、供覧するものである。

目 次

巻頭言	1	循環器内科	35
目 次	2	心療内科	36
沿 革		外科	37
沿 革	7	整形外科	41
基本理念・基本方針	14	小児科	43
倫理綱領	15	産婦人科	47
患者様の権利と責務	16	泌尿器科	49
病院の概要		放射線科	50
開設者	19	麻酔科	52
名 称	19	リハビリテーション科	53
所在地	19	救急センター	60
開設年月日	19	薬剤科	61
事業管理者	19	診療放射線科	62
病床数	19	看護科	65
診療科目	19	2 A 病棟	69
看護師配置基準	19	3 A 病棟	71
医療機関の指定等	19	3 B 病棟	72
病院施設の概要	20	3 C 病棟	74
病院統計		4 C 病棟	75
収支決算	23	外来部門	76
診療科別入院患者数	25	手術室	77
診療科別外来患者数	26	中央材料室・洗濯室	78
新患患者数	27	人工透析室	79
再診患者数	27	訪問看護センター	81
地域別患者数の状況	28	ME 室	83
紹介患者数	29	臨床検査科	85
救急患者統計	30	食養科	87
部門報告		健康管理センター	89
診療科	33	事務局	91
内 科	33	総務課	91
脳神経内科	33	医事課	98
消化器内科	34	医療安全管理室	100

医療情報管理室	105	衛生委員会	153
地域医療連携室	106	患者サービス向上委員会	154
医師事務支援室	108	病院教育委員会	155
委員会活動		広報委員会	156
医療安全管理対策委員会	111	個人情報保護委員会	157
医療事故対策委員会	113	診療記録開示審査委員会	158
院内感染対策委員会	114	年報編集委員会	159
栄養管理委員会	115	医療ガス安全管理委員会	160
N S T委員会	116	医療廃棄物管理委員会	161
褥瘡対策委員会	118	防災対策委員会	162
緩和ケアチーム委員会	120	省エネ推進委員会	163
救急センター運営委員会	121	看護科の委員会	164
手術室運営委員会	122	教育委員会	164
糖尿病委員会	123	看護研究委員会	166
輸血療法委員会	124	看護支援委員会（看護必要度記録班）	167
臨床検査適正化委員会	128	看護支援委員会（看護計画班）	168
化学療法委員会	129	看護支援委員会（入院時基礎情報班）	169
退院支援委員会	130	看護支援委員会（固定チーム班）	170
倫理委員会	131	師長会	171
図書委員会	132	師長主任会	172
臨床研修管理委員会	134	主任会	174
臨床研修プログラム	136	看護補助者会	175
治験委員会	139	学術研究業績	
診療材料検討委員会	140	医局勉強会	179
病床運営委員会	141	学術発表	180
医療情報管理委員会	142	職員等互助会	
電子カルテ委員会	143	職員等互助会	183
D P C委員会	144	同好会活動	
クリニカルパス委員会	145	野球部	187
地域交流推進委員会	146	バレーボール部	188
病院機能評価準備委員会	149	卓球部	189
薬事委員会	151	編集後記	191

沿 革

沿革

- 明治14年 私立横手病院創立。
- 17年 公立平鹿病院と改称。
- 21年 3月 県が公立病院設置規則公布。
- 22年 7月31日 廃院と同時に横手町がこれを譲り受ける。
- 12月15日 公立横手病院として開院。総坪数78坪。初代院長中村良益氏就任。
- 24年11月 大町下丁に新築工事着手。
- 25年 1月30日 竣工開院。
- 33年 4月 1日 平鹿郡の委託をうけ看護婦養成所設置。
- 昭和27年 2月 7日 醜翻診療所開設。初代所長藤田健康氏就任（本院内科兼務）。
- 11月15日 保健婦、助産婦、看護婦法（昭和23年法律第203号）による附属准看護婦養成所設立（定員40名）。
- 28年 9月21日 栄診療所開設。初代所長和賀卓爾氏就任（専任）。
- 9月30日 横手市外21ヶ町村立伝染病隔離病舎組合設立竣工（249.75坪）。
- 34年 7月 3日 厚生年金保険積立金の還元融資を受け昭和33年度より3カ年計画による病院全面改築工事に着手。大町下丁36番地より根岸町5番31号旧北小学校跡へ移設。
- 35年 3月31日 醜翻診療所廃止。
- 7月31日 改築工事竣工（総面積3,116.26㎡、総工費8,500万円）。
- 9月 6日 竣工に伴い指令秋収医第2140号により施設の使用許可（一般病室19室113床）。
- 36年 2月 1日 地方公営企業法（昭和27年法律第292号）に基づき条例全部適用。
- 4月 1日 国民健康保険制度施行。
- 7月 7日 伝染病棟移転改築工事竣工。横手市外7ヶ町村立伝染病隔離病舎組合と改称。
- 7月 7日 結核病棟改築竣工（総工費300万円）。
- 38年10月 1日 健康保険法による基準寝具承認。3病棟160床。
- 39年 6月30日 救急指定病院の許可（優先使用される病床3床）。
- 40年 7月15日 集中豪雨による横手川氾濫。午後1時30分頃より同4時頃まで浸水、最高床上1メートルの被災のため3日間休診。復旧費150万円。
- 41年 1月 1日 地方公営企業法一部改正に伴い条例制定管理者を置く（院長）。
- 43年 3月25日 温泉浴治療棟新築工事及び送湯管布設工事着手。
- 7月30日 同新築工事竣工（面積322.99㎡、引湯管全長1,500m、総工費2,300万円）。
- 8月 1日 リハビリ棟竣工により指令医第1499号、指令環第690号で使用許可。
- 45年12月15日 准看護学院創立20周年記念式典。第20期までの卒業生358名。
- 48年 4月 1日 横手市外7ヶ町村立隔離病舎組合を横手平鹿広域市町村圏隔離病舎組合と改称。
- 5月14日 医第1012号をもって横手平鹿医療圏における地域センター病院に指定（地域医療センター）。

- 56年10月1日 基準看護一般病棟160床特二類承認。承認番号(看)第20号。
- 57年12月15日 看護職員に対する勸奨(希望)退職制度の適用。
- 59年7月31日 第1病棟(47床)、伝染病棟(10床)閉鎖。解体。
- 8月1日 病院開設許可事項変更許可(指令医-299)。
一般病床160→194 伝染病床10→10 計170→204
- 8月30日 病棟改築工事起工式。
- 60年10月20日 新病棟竣工(着工59.8.24)。
- 62年3月31日 附属准看護学院閉校(昭和27年11月開校以来34期592名卒業)。
- 7月7日 CT導入(設置許可指令医-684)。
- 63年4月1日 健康管理センター発足。
- 平成元年1月25日 第1回コメディカル研究会開催。
- 9月16日 開設100周年記念式典。
- 12月1日 基準寝具承認指令保-1531 194床 承認番号(寝第7号)。
- 平成2年7月24日 皆川浄司院長急逝。
- 9月1日 江本彰二院長就任。
- 10月1日 皆川浄司学術振興基金設立。
- 平成3年1月1日 基準看護(特2類看護)辞退。
- 1月9日 病院開設許可事項変更許可(指令医-1801)。
一般病床194→250 伝染病床10→10 計204→260
- 2月1日 第2期診療棟等改築工事着工(250床)。
- 4月1日 基準看護(特2類看護)承認(看第61号)指令保2363。
- 10月28日 大友公一産婦人科科長急逝。
- 平成4年4月1日 標ぼう科目に泌尿器科新設。
- 4月1日 名誉院長に品川信良先生発令。
- 4月4～5日 新しい診療棟移転。
- 4月6日 新しい診療棟に仮出入口をもうけて外来診療開始。
- 7月1日 泌尿器科外来診療開設。
- 7月3日 人工透析開設(10床)。
- 7月20日 新しい診療棟正面玄関オープン。
- 7月31日 第2期改築工事竣工(着工3.2.1、完成4.7.31)。
- 8月1日 看護4単位制に入る(250床 実施開始)。
- 8月29日 公立横手病院第二期改築工事竣工式。
- 10月1日 新カルテ(A4版)に変更。
- 11月7～8日 第1回病院祭。
- 12月1日 特3類看護(2病棟、3B病棟)117床承認される(承認番号(看)第25号)。
重症者の収容基準承認される(承認番号(重収)第18号)。
個室4床 201・218・367・420号室。
2人部屋6床 350・321・422号室。

- 平成5年1月1日 夜間看護等加算承認（承認番号(夜看)第21号）。
- 4月1日 秋田大学医療技術短期大学部理学療法科実習病院の承認。
- 5月9日 経営問題で読売新聞ニュースになる。
- 8月1日 入院時医学管理料承認される。
- 9月24日 健康管理センター棟着工。
- 12月1日 特3類看護（4病棟）承認される。
- 平成6年3月10日 健康管理センター棟竣工（着工5.9.24）。
- 6月1日 完全週休2日制実施。
- 6月8日 秋田大学による地域包括保健・医療・福祉実習開始。
- 9月8日 経営コンサルティングの実施。
- 平成7年6月1日 新看護基準（2.5：1、10：1）承認。
- 6月30日 江本院長退任。
- 7月1日 新事業管理者・院長に長山先生就任、新副院長に丹羽先生就任。
- 8月5日 基本理念策定
「安心できる良質な医療の提供」
「心ふれあう人間味豊かな対応」
基本方針策定
「地域医療への貢献」
「患者サービスの充実」
「健全な病院経営」
運営方針策定
「急性期医療の充実」
「生活習慣病の予防」
「検診業務の拡大」
- 平成8年4月23日 (財)日本医療評価機構による病院機能評価運用調査受審。
- 6月3日 眼科外来診療開設（週1回月曜日午後）。
- 7月1日 院内感染防止対策加算承認。
- 7月5日 更年期外来開設。
- 12月5日 心療科外来診療開設（週1回）。
- 12月11日 MR I棟着工。
- 平成9年3月19日 MR I棟竣工。
- 3月31日 名誉院長品川信良先生退任。
- 4月21日 食堂を開設。
- 4月28日 MR I装置稼働。
- 9月27日 横手病院温故会（OB会）設立。
- 平成10年4月1日 名誉院長正宗研先生就任。
- 4月13日 診療材料管理システム稼働。
- 平成11年4月1日 院外処方実施（7月から全面実施）。

- 4月1日 第2種感染症指定医療機関（4床）。
- 10月1日 オーダリングシステム運用開始。
- 10月30日 横手病院110周年記念式典。
- 平成12年2月1日 無菌製剤処理加算。
- 5月1日 重症者等療養環境特別加算 10床→15床。
検体検査管理加算取得（算定4月1日）。
- 平成13年4月1日 横手病院前バス路線開設。
- 平成14年4月1日 公立横手病院職員等互助会設立。
- 5月16日 全国自治体病院協議会総会 自治体立優良病院両会長表彰受賞。
- 6月10日 病院機能評価受診準備委員会委嘱。
- 7月1日 新財務会計システム稼動。
- 7月26日 新基本理念策定。
地域の人々に信頼される病院を目指します。
安心できる良質な医療の提供
心ふれあう人間味豊かな対応
- 8月23日 新基本方針策定。
患者さん中心の安全な医療の提供に努めます。
地域医療・保健に貢献します。
健全な病院経営に努めます。
- 平成15年2月13日 自動再来受付機稼動開始。
- 3月31日 正宗名誉院長退任。
- 4月1日 三浦傳名誉院長就任、加藤哲郎顧問就任。
- 4月30日 マスタープラン策定部会答申提出。
- 6月20日 「患者様の権利と責務」策定。
- 8月22日 病床区分を一般病床として届出（250床）。
- 9月12日 「公立横手病院の倫理綱領」策定。
- 10月30日 臨床研修病院の指定を受ける。
- 平成16年1月15日 S A R S 模擬訓練（保健所、消防署、当院）。
- 1月16日 病院機能評価模擬サーベイ（練馬総合病院院長、総師長）。
- 3月1日 公立横手病院広報第1号発行。
- 3月25日～27日 病院機能評価受審。
- 5月27日 自治体立優良病院総務大臣表彰。
- 6月16日 管理職・主任者研修 講師：市長。
- 7月1日 最初の臨床研修医研修開始（小林医師）。
- 7月26日 自治体立優良病院総務大臣表彰祝賀会 ラポート。
- 8月27日 病院教育委員会主催公開講座 かまくら館 講師：湊浩一郎先生。
- 11月1日 外来二交代制試行。
- 平成17年2月8日 第1回病院増改築検討委員会開催。

- 2月10日 病院機能評価窓口相談。
- 5月9日 新CT使用開始。
- 5月30日 日本病院機能評価機構の認定を受ける。
- 6月20日～7月8日 秋田大学医学部地域保健福祉医療包括実習。
- 6月23日 長野県東御市議会が当院を視察。
- 7月26日 兵庫県加西市議会が当院を視察。
- 8月4日 福島県須賀川市議会が当院を視察。
- 9月23日 閉市式 市民会館。
- 10月1日 市町村合併により新横手市誕生、病院名を市立横手病院に変更。
- 平成18年4月25日 市議会厚生労働委員会 病院視察。
- 8月30日 福島県公立藤田病院 視察。
- 平成19年3月1日 レントゲンフィルムレス化運用開始。
- 5月15日 福島県桑折町議会 病院視察。
- 6月18日～7月6日 秋大医学部学生地域包括保健・医療・福祉実習。
- 10月1日 電子カルテ稼働。
- 平成20年6月16日～7月14日 秋大医学部学生地域包括保健・医療・福祉実習。
- 11月8日 日本消化器病学会 市民公開講座（かまくら館）。
- 平成21年2月1日 増改築工事開始。
- 3月6日 病院増築安全祈願祭。
- 4月1日 DPC対象病院に認定。
- 5月1日 麻酔科開設。
- 10月5日 新手術室使用開始。
- 11月16日 新産科病棟使用開始。
- 平成22年3月11日～13日 日本病院機能評価機構 病院機能評価受審。
- 3月31日 長山正四郎院長退任。
- 4月1日 丹羽誠院長就任。
- 4月15日 新館増築（C棟）完成。
- 5月1日 3C、4C病棟稼働。
- 5月6日 新館オープンセレモニー、C棟外来診療開始。
- 5月16日 市医師会による日曜休日診療開始（第1・3・5日曜）。
- 8月6日 日本病院機能評価機構の認定（Ver6.0）を受ける。
- 9月1日 2A、3A病棟稼働。
- 12月1日 3B病棟稼働（一般病床225床体制へ）。
- 12月2日 東北厚生局施設基準監査。
- 平成23年3月11日 14：46東日本大震災発生 停電（復旧12日14：16）、断水等
（復旧12日16：10）の状況下での診療対応。
- 4月1日 新感染症病床稼働（4床）。
- 4月7日 23：32大震災余震発生 停電（復旧8日9：40）、断水等

- (復旧 8 日 17 : 30) の状況下で診療対応。
- 5 月 12 日～16 日 釜石市災害医療応援派遣。
(医師・看護師・PT 等 3 人 1 チーム、延 15 人派遣)
- 5 月 31 日 増改築工事竣工。
- 6 月 1 日 一般病棟入院基本料 (7 : 1) 承認。
- 7 月 30 日 増改築工事竣工式。
- 9 月 1 日 クレジットカード払い開始。
- 平成 24 年 3 月 31 日 長山正四郎先生 横手市病院事業管理者を退任。
- 4 月 1 日 丹羽誠院長 横手市病院事業管理者に就任。
長山正四郎先生 顧問に就任。
- 6 月 1 日 感染対策室を設置 (医療安全管理室より分離)。
- 平成 25 年 4 月 24 日 眼科にて白内障の手術開始 (週 1 回)。

平成 26 年度の主な出来事

- 平成 26 年 4 月 1 日 辞令交付式
- 4 月 1 日～4 日、7 日～11 日 新規採用職員研修。
- 4 月 5 日 地域包括ケア病棟の認定に向けた病棟再編 (亜急性期病床を 3 C 病棟に移動)。
- 4 月 18 日 病院歓送迎会 (シャイニーパレス)。
- 5 月 7 日～30 日 自治医科大 6 年生臨床実習。
- 5 月 12 日～23 日 救急救命士気管挿管病院実習。
- 5 月 26 日～6 月 13 日 秋田大学医学部 6 年次臨床配属。
- 6 月 1 日 レジナビフェア 2014 in 西日本。
- 6 月 2 日～13 日 救急救命士就業前病院実習。
- 6 月 2 日～13 日 救急救命士気管挿管再教育実習。
- 6 月 2 日～7 月 18 日 救急救命士気管挿管養成実習。
- 6 月 5 日～7 月 11 日 助産科実習 (県立衛生看護学院助産科)。
- 6 月 9 日 秋田大学医学部 6 年次臨床配属。
- 7 月 3 日 防災訓練 (上期)。
- 7 月 7 日～8 日、9 日～10 日、14 日～15 日、16 日～17 日 秋田大学医学部 3 年次研修。
- 7 月 20 日 レジナビフェア 2014 in 東京 (東京ビックサイト)。
- 7 月 30 日 ふれあい看護体験。
- 8 月 1 日 在宅療養後方支援病院に認定。
- 8 月 10 日 職員採用試験。
- 8 月 15 日 盆踊り。
- 8 月 22 日 医療安全合同研修会 (市役所 南庁舎講堂)。
- 8 月 31 日 秋田県総合防災訓練。
- 9 月 6 日 全県病院対抗バレーボール大会。

9月13日・20日 研修旅行（仙北市、仙台市）。
9月16日～26日 秋田大学医学部5年次地域医療実習。
10月1日 地域包括ケア病棟に3C病棟が認定。
10月1日～11月6日 救急救命士再教育病院実習。
10月1日、18日 研修旅行（仙北市）。
10月7日・21日 秋大医学部1年次チーム医療体験実習。
10月12日 病院祭。
10月18日～19日、29日～30日 研修旅行（東京都）。
10月22日～23日、25日～26日 研修旅行（横浜・鎌倉）。
10月24日 防災訓練（下期）。
10月31日 第16回コメディカル研究発表会。
11月4日 地域医療連携セミナー。
11月4日・18日 秋大医学部1年次チーム医療体験実習。
11月11日 機能評価プレ受審。
11月21日 メンタルヘルス研修会。
11月22日 市民と集う看護フォーラム。
11月23日 第22回秋田県医療学術交流会学術大会（秋田市）。
11月28日、12月3日 接遇・個人情報保護研修会。
12月5日 医療監視。
12月16日 医療安全研修会。
12月19日 大忘年会（ラ・ポート）。
12月23日 第21回白衣のクリスマスコンサート。
平成27年1月5日 年始式。
2月9日 救急症例検討会。
2月10日 臨床研修病院合同説明会（秋田大学）。
2月16日～20日 救急救命士気管挿管追加実習。
2月14日 病院かまくら。
3月13日 病院送別会（シャイニーパレス）。
3月18日～19日 日本病院機能評価機構 病院機能評価（3rdG：Ver.1.0）受審。
3月19日～20日 病院機能評価訪問審査。
3月24日・31日 退職者辞令交付式。
3月27日 保険診療研修会。

基本理念

地域の人々に信頼される病院を目指します。

安心できる良質な医療の提供

心ふれあう人間味豊かな対応

基本方針

1. 患者さん中心の安全な医療の提供につとめます。
2. 地域医療・保健に貢献します。
3. 健全な病院経営につとめます。

市立横手病院の倫理綱領

我々市立横手病院で働く者は、地域の医療機関や行政機関等との連携を図りながら、公平、公正な医療を提供し、地域住民の健康の維持・増進を図り、地域の発展に貢献することを使命とする。

その守るべき行動規範は次の通り定める。

1 医療の質の向上

我々は医療の質の向上につとめ、人格教養を高めることによって、全人的医療を目指す。

2 医療記録の適正管理

我々は医療記録を適正に管理し、その情報を原則として開示する。

3 患者中心の医療の確立

我々は患者様に対し、パートナーとしての認識を持ち、十分な説明と同意のもとに医療を提供し、患者様の権利を擁護し、プライバシーの保護に努める。

4 安全管理の徹底

我々は安心して医療を受けられる環境を整備し、職員の安全教育を推進する。

5 地域社会との連携の推進

我々は地域の人々とは勿論のこと、地域の医療機関や福祉保健施設との緊密な連携に努める。

6 健全経営の確保

我々は公共性を確保すると共に、合理的かつ効率的な病院経営につとめ、健全で自立した経営基盤を確立する。

患者様の権利と責務

(患者さんの権利)

1. 良質で安全な医療を公平に受ける権利があります。
2. プライバシーを尊重される権利があります。
3. 診断・治療・経過について十分な説明を受ける権利があります。
4. 治療法を選択し、同意の上で医療を受ける権利があります。
5. 他の医師・医療機関の意見（セカンドオピニオン）を聞く権利があります。
6. 診療内容や療養環境の不满などを申し出る権利があります。

(患者さんの責務)

7. 自分の健康に関する情報を正確に伝える責務があります。
8. 自分の病気や治療について十分理解するよう努める責務があります。
9. 同意した方針による検査や治療に積極的に取り組む責務があります。
10. 快適な環境で医療を受けられるよう、病院の規則や病院職員の指示を守る責務があります。
11. 社会的なマナーを守り、他の患者さんに迷惑をかけないようにする責務があります。

病院の概要

病院の概要

開設者	横手市長 高 橋 大
名称	公立横手病院（平成17年9月30日まで） 市立横手病院（平成17年10月1日から）
所在地	秋田県横手市根岸町5番31号
開設年月日	明治22年12月15日
事業管理者	丹 羽 誠
病床数	一般病床225床（2 A病棟39床、3 A病棟49床、3 B病棟44床、3 C病棟47床、 4 C病棟46床）、感染症病床4床 計229床
診療科目	内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、アレルギー科、心療内科、外科、 整形外科、小児科、産婦人科、眼科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、 麻酔科
看護師配置基準	7 : 1

医療機関の指定等

指 定

救急告示病院
地域医療センター病院
母性保護法指定設備医療機関
保険医療機関
労災保険指定医療病院
労災保険二次健康診断指定医療機関
指定自立支援医療機関（更正医療）
指定自立支援医療機関（育成医療）
身体障害者福祉法指定医の配置されている医療機関
精神保健指定医の配置されている医療機関
生活保護法指定医療機関
母子保護法による指定養育医療機関
原子爆弾被害者一般疾病医療取扱医療機関
原爆被爆者健康診断委託医療機関
第二種感染症指定医療機関
臨床研修病院指定施設
肝疾患診療専門医療機関
特定疾患治療研究事業委託医療機関
D P C 対象病院
小児慢性特定疾患治療研究事業委託医療機関

認 定

財団法人日本医療機能評価機構認定
 日本内科学会認定医制度教育関連病院
 日本消化器内視鏡学会指導施設
 日本消化器病学会専門医制度認定施設
 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設
 日本呼吸器学会関連施設
 日本アレルギー学会教育施設
 日本外科学会外科専門医制度関連施設
 日本整形外科学会専門医制度研修施設
 日本がん治療認定医機構認定研修施設
 日本麻酔科学会認定病院
 日本緩和医療学会認定研修施設
 日本ペインクリニック学会専門医認定指定研修施設
 日本周産期・新生児医学会暫定研修施設
 母体保護法指定医師研修機関（県医師会）
 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設
 日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設
 医療被ばく低減認定施設
 日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設

病院施設の概要

敷地面積	8,172.16㎡
建築面積	4,793.60㎡

	構造	延面積(㎡)	完成年月日
本館（A棟）	鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階建、塔屋2階	5,130.66	昭和60年8月24日
新館（B棟）	鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階、塔屋1階	6,389.99	平成4年7月31日
本館（C棟）	鉄筋コンクリート造、地上4階、塔屋1階	4,524.95	平成22年4月15日
計		16,045.60	

病院統計

収支決算

貸借対照表

(単位:円)

	平成 26 年度
固定資産	4,532,935,480
有形固定資産	4,531,907,900
土地	387,443,919
建物	3,274,310,668
構築物	19,795,426
器械及び備品	841,852,773
車両	8,505,114
建設仮勘定	0
無形固定資産	1,027,580
電話加入権	1,027,580
流動資産	2,457,446,227
現金預金	1,484,271,347
未収金	928,512,738
貯蔵品	44,662,142
その他流動資産	0
資産合計	6,990,381,707
固定負債	3,431,676,470
企業債	2,775,449,470
引当金	656,227,000
流動負債	742,939,488
一時借入金	0
企業債	393,788,000
未払金	191,890,601
引当金	130,314,000
預り金	26,946,887
預り有価証券	0
繰延収益	5,211,590
長期前受金	5,211,590
負債合計	4,179,827,548
資本金	3,636,683,153
剰余金	△ 826,128,994
利益剰余金	△ 826,128,994
減債積立金	18,400,000
当年度未処理欠損金	844,528,994
資本合計	2,810,554,159
負債資本合計	6,990,381,707

収益的収支決算（税抜き）

（単位：円）

科目	平成 26 年度
病院事業収益	5, 103, 924, 370
医業収益	4, 766, 465, 789
入院収益	2, 933, 858, 457
外来収益	1, 573, 556, 068
その他医業	259, 051, 264
医業外収益	337, 428, 066
受取利息及び配当金	625, 795
国県補助金	8, 614, 244
他会計補助金	5, 861, 100
他会計負担金	294, 866, 000
長期前受金戻入	432, 410
その他医業外収益	27, 028, 517
特別利益	30, 515
病院事業費用	6, 031, 549, 674
医業費用	5, 193, 442, 597
給与費	2, 929, 294, 594
材料費	1, 241, 925, 039
経費	604, 852, 964
減価償却費	395, 374, 993
資産減耗費	3, 782, 044
研究研修費	18, 163, 763
重量税	49, 200
医業外費用	63, 713, 738
支払利息及び企業債取扱諸費	56, 996, 353
雑損失	6, 717, 385
特別損失	774, 393, 339
当年度純損失	927, 625, 304
前年度繰越利益剰余金	101, 496, 310
当年度末処分利益剰余金	△ 826, 128, 994

資本的収支決算

資本的収入	221, 632, 000
他会計出資金	100, 770, 000
企業債	118, 000, 000
国県補助金	2, 862, 000
固定資産売却代金	0
資本的支出	548, 496, 721
建設改良費	163, 778, 038
企業債償還金	384, 718, 683
差引収支不足額	△ 326, 864, 721
補てん財源	326, 864, 721
過年度分損益勘定留保資金	326, 864, 721

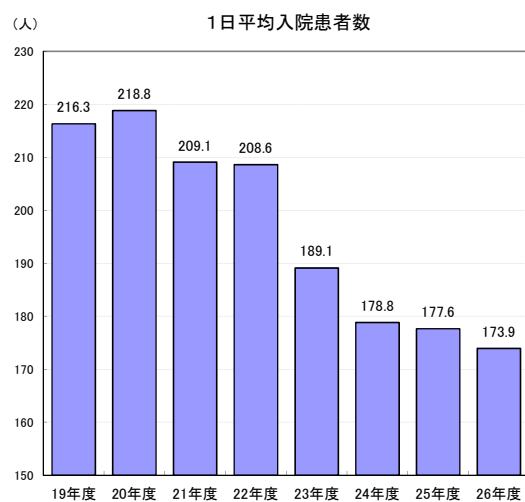
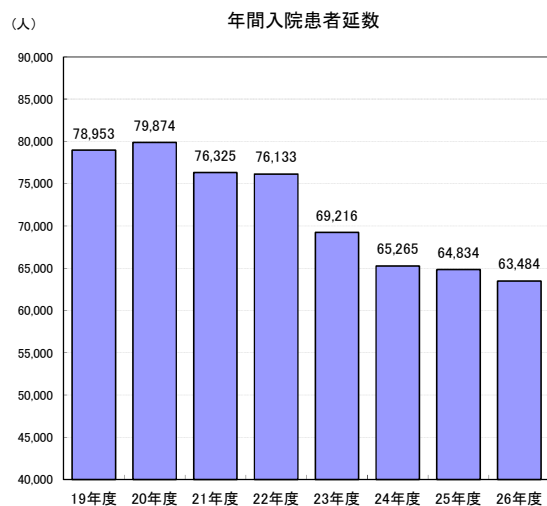
診療科別入院患者数

(単位:人)

科	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	内科	8,256	3,174	2,345	2,331	2,520	2,577	2,754
呼吸器内科	7,494	7,309	8,280	5,289	4,839	5,609		
消化器内科	24,822	27,180	28,561	30,189	25,897	23,316	26,692	25,217
循環器内科	9,540	12,732	6,643	5,724	5,496	6,503	6,196	5,938
外科	13,653	13,981	12,718	12,220	10,849	9,638	10,819	9,753
整形外科	4,895	5,745	9,992	10,978	10,117	9,191	10,093	9,473
産婦人科	3,169	3,446	3,025	4,029	4,506	3,593	3,639	4,146
小児科	3,842	3,562	2,475	2,735	2,533	2,743	1,793	1,446
泌尿器科	3,282	2,745	2,236	2,535	2,350	1,991	2,534	3,495
眼科							176	188
麻酔科			50	103	109	104	138	81
計	78,953	79,874	76,325	76,133	69,216	65,265	64,834	63,484

(単位:人)

科	1日平均入院患者数							
	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
内科	22.6	8.7	6.4	6.4	6.9	7.1	7.5	10.3
呼吸器内科	20.5	20	22.7	14.5	13.2	15.4		
消化器内科	68	74.5	78.2	82.7	70.8	63.9	73.1	69.1
循環器内科	26.1	34.9	18.2	15.7	15.0	17.8	17.0	16.3
外科	37.4	38.3	34.8	33.5	29.6	26.4	29.6	26.7
整形外科	13.4	15.7	27.4	30.1	27.6	25.2	27.7	26.0
産婦人科	8.7	9.4	8.3	11	12.3	9.8	10.0	11.4
小児科	10.5	9.8	6.8	7.5	6.9	7.5	4.9	4.0
泌尿器科	9	7.5	6.1	6.9	6.4	5.5	6.9	9.6
眼科							0.5	0.5
麻酔科				0.3	0.3	0.3	0.4	0.2
計	216.3	218.8	209.1	208.6	189.1	178.8	177.6	173.9



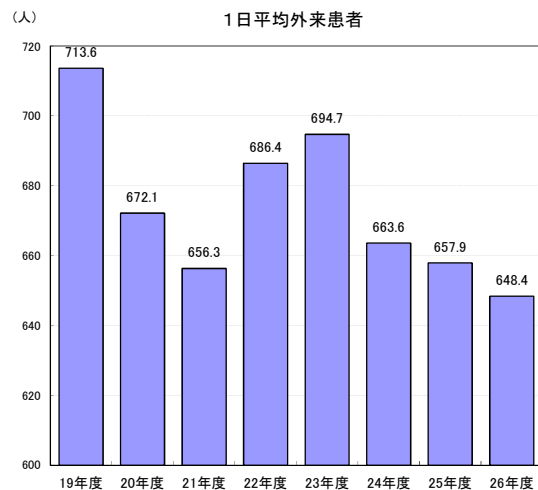
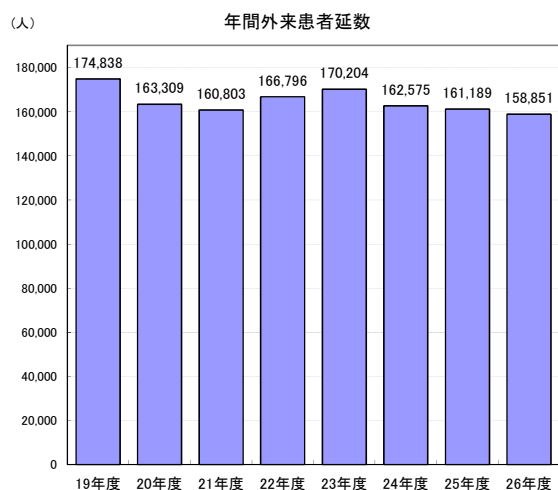
診療科別外来患者数

(単位:人)

科	年間外来患者延数							
	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
内科	46,973	43,193	43,365	42,841	42,030	39,805	39,731	36,302
呼吸器内科	5,078	5,388	4,740	4,557	4,801	5,082	2,467	1,843
消化器内科	17,060	17,725	18,719	20,588	21,284	20,333	21,982	26,434
循環器内科	14,425	13,288	11,300	11,372	11,199	10,868	11,277	10,680
外科	15,473	15,050	14,432	15,292	16,662	16,008	14,590	15,065
整形外科	20,321	17,968	19,717	22,205	24,977	24,718	25,065	23,726
産婦人科	7,032	6,814	6,432	7,346	8,175	7,444	7,342	7,104
小児科	33,790	30,118	26,896	26,017	23,792	21,458	19,498	17,483
泌尿器科	13,377	12,557	13,330	13,746	14,437	14,030	15,568	16,227
眼科	1,309	1,208	1,571	2,070	2,095	2,125	2,710	2,866
麻酔科			301	762	752	704	959	1,121
計	174,838	163,309	160,803	166,796	170,204	162,575	161,189	158,851

(単位:人)

科	1日平均外来患者数							
	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
内科	191.7	177.7	177	176.3	171.6	162.5	162.2	148.2
呼吸器内科	20.7	22.2	19.3	18.8	19.6	20.7	10.1	7.5
消化器内科	69.6	72.9	76.4	84.7	86.9	83.0	89.7	107.9
循環器内科	58.9	54.7	46.1	46.8	45.7	44.4	46.0	43.6
外科	63.2	61.9	58.9	62.9	68.0	65.3	59.6	61.5
整形外科	82.9	73.9	80.5	91.4	101.9	100.9	102.3	96.8
産婦人科	28.7	28	26.3	30.2	33.4	30.4	30.0	29.0
小児科	137.9	123.9	109.8	107.1	97.1	87.6	79.6	71.4
泌尿器科	54.6	51.7	54.4	56.6	58.9	57.3	63.5	66.2
眼科	5.3	5	6.4	8.5	8.6	8.7	11.1	11.7
麻酔科					3.1	2.9	3.9	4.6
計	713.6	672.1	656.3	686.4	694.7	663.6	657.9	648.4



新患患者数（外来）

（単位：人）

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
内科	916	817	936	881	852	808	803	582
外科	206	156	152	155	180	150	103	106
整形外科	281	239	289	428	379	398	446	397
婦人科	118	102	88	124	108	92	61	51
小児科	563	343	375	327	344	312	270	279
泌尿器科	62	46	42	64	59	60	68	55
眼科	4	0	7	7	7	11	19	16
心療内科	3	1	3	1	3	0	1	7
アレルギー・呼吸器内科	75	68	15	6	6	7	3	1
消化器内科	255	215	185	143	112	102	130	276
循環器内科	85	43	6	16	8	8	4	4
放射線科	4	19	11	62	19	16	14	14
人工透析	3	1	0	0	5	3	9	6
麻酔科（ペインクリニック）	0	0	8	6	5	1	9	7
合計	2,575	2,050	2,117	2,220	2,087	1,968	1,940	1,801

再診患者数（外来・延べ）

（単位：人）

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
内科	29,806	27,177	27,669	28,032	25,922	24,541	23,965	22,441
外科	12,296	11,934	11,599	12,184	13,118	12,459	10,965	11,318
整形外科	15,733	14,313	15,691	17,627	20,239	20,044	20,233	19,145
婦人科	4,308	4,220	4,314	4,752	5,564	5,287	5,116	5,017
小児科	21,882	19,795	16,592	16,582	15,020	13,432	12,244	10,000
泌尿器科	5,655	4,773	5,120	5,473	6,054	6,200	7,312	7,717
眼科	1,028	1,009	1,236	1,615	1,723	1,805	2,323	2,487
心療内科	1,674	1,467	1,518	794	1,300	1,023	777	755
アレルギー・呼吸器内科	4,065	4,407	3,987	3,898	4,000	4,322	2,120	1,542
消化器内科	13,764	14,594	15,399	17,003	17,331	16,620	17,586	20,168
循環器内科	11,440	10,961	9,476	9,354	9,024	8,821	8,884	8,499
放射線科	73	72	100	112	82	109	97	111
人工透析	1,877	2,154	1,436	1,035	824	643	914	979
麻酔科（ペインクリニック）	5,932	6,312	239	642	637	619	825	950
合計	129,533	123,188	120,919	125,424	120,838	115,925	113,361	111,129

地域別患者数の状況

【入院】

(単位:人)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
横手市	35,090	33,944	34,190	32,871	29,710	26,370	26,175	24,706
平鹿町	8,338	8,707	9,029	8,000	6,828	6,571	7,162	5,715
雄物川町	3,737	3,837	4,140	3,820	3,422	2,353	2,652	3,341
大森町	709	866	1,161	673	1067	952	607	906
大雄	2,278	2,340	1,939	2,283	2,179	2,454	1,698	1,796
十文字町	6,519	6,782	5,614	6,482	5,759	5,703	5,256	5,845
増田町	3,922	3,964	2,535	3,015	3,090	3,003	2,732	3,123
山内	4,376	3,745	3,803	3,191	2,801	3,335	2,997	3,129
美郷町	1,868	1,513	1,250	323	743	994	724	642
湯沢・雄勝	8,651	10,576	8,620	9,009	8,941	8,056	9,809	9,956
大仙・仙北	2,347	2,564	3,057	3,326	3,045	3,584	3,100	2,910
湯田町	693	463	477	935	666	843	761	566
その他	425	573	510	2,205	965	1,047	1,161	849
合計	78,953	79,874	76,325	76,133	69,216	65,265	64,834	63,484

【外来】

(単位:人)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
横手市	88,798	80,959	78,338	79,024	81,530	76,465	73,871	70,338
平鹿町	17,941	16,359	16,239	16,547	16,888	16,087	15,614	15,266
雄物川町	9,809	8,606	8,533	8,878	8,686	7,886	8,150	8,291
大森町	2,809	2,663	2,401	2,315	2522	2,486	2,487	2,430
大雄	5,792	5,711	5,339	4,782	4,814	4,581	4,142	4,131
十文字町	11,682	11,611	11,951	12,529	13,022	12,281	12,519	12,387
増田町	6,515	6,233	6,045	6,592	6,495	6,301	6,485	6,546
山内	7,001	6,173	6,006	5,903	5,836	5,865	6,165	5,779
美郷町	3,926	3,128	2,957	1,275	2487	2,680	2,636	2,450
湯沢・雄勝	13,473	14,463	14,884	16,370	17,662	17,731	18,866	20,697
大仙・仙北	4,738	5,176	5,479	7,885	6,519	6,778	6,727	6,827
湯田町	820	840	773	1,018	1131	1,210	1,326	1,180
その他	1,534	1,387	1,858	3,678	2,612	2,224	2,201	2,529
合計	174,838	163,309	160,803	166,796	170,204	162,575	161,189	158,851

紹介患者数（科別）

（単位：人）

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
内 科	316	167	165	175	147	172	177	219
消化器内科	664	746	770	916	893	785	897	927
循環器内科	188	130	124	136	143	188	284	200
アレルギー・呼吸器内科	106	80	95	72	78	88	5	14
外 科	124	132	125	140	173	151	131	160
整形外科	248	246	315	332	421	394	492	447
婦 人 科	169	156	181	199	215	208	197	216
小 児 科	375	310	291	272	270	302	223	239
泌尿器科	69	112	89	99	97	119	126	115
眼 科	4	6	17	45	56	57	88	67
心療内科	20	9	9	12	6	3	1	6
麻 酔 科			20	15	15	13	18	22
放射線科	590	712	760	712	624	678	690	754
計	2,873	2,806	2,961	3,125	3,138	3,158	3,329	3,386

救急患者統計

救急患者数	救急車		その他		帰宅		入院		転送		その他		軽症		中等症		重症		死亡	
	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
19年度	14,694	701	13,993	93.5%	13,732	93.5%	896	6.1%	31	0.2%	35	0.2%	13,763	93.7%	584	4.0%	312	2.1%	35	0.2%
20年度	12,070	680	11,390	92.8%	11,201	92.8%	808	6.7%	32	0.3%	29	0.2%	11,232	93.1%	490	4.1%	318	2.6%	29	0.2%
21年度	12,946	706	12,240	93.1%	12,057	93.1%	821	6.3%	33	0.3%	35	0.3%	12,085	93.3%	486	3.8%	335	2.6%	35	0.3%
22年度	11,241	882	10,359	92.1%	9,311	82.8%	892	7.9%	27	0.2%	35	0.3%	10,314	91.8%	556	4.9%	336	3.0%	35	0.3%
23年度	11,507	959	10,548	91.6%	10,541	91.6%	873	7.6%	38	0.3%	50	0.5%	10,582	92.0%	577	5.0%	297	2.6%	50	0.4%
24年度	11,404	893	10,511	92.1%	10,325	90.9%	944	8.3%	37	0.3%	48	0.5%	10,361	91.3%	638	5.6%	307	2.7%	48	0.4%
25年度	10,210	867	9,343	91.6%	9,235	81.3%	905	8.0%	26	0.2%	44	0.5%	9,261	81.6%	620	5.5%	285	2.5%	44	0.4%
26年度	10,223	955	9,268	91.3%	9,182	80.9%	961	8.5%	36	0.3%	44	0.5%	9,218	81.2%	706	6.2%	255	2.2%	44	0.4%

	内科	小児科	整形外科	外科	産婦人科	泌尿器科	眼科	計
19年度	5,193	7,286	995	913	160	146	1	14,694
20年度	4,366	5,766	803	893	104	136	2	12,070
21年度	4,769	6,480	810	595	173	114	5	12,946
22年度	4,336	4,733	1,038	808	173	143	10	11,241
23年度	4,576	4,761	994	800	214	156	6	11,507
24年度	4,782	4,349	1,070	844	200	150	9	11,404
25年度	4,113	3,802	1,064	804	236	184	7	10,210
26年度	4,306	3,625	1,083	743	235	222	9	10,223

横手市内のみ

	横手市	増田町	平鹿町	雄物川町	大森町	十文字町	山内	大雄	計
19年度	6,702	720	1,564	795	273	1,235	674	535	12,498
20年度	5,288	575	1,342	656	192	1,112	564	447	10,176
21年度	5,791	632	1,392	695	249	1,181	605	438	10,983
22年度	5,165	497	1,201	571	147	1,016	488	369	9,454
23年度	5,213	543	1,212	581	147	990	561	348	9,595
24年度	5,242	536	1,233	460	148	990	505	373	9,487
25年度	4,436	493	1,105	512	154	880	414	319	8,313
26年度	4,363	1,074	548	933	161	499	348	1952	9,878

部門報告

診療科

内科

脳神経内科

スタッフ：医師 塩屋 斉
外来診察助手 工藤朋子（4/1-9/30）、西尾華奈子（10/1-）

診療時間：午前は8時45分から、午後は1時30分から

診療内容：月曜日（午後）・・・頭痛外来
火曜日（午後）・・・脳ドック
水曜日（午前・午後）・・・頭痛外来
木曜日（午前）・・・頭痛・脳神経内科
金曜日（午前）・・・頭痛・脳神経内科

平成26年度頭痛初診患者数：総計768人（男性193人、女性575人）

片頭痛：567人（男性122人、女性445人）
緊張型頭痛：121人（男性33人、女性88人）
群発頭痛：14人（男性11人、女性3人）
神経痛：67人（男性22人、女性45人）
副鼻腔炎：18人（男性5人、女性13人）
その他（くも膜下出血、脳出血、脳腫瘍、他）：17人
上記の頭痛初診患者さんの中で薬物乱用頭痛は76人で全体の9.9%を占めていた

平成26年度疾患別入院患者数：総計50人

脳梗塞：38人
脳出血：6人
片頭痛発作：3人
てんかん発作：2人
急性硬膜下血腫：1人

「講演・学会発表」：

平成26年3月6日（木）
市立横手病院「出前健康講座」
「脳卒中にならないために」
横手市大雄耳取集落会館

平成26年11月14日（金）
第42回日本頭痛学会総会
「頭痛診療のヒヤリ・ハット（medical incident）：秋田県横手市での8年の経験から」
海峡メッセ下関

<文責 塩屋 斉>

消化器内科

消化器内科医師

船岡 正人	
藤盛 修成	
奥山 厚	
武内 郷子	
杉本 侑孝	
三浦 孝也	
渡邊 健太	
姉崎有美子	
中島 裕子	(週 2 回腹部超音波検査担当)
佐藤美知子	(週 1 回腹部超音波検査担当)
渡部 昇	(週 1 回内視鏡検査担当)
鈴木 優響	(週 1 回内視鏡担当)

4 月から荒田英先生が秋田大学第一内科へ異動、秋田大学第一内科から杉本侑孝先生が当院へ異動となった。杉本先生には主に消化器系の common disease、高齢の患者さんなど市中病院での一般的な診療にあたっていただいた。1 年は短いと思われたが、この経験が将来役に立てばよいと思う。3 年目の三浦先生、渡邊先生は胃粘膜下層剥離術、内視鏡的十二指腸乳頭切開術など消化器系の手技が著しく上達したのに加え、高齢者の誤嚥性肺炎や尿路感染症、その他一般内科疾患にも幅広く対応していただいた。消化器センターではここ数年、近隣施設からの紹介が増えていると実感しており、そのため検査や処置の数も増えている。医師はそれぞれあいかわらず忙しいが、消化器センターのスタッフはそれ以上に多忙な毎日であった。スタッフの皆さん本当にありがとうございます。学会発表では 2015 年 2 月 6 日の第 154 回日本消化器内視鏡学会東北支部例会で、研修医の伊藤周一先生が優秀演題として表彰された。当科では渡部昇先生、渡邊健太先生につづき 3 人目の受賞である。消化器の施設として誇れることだと思う。また、この 1 年で杉本先生と渡邊先生の 2 人が結婚されるというおめでたいことがあった。次年度もみなさんががんばりましょう。

平成 26 年度の内視鏡検査件数

上部消化管内視鏡検査 (総数)	6,473
胃粘膜下層剥離術・粘膜切除術	88
胃、十二指腸ステント留置術	10
食道粘膜下層剥離術	14
胃瘻造設術	48
食道静脈瘤硬化療法・結紮術	34
ERCP	21
EST・胆道ステント留置	76
大腸内視鏡検査 (総数)	2,746
粘膜切除・ポリープ切除術	659
計	9,219

<文責 船岡正人>

循環器内科

スタッフ

常勤医師

循環器内科科長

根本 敏史 (平成15年5月1日から 現在在職中)

和泉千香子 (平成8年6月1日から 現在在職中)

高木 遥子 (平成23年4月1日から 現在在職中)

検査技師

平塚多喜雄 (生理検査室)

川越 弦 (臨床工学技士)

柏谷 肇 (臨床工学技士)

外来診察助手 (循環器内科担当)

金子 洋子

西尾華奈子

検査 (平成26年4月1日から平成27年3月31日)

心臓カテーテル検査	35件
心臓超音波検査	1,799件 (経食道心臓超音波検査含む)
ホルター心電図	383件
トレッドミル	4件
24時間心電血圧計	9件
ペースメーカー植え込み	14件 (新規 9、交換 5)
体外ペーシング	3件
下大静脈フィルター留置	2件
血圧脈波検査	474件

業務内容としては、心臓カテーテル検査、ペースメーカー植え込み、下大静脈フィルター留置件数など、例年通りの一年であった。ここ数年は、人事異動もなく、変わらないメンバーで、淡々と業務をこなしている毎日である。

外来に関して言えば、慢性疾患で通院している患者が多いため、患者年齢が年々上がってきており、10年近く通院していた患者が、高齢になり通院できなくなったり、施設入所などで紹介したケースが多かったように思う。

また、診療においては、心房細動に対する抗凝固療法に新しい薬が使えるようになり、その管理が従来と変わってきている。脳梗塞予防のため、積極的に導入するべきというガイドラインもあり、心房細動を主訴に、他科・近医より紹介されることも増えた印象である。新しい抗凝固薬は数種類あるが、その使い方・使い分けなどは、まだまだ分からない部分もあるが、ワーファリンに替わる抗凝固療法の主流となる治療であり、研鑽と経験を積んでいきたいと思う。

<文責 和泉千香子>

心療内科

心療内科は毎週火曜日（午前、午後）、金曜日（午後のみ）と診療を行っている。完全予約制で、スタッフは医師一名（榊田理恵）、看護師一名（赤平綾子）の体制である。

平成24年度は4月1日から、外部からの新規の外来患者受付は停止している。ただし、入院病棟および外来担当医を介しての新規外来患者の受け付けは、相談内容により受ける場合も増えている。

火曜日・金曜日とも、榊田理恵が外来を担当している。外来のほか依頼を受けて入院でも診療している。子どもの心療内科であるため、15歳以下の子どもの受診は多い。状態・疾患では、抑うつ神経症が最も多く、他に発達障害（広汎性発達障害、自閉症など）、である。「子どもの心療内科」ではあるが、地域医療における心療内科部門のプライマリ・ケアとも考える側面があるため、診療は年齢及び疾患においても多岐に渡り、ターミナルケア、老年期のうつ、などに及んでいる。成人期になって、上記の発達障害の診断に至る方も増えている。受診人数は約10～20人／日である。一人につき30分を目安としている。初診の場合も同様の時間となる場合も多い。問診および生活状況を確認し、鑑別疾患を挙げるものの、誤診に至りがちな先入観を防ぐためでもある。また、看護師との役割分担においても、看護サイドの受容的かわりにより、受診される方の自己治癒力が引き出されている。隣接する精神科病院の興生病院の協力も得て臨床心理士による詳細な心理検査を行っている。さらに興生病院の協力もあって、カウンセリングも導入している。成人期でも有効ではあるが、子供の場合、著効あり、今後も継続する方針である。火曜日、金曜日に臨床心理士によるカウンセリング、箱庭療法、プレイセラピーなどを定期的に行っている。

<文責 榊田理恵>

外科

総括

消化器を中心に乳腺内分泌疾患、呼吸器疾患を担当した。岩崎医師の当院への異動により内視鏡外科手術体制の強化が期待された。

秋田大学呼吸器外科のご配慮で平成25年10月から隔週の呼吸器外科外来が開設された。

スタッフ

常勤

- ・丹羽 誠（S55秋田卒） 院長
- ・吉岡 浩（S59自治卒） 副院長
- ・伊勢 憲人（H9秋田卒） 科長
- ・岩崎 渉（H14秋田卒） 科長 平成26年4月に秋田赤十字病院外科から異動
- ・本郷麻依子（H20秋田卒） 医員
- ・高橋 香奈（H23秋田卒） 医員 平成26年9月に秋田大学消化器外科から派遣

専門医修練認定施設関係

- ・日本外科学会専門医制度関連施設
- ・日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設
- ・日本消化器病学会専門医制度認定施設
- ・日本緩和医療学会認定研修施設

人事動向

- ・丹羽院長には乳腺の大部分の手術に携わっていただいた。専門外来開設後、平成26年も前年に比し、乳腺外来数・乳腺手術数が増加した。また、多忙にもかかわらず外科診療については引き続き御指導いただいた。
- ・伊勢医師が平成24年に赴任後、内視鏡外科手術症例が増加し、岩崎医師が平成26年4月に秋田赤十字病院外科から異動となり、内視鏡外科手術体制の強化が期待された。
- ・本郷医師は、3年間の外科専門研修が終了し、平成25年秋に外科専門医試験をうけ、平成26年1月に外科専門医資格を取得した。

診療関係

- ・リンパ浮腫外来を月2回秋田大学医学部看護学科高階先生が担当して下さった。ストマ外来は当院WOC高橋美夏子看護師が月2回担当した。リンパ浮腫外来は秋田市以外では唯一である。
- ・専門外来の乳腺外来は、週2回完全予約制で、丹羽院長が担当した。前述したように確実に患者さんの増加もあり、手術症例の増加につながったと思われる。
- ・平成21年に待望していた麻酔科常勤医寺田先生（麻酔学会指導医）を得て、手術日程の余裕が大きく広がった。横手市梅の木クリニック松元茂先生には月間6～7日の午後からの麻酔にご協力をお願いした。また、岩手医科大学、柴田繁哲先生には毎週（木）＋手術繁忙期の麻酔を担当いただいた。平成24年9月から本郷修平医師が麻酔科・専門研修に従事となった。寺田先生・

松元先生・柴田先生・本郷先生の御協力によって、手術症例が増えるなかでもスムーズに手術が行える体制をしいていただいた。

- ・秋田大学呼吸器外科のご配慮で、平成25年10月から隔週の呼吸器外科外来が開設になった。
- ・DPC診療体制にあわせたパスの整備、退院調整に努めた。
- ・ソケイヘルニアについては、腹腔鏡下手術を導入した。
- ・病棟での連携（医師同士、看護師、薬剤師、リハビリ、事務）を心がけ、週1回金曜日午後のカンファランスを丁寧に行うように努めた。

＜文責 吉岡 浩＞

2014年 手術件数

		件数	備考
食道悪性疾患		2	鏡視下手術 1
胃十二指腸悪性疾患	胃全摘	19	鏡視下手術 7
	幽門側胃切除	29	鏡視下手術 19
	幽門保存胃切除		
	噴門側胃切除		
	その他	5	鏡視下手術 2
胃十二指腸良性疾患		3	鏡視下手術 2
小腸悪性疾患		1	
大腸悪性疾患	結腸切除	27	鏡視下手術 18
	直腸切除	25	鏡視下手術 24
	直腸切断	1	鏡視下手術 1
	その他	12	
腸良性疾患		21	鏡視下手術 5
肝悪性疾患	2区域切除以上	1	
	区域切除		
	部分切除	4	
	マイクロ波凝固		
	その他		
肝良性疾患			
胆嚢悪性疾患	肝切除		
	胆管切除		
	膵頭十二指腸切除		
	その他		
胆管悪性疾患	肝切除		
	胆管切除	2	
	膵頭十二指腸切除		
	その他	1	
胆道良性疾患		1	

胆石症		16	鏡視下手術 15
膵悪性疾患	膵頭十二指腸切除		
	膵体尾部切除	1	
	膵全摘		
	その他		
膵良性疾患	膵炎手術		
	その他		
虫垂炎手術		30	鏡視下手術 30
ヘルニア手術	鼠径ヘルニア	38	鏡視下手術 20
	大腿ヘルニア	3	
	閉鎖孔ヘルニア	3	
	臍ヘルニア		
	腹壁癒痕ヘルニア	2	
	横隔膜ヘルニア	1	鏡視下手術 1
肛門良性疾患		14	
その他		14	
計		276	鏡視下手術 145

呼吸器疾患	肺	2	鏡視下手術 2を含む
	縦隔		
	横隔膜		
乳腺疾患		27	
甲状腺疾患		3	

その他		67	
-----	--	----	--

2014年小児手術数

		2014年
呼吸器	先天性	
	後天性	
消化器	先天性	
	後天性	4 (鏡視下手術4)
肝・胆・膵・脾臓	先天性	
	後天性	
泌尿生殖器	先天性	
	後天性	
胸壁	先天性	
	後天性	
腹壁	先天性	2

(ソケイヘルニア、臍ヘルニアを含む) 後天性
 頭頸部 先天性
 後天性

悪性腫瘍

良性腫瘍

その他(CVC)

総手術数	6
------	---

新生児手術数

学会発表

2014年

全国学会

- 第27回日本内視鏡外科学会総会，10月，盛岡
 伊勢憲人，吉岡麻依子，吉岡 浩，丹羽 誠，岩崎 渉
 地方の小病院における腹腔鏡下胃切除術の導入と短期成績
- 第69回日本消化器外科学会総会，7月，郡山
 岩崎 渉，吉岡麻依子，伊勢憲人，大内慎一郎，小棚木均
 タブレット端末を用いた2施設間での腹腔鏡下手術教育システム
- 日本超音波医学会第87回学術集会，5月，横浜
 本郷麻依子，長沼裕子，渡邊健太，小丹まゆみ，石田秀明，渡部多佳子，大山葉子，
 櫻庭里美，黒田聖仁
 High frame造影超音波検査が腫瘍塞栓の診断確定に有効であった2例
- 日本超音波医学会第87回学術集会，5月，横浜
 本郷麻依子，長沼裕子，石田秀明，渡部多佳子，小松田智也，八木澤仁，大山葉子，長井 裕
 超音波診断上興味ある鏡像（Chagall phenomenon）について

地方会

- 日本超音波医学会東北地方会第48回学術集会，9月，山形
 本郷麻依子，長沼裕子，石田秀明，大山葉子，渡部多佳子，船岡正人，伊藤恵子，
 須田亜衣子
 肝左葉内側区域の走査方法の検討
- 日本超音波医学会東北地方会第47回学術集会，3月，仙台
 本郷麻依子，石田秀明，長沼裕子，大山葉子，渡部多佳子，長井 裕
 超音波診断上興味ある鏡像（Chagall phenomenon）について

整形外科

スタッフ

平成26年4月1日現在のスタッフ氏名

医師：江畑公仁男

富岡 立

湯浅 悠介

看護師：小野ゆう子

遠藤亜希子

清水まゆ美

事務：藤原真喜子

概要、平成26年度特記事項、業務内容

【外来】

平成26年4月より菊池一馬医師と交代で湯浅悠介医師が大学医局より派遣され、常勤医3名体制で業務が行われることとなった。湯浅医師はそのバイタリティーとフットワークの軽さで外傷手術・救急対応・検査と活躍し、数ヶ月で中堅医師と同様の業務内容をこなせるようになった。

外来患者数 1,978人/月、紹介率 22.9%であった。

【入院】

入院患者総数 9,473人/年、26.0人/日、平均在院日数は22.9日であった。前年より入院患者数は若干の減少となった。

手術件数

総数	402
----	-----

脊椎	120
----	-----

腰椎 ヘルニア切除術 36

開窓術 28

PLIF 39

胸椎 2

頸椎 11

その他 4

上肢帯	18
-----	----

骨接合術 8

肘部管開放術 6

その他 4

手	79
---	----

骨接合術	35
ばね指	12
手根管開放術	15
その他	17

股関節	73
-----	----

THA	17
人工骨頭置換術	10
骨接合術	40
その他	6

膝関節	44
-----	----

TKA	19
その他	25

下腿、足部	53
-------	----

骨接合術	21
アキレス腱縫合	14
その他	18

年度ごとに医師の異動に伴い、手術の傾向に変化があるようである。しかし、骨折などの救急外傷については相変わらず多い。

当年度より市内の平鹿病院にも同門の医師4人が派遣された。救急患者などの対応に今まで以上に連携を持てるようになったことは喜ばしいことである。

また、人工関節手術は年々増加傾向にあり、安定した手術成績が患者さんへも認知されてきた結果と思われる。

医師のマンパワー不足、麻酔科医師の不足による手術件数の制限のある中でも救急外傷には誰かが対応していかなければならない。病院を超えた連携により、効率のよい治療をしていくことが求められているように感じる。

<文責 江畑公仁男>

小児科

stuff 医師：常勤 小松 明
 非常勤 岡崎三枝子（毎週水曜）
 看護師：佐藤恵美子、渋谷 美紀（～H26.5/31）、
 千田真理子（H26.6/1～11/7）、照井 和子（H27.2/23～）
 事務：高橋 香里、鈴木亜季子

外来

診療時間：午前 8 時 30 分～、午後 14 時～ 内容：表－I～IVを参照。

表－I：外来診療内容

	午 前	午 後
月	一般診療	検査、予防接種（冬季インフルエンザワクチン）
火		乳児健診
水		予防接種
木		1、3週 乳児健診
金		慢性外来

表－II：各外来患者数

	外来総計	乳児健診				予防接種	慢性外来
		1ヶ月	7ヶ月	10ヶ月	その他		
H26/4月	1,731	24	10	4	0	199	126
5月	1,583	19	1	7	0	175	137
6月	1,146	24	5	7	0	231	112
7月	1,149	24	5	11	1	242	111
8月	1,348	32	3	7	0	230	108
9月	1,320	28	2	9	0	180	106
10月	1,549	31	4	6	1	333	135
11月	1,652	37	7	6	0	499	138
12月	1,791	10	2	2	2	634	136
H27/1月	1,533	22	6	8	0	375	117
2月	1,346	22	8	18	0	255	94
3月	1,335	29	5	10	2	280	124
合計	17,483	302	58	95	6	3,633	1,444

表－Ⅲ：予防接種内訳

DPT	17	おたふく	95
DPT-IPV	468	水痘	203
不活化ポリオ	35	B型肝炎	98
MR	182	インフルエンザ	931
BCG	124	ロタ	88
日本脳炎	363	肺炎球菌	492
DT	68	ヒブ	491
		合計	3,655

- * 一日平均患者数 約 47.9人 (土、日、祝日も含む) 前年比 -5.5人
- * 外来患者総数 17,483人 前年比 -2015人
- * 乳児健診受診総数 461人 前年比 +16人
- * 予防接種総数 3,655回 前年比 +8回
- * 慢性外来患者総数 1,448人 前年比 -102人

表－Ⅳ 医療機関別紹介件数

他医療機関から紹介		当院から紹介	
朝日ヶ丘レディースクリニック	143	高橋耳鼻咽喉科眼科クリニック	75
高橋耳鼻咽喉科眼科クリニック	41	条里プラタナス耳鼻科	15
しおたこどもクリニック	14	平鹿総合病院 小児科	10
醍醐クリニック	7	脳神経外科	2
条里プラタナス耳鼻科	5	耳鼻咽喉科	1
伊藤小児科・内科医院	5	循環器科	1
秋田県立医療療育センター	4	秋田大学附属病院 小児科	8
岡田小児科医院	3	阿部耳鼻咽喉科医院	7
平鹿総合病院	2	すずき皮膚科クリニック	4
すずき皮膚科クリニック	2	条里コスモス眼科	2
他 医療機関	13	他 医療機関	13
合計	239	合計	138

昨年度に比し、他院からの紹介は16件増、当院からの紹介は48件減。

病棟（入院）

4 C病棟（整形外科、脳神経内科との混合病棟、定床6床）。

新生児入院は2 F新生児室にて管理。

表－V：疾患別入院数

		患者数	
感染症	気管支炎・肺炎等 ¹⁾	109	277
	上気道炎 ²⁾	22	
	喉頭炎	19	
	腸炎 ³⁾	89	
	歯肉・口内炎 ⁴⁾	9	
	中耳炎 ⁵⁾	12	
	髄膜炎・脳炎	0	
	インフルエンザ ⁶⁾	7	
	その他 ⁷⁾	10	
気管支喘息	23		
精神・神経系	熱性けいれん	1	7
	無熱性けいれん	4	
	片頭痛	2	
周産期	黄疸 など ⁸⁾	5	
川崎病		5	
代謝・内分泌系 ⁹⁾		8	
その他 ¹⁰⁾		6	
合計		331	

総入院数は 331人、前年比 -54人。

1) RSV感染症 25例、マイコプラズマ感染症 3例を含む。

上咽頭培養で起病菌が検出されたものは、インフルエンザ桿菌 18例、肺炎球菌 15例、モラキセラ・カタラーリス 13例。

2) 溶連菌感染症 3例、アデノウイルス扁桃炎 1例を含む。

3) ロタウイルス感染症 5例、ノロウイルス感染症 14例、O-157感染症 2例、カンピロバクター感染症 1例、サルモネラ感染症 1例を含む。

4) ヘルパンギーナ 4例、ヘルペスウイルス感染症 5例。

5) 起病菌は、インフルエンザ桿菌 8例、肺炎球菌 4例を含む。

6) すべてインフルエンザA。

7) 帯状疱疹 1例、尿路感染症 4例、腎盂腎炎 1例、伝染性単核症 1例、流行性耳下腺炎 1例、水痘 1例、頸部リンパ節炎 1例を含む。

8) 空気嚥下症 1例、新生児嘔吐症 1例、新生児無呼吸 1例、黄疸 2例。

9) GH 分泌負荷試験 8例。

10) 血管性紫斑病 1例、腸重積 2例、回腸末端炎 1例、急性虫垂炎 2例。

表－Ⅵ：年齢別入院患者数

	男児	女児	合計
0－1才	53	27	80
1－2才	44	38	82
2－3才	12	25	37
3－4才	13	15	28
4－5才	15	12	27
5－6才	14	3	17
6－8才	5	8	13
8－10才	10	6	16
10－12才	11	5	16
12－14才	7	4	11
14才～	3	1	4
合計	187	144	331

院外活動

明照保育園（園医）

県南愛児園（園医）

横手市 4ヶ月、1才6ヶ月、3才児健診

ももの家講話

最後に

外来、入院患者数ともに減少傾向に歯止めがかからない。新しいワクチン、特に、Hib と肺炎球菌ワクチンの効果てきめんということか？ と昨年も論じたが、厚労省からの発表でそれが裏打ちされた形となった。全国10道県において、2014年のHib髄膜炎患者が0だったのである。いかにも驚くべき数字である。肺炎球菌も髄膜炎患者数は激減している。研修医へ腰椎穿刺を見せることができない。この傾向は髄膜炎のみではなく、他の侵襲性の感染症でも同じ傾向があると考えられる。今後の小児医療は予防医学を中心に展開しそうである。

ワクチン後進国である日本もやっとワクチン行政が前進し始めた。水痘、おたふくかぜ、B型肝炎やロタなどの受けて当たり前、というワクチンも一刻も早く公費の適応となることを願っている。

<文責 小松 明>

産婦人科

平成26年度の産婦人科は2 A病棟でこれまで師長として勤務された木下文子さんが退職され、藤井洋子師長が着任しました。また、年度途中ですが、外来勤務されていた池田弘恵さんが6月一杯で退職されました。お2人ともかなりの長い期間勤務され、病院に貢献されました。お疲れ様でした。

外来は育休明けの吉田紗希子さんが、復帰して以前の体制に戻りました。特に後半期は外来患者が増加し大変でしたが頑張ってもらいました。

分娩と手術は前年度より減少しました。分娩費は不当に値上がりしていた面があり、産科医療保障制度の掛け金が改訂されたのを機に以前の値段に戻しました。その他は概ね変化ありませんでした。

<文責 畑澤淳一>

手術件数	134件
全身麻酔	90件
硬膜外麻酔	10件
腰椎麻酔	1件
局所麻酔	33件
腹式子宮全摘術	9件
腹式子宮全摘術＋両側付属器切除	5件
子宮体癌	1件
卵巣癌	3件
子宮肉腫	1件
腔式子宮全摘術	8件
子宮筋腫	2件
子宮腺筋症	1件
子宮内膜ポリープ	1件
子宮頸部上皮内癌	1件
子宮頸部高度異形成	3件
子宮筋腫核出術	2件
筋腫分娩切除	6件
子宮頸部円錐切除術	8件
広汎子宮全摘術	1件
準広汎子宮全摘術(子宮頸癌)	2件
リンパ節郭清術	1件
準広汎子宮全摘術(子宮体癌)	4件
卵巣癌拡大手術	1件

付属器切除	3件
腹腔鏡下卵巣手術	23件
腹腔鏡下筋腫切除	1件
腹腔鏡検査	1件
子宮脱手術	7件
膣壁形成術	1件
膣閉鎖術	1件
膣壁腫瘍切除	1件
膣壁裂傷手術	1件
卵管結紮	1件
子宮鏡検査	10件
レゼクトスコープ	4件
粘膜下筋腫	2件
内膜ポリープ	2件
コンジローマ手術	2件
バルトリン腺嚢胞手術	1件
流産手術	6件
中絶手術	5件
胞状奇胎手術	1件
帝王切開術	18件

分娩数 161件

自然分娩	117件
鉗子分娩	12件
吸引分娩	10件
骨盤位牽出術	1件
帝王切開術	18件

泌尿器科

<スタッフ>

医 師： 千葉 修治
外 来 看 護 師： 藤坂マリ子 → 7月から 藤島 美晴
外 来 事 務： 三浦 君子 → 9月から 藤原 珠美
外来診察補助： 5月から 佐々木 望
医師入力補助： 9月から 佐藤 裕香

入 院： 主に3B病棟

<平成26年度特記事項>

平成25年度に引き続き、千葉の医師一人体制で泌尿器科診療・透析診療を担当した。
従来は医師と看護師一人ずつの体制だったが、仕事量増加にともない、スタッフを増やしていた
だき、円滑に外来を進められるようになった。
医療機器は外来のエコーの機械を新しく購入していただいた。

<日常業務>

外来診療は月曜から金曜までの毎日午前。
検査・手術等は不定期で午後に施行。
透析は月曜から土曜日まで午前・午後・夜間（月水金のみ）の3部制、祝祭日関係なく稼働。

<概要>

外来： 例年通り、排尿障害、尿路結石、尿路悪性腫瘍、末期腎不全、等々の尿路一般疾患を
広く診療した。
入院： 手術例や前立腺生検例が主であった。入院日数が短期になるのは前述のような患者の特
性であると思われる。
手術： 経尿道手術（TUR）、透析シャント手術を主に施行した。前立腺全摘や鏡視下手術も秋
田大学泌尿器科教室医師に応援いただき施行した。尿管結石をはじめとする尿管鏡手術
適応例は他院に紹介した。

<総括>

医師一人体制での診療のため様々な制限が避けられない中、外科をはじめとした他科の先生方
やスタッフの皆さんに支えていただきながらなんとかやっているのが実情です。当面はマンパワ
ーの改善はなさそうですが、向上心を忘れずに、より良い泌尿器科医療が提供できるように努め
て参ります。

<文責 高橋 誠>

放射線科

スタッフ

常勤医師 : 泉 純一
非常勤医師 : 平野 弘子
応援医師 : 秋田大学放射線科より随時

特記事項

MRI 機種は平成23年2月14日よりGE 社製1.5T 機種 (HDxt 1.5T ver. 16) を、CT 機種は平成17年5月よりBrilliance CT 40 (Philips 社) を、また血管造影システムは平成2年10月よりBransist Safire (SHIMADZU社) を継続使用している。

業務内容

平成26年度に放射線科で行われた画像読影件数は、CT 6,797件、MRI 1,887件、単純写真 7,227件であった。

冠動脈CT は45件、CT colonography は56人に施行された。

病診連携室を介しての他施設依頼の撮影・読影件数は、CT 302件、MRI 432件で、CTは昨年度と同数、MRIは48件増加していた。また単純写真件数は14件であった。他施設依頼CT、MRI は、各々読影件数全体の4.4%、22.9%を占めていた (表1)。

血管造影検査は42件であった。内訳は、

- ・ 肝腫瘍に対するTACEが 33件
- ・ 胃静脈瘤に対するBRTOが 1件
- ・ 血管塞栓術が 4件
- ・ 重症膵炎に対するカテーテル留置が 1件
- ・ 結果的に撮影のみで終了が 3件

であった。

肝腫瘍に対してH25年11月よりバルーン閉塞下における塞栓術を開始している (いわゆるballoon-TACE, B-TACE)。H26年度中には、のべ10人に同治療を施行した。

検診業務としては、脳ドックが183件、胸部単純写真読影が6,606件、CTによる内臓脂肪量測定が51件、肺がん検診が22件であった（表1）。

表2に過去6年間の検査・読影件数の推移を示す。

<文責 泉 純一>

表1：平成26年度 検査・読影件数

検査		件数	%
CT	総計	6,797	100.0
	病診	302	4.4
	CT coronary angiography	45	0.6
	CT colonography	56	0.8
	検診内臓脂肪	51	0.8
	検診肺CT	22	0.3
MRI	総計	1,887	100.0
	病診	432	22.9
	健診脳ドック	183	9.7
単純写真	総計	7,227	100.0
	検診	6,606	91.4
	病診	14	0.2
血管造影	総計	42	100.0
	TACE	33	78.6
	血管塞栓	4	9.5
	BRTO	1	2.4
	重症膵炎に対する動注	1	2.4
	撮影のみ	3	7.1

表2：放射線科で施行された年度別読影件数

年度	CT	MRI	単純写真	血管造影
平成21年度	6,469	1,546	6,401	28
平成22年度	6,994	1,815	6,904	34
平成23年度	6,765	1,800	7,210	33
平成24年度	6,526	1,982	7,424	42
平成25年度	6,436	2,051	7,229	33
平成26年度	6,797	1,887	7,227	42

麻 醉 科

スタッフ

常 勤：寺田宏達（平成21年5月～）

非常勤：松元 茂（梅の木ペインクリニック）

柴田繁啓（岩手医科大学救急医学）ほか

業務内容

1. 手術での麻酔または検査での麻酔

全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎麻酔、伝達麻酔、局所麻酔
件数等の実績に関しては、手術室の項を参照のこと。

2. ペインクリニック（外来および入院）

平成21年6月から開設。月・水・金曜日午前

治療対象

○帯状疱疹の治療（特に急性期痛、帯状疱疹後神経痛の強い症例）

○顔の神経痛（三叉神経痛、非定形顔面痛）に対して、薬物治療・神経ブロック治療（高周波熱凝固法）

○腰痛、背部痛、肩、腕、足の痛み（椎間板ヘルニア、脊椎症、椎間関節症、腰部脊柱管狭窄症、圧迫骨折、頸肩腕症候群、肩関節周囲炎、肋間神経痛、四肢の末梢循環障害、坐骨神経痛、会陰部痛、尾骨神経痛、幻肢痛、カウザルギー、反射性交感神経性委縮症などのうち手術の対象にならないもの）

○けがや手術後の創部痛、種々の神経損傷後の神経因性疼痛など。

○まぶたや顔の筋肉がぴくぴくと痙攣したり（眼瞼痙攣、顔面痙攣）、顔が急に変な方向を向いてしまう状態（痙性斜頸）に対するボツリヌス毒素治療

実 績

新規患者数99名、延べ患者数1,095名。入院患者数27人。主な疾患別内訳は、筋骨格系疼痛が571例、帯状疱疹痛が294例、三叉神経痛は128例、顔面痙攣・痙性斜頸のボツリヌス毒素治療15例、頭痛32例、末梢血行障害6例、その他49例であった。治療内容の内訳は、硬膜外ブロックが234件、星状神経節ブロックが36件、三叉神経ブロックが26件、神経根ブロックや末梢神経ブロック84件、その他のブロック134例、薬剤による治療581例であった。

<文責 寺田宏達>

リハビリテーション科

I. リハビリテーション科・組織

富岡 立	(リハビリテーション科科长)	
小田嶋尚人	(技師長)	理学療法士
高橋 貞広	(室長)	理学療法士
高橋 洋	(主任)	作業療法士
高橋 茂実	(主任)	理学療法士
鈴木 務	(主任)	理学療法士
古関 佳人	(主任)	言語聴覚士
山谷 加奈	(副主任)	理学療法士
加賀 直之	(副主任)	作業療法士
石川 順基	(副主任)	理学療法士
後藤沙央里	(副主任)	作業療法士
小田嶋鷹哉	(副主任)	理学療法士
渋谷 美紀		助手

II. 目標

1. 安全安心なリハビリテーションを提供する。
2. 効果があり、効率的で患者様に貢献できるリハビリテーションを目指す。
3. 地域包括ケア病棟へ対応する。
4. 業務改善を進める。

III. 定例スケジュール

毎週月曜日	:	リハビリテーション科ミーティング
第1月曜日	:	4 C病棟カンファレンス
第1火曜日	:	3 C病棟カンファレンス
第1金曜日	:	3 A病棟カンファレンス
第2水曜日	:	2 A病棟カンファレンス
第2金曜日	:	3 B病棟カンファレンス

IV. 業務

1. 院外活動

①横手市デイサービスセンター 康寿館

5月26日(月)～5月30日(金)

②出前健康講座

平成26年5月21日 高橋 貞広

内容：脳卒中のリハビリテーション 会場：馬場崎町内会館

7月10日 小田嶋尚人

内容：生活習慣病予防と運動 会場：根小屋会館

9月9日	小田嶋尚人	内容：生活習慣病予防と運動	会場：境町ふるさと館
12月3日	古関 佳人	内容：誤嚥ってなあに	会場：化石会館
平成27年2月12日	古関 佳人	内容：誤嚥ってなあに	会場：黒川落合会館

2. 研修活動

月日	用務	場所	氏名
4月19日	第22回秋田県作業療法学会	秋田市	高橋洋・加賀・後藤
4月26日	第29回秋田県緩和ケア研修会	秋田市	山谷
5月18日	平成26年度県作業療法士会発達部門研修会	秋田市	加賀・後藤
6月7日	県理学療法士会中央ブロック講習会	秋田市	小田嶋(尚)・石川・小田嶋(鷹)・加賀・後藤
6月14～15日	日本理学療法士協会がんのリハ研修会	秋田大	小田嶋(尚)・高橋(貞)・高橋(洋)・古関
6月18～21日	WFOT学会	横浜市	加賀・後藤
8月30～31日	第54回作業療法全国研修会	八戸市	後藤
9月6日	弘前大学臨床実習指導者会議	弘前大	高橋(貞)
9月7日	関西看護ケア研究会-がんリハ臨床における展開-	東京都	鈴木
9月24日	県理学療法士会地域包括ケアシステム説明会	秋田市	小田嶋(尚)
9月27～28日	第25回東北作業療法学会	盛岡市	加賀・後藤
10月3～4日	第49回日本理学療法士協会全国研修会	大宮市	小田嶋(尚)・石川
10月18日	県南ブロック研修会	大仙市	高橋(貞)
10月25日	青森県立保健大学臨床実習指導者会議	青森県立保健大	山谷
10月31日	秋田大学臨床実習指導者会議	秋田大	石川・加賀
11月8～9日	県作業療法士会身障部門研修会	秋田大	加賀・後藤
11月15～16日	県理学療法士会介護予防地域包括ケア推進リーダー研修会	秋田大	鈴木・山谷・石川
12月6日	県作業療法士会全県トップ会議	秋田大	加賀
12月10日	県理学療法士会拡大理事会	秋田市	高橋(貞)
1月9～11日	秋田県介護支援専門員実務研修(前期)	秋田市	鈴木
1月25日	県作業療法士会創立30周年記念事業	秋田市	加賀
2月12～15日	秋田県介護支援専門員実務研修(後期)	秋田市	加賀・後藤
2月28日～3月1日	秋田県がんのリハビリテーション研修会	秋田大	高橋(茂)・山谷・後藤・小田嶋(鷹)
3月7日	県理学療法士会学会	秋田大	小田嶋(尚)・高橋(茂)・鈴木・山谷・石川・小田嶋(鷹)
3月28日	地域包括ケア推進リーダー研修会ステップアップ講座	秋田市	小田嶋(尚)・高橋(貞)・高橋(茂)・鈴木・石川

3. 臨床実習受け入れ

理学療法学科

秋田大学	総合臨床実習	2名	高橋 貞広	担当
	基礎臨床実習	1名	山谷 加奈	担当
弘前大学	臨床実習Ⅳ	1名	鈴木 務	担当
青森県立保健大学	総合臨床実習	1名	山谷 加奈	担当

作業療法学科

秋田大学

1名 加賀 直之 担当

V. 総括

今年度は、新たに秋田大学医学部保健学科を新卒の小田嶋鷹哉が理学療法士として加わった。高橋茂実が12月1日から産休明けで職場復帰した。これにより実質的にも理学療法士7名・作業療法士3名・言語聴覚士1名・助手1名の12人体制となった。

10月から地域包括ケア病棟（3C病棟）の運用が始まった。

その施設基準（リハ関係抜粋）は

「○当該病棟に常勤の理学療法士、作業療法士又は言語聴覚士が1名以上配置されていること。なお、当該理学療法士等は、疾患別リハビリテーション等を担当する専従者と兼務はできないものであり、当該理学療法士等が提供した疾患別リハビリテーション等については疾患別リハビリテーション料等を算定することはできない。」

「○リハビリテーションを提供する患者については、1日平均2単位以上提供している。ただし1患者が1日に算入できる単位数は9単位までとする。なお、当該リハビリテーションは地域包括ケア病棟入院料に包括されており、費用を別に算定することはできないため、当該病棟又は病室を含む病棟に専従の理学療法士等が提供しても差し支えない。また、当該入院料を算定する患者に提供したリハビリテーションは、疾患別リハビリテーションに規定する従事者1人あたりの実施単位数に含むものとする。」

となっている。

この基準に従い高橋貞広が専従職員として地域包括ケア病棟担当となった。準備期間としてリハ科では8月から体制を整えた。具体的には高橋貞広が地域包括ケア病棟（3C病棟）の専属担当として、それまで担当していた外来患者を他のスタッフに引継ぎした。その他にリハとしての施設基準また施設基準の準備として直近3か月間（開始にあたり7月～9月）の在棟患者の疾患別リハ提供平均単位数が2単位必要であり単位数を満たすために休日返上で交代出勤してリハの提供をした。また、3か月ごとの実施単位数の管理を継続して行っている。

平成26年度の「がん患者リハビリテーションの講習会」にリハ科からは6月に小田嶋（尚）、高橋（貞）、高橋（洋）、古関の4名、3月に高橋（茂）、山谷、小田嶋（鷹）、後藤の4名が参加した。このことにより「がんのリハビリテーション」に対応しやすくなった。

機能評価受審に向けてリハ科では、自己評価、部署マニュアルの確認、業務実績のまとめを行った。主な評価内容は「2.2.17急性期のリハビリテーションを確実・安全に実施している」という部分と「3.1.5リハビリテーション機能を適切に発揮している」という2つの部分が主な項目であった。自己評価からはリハのシステム運用は問題なく行われておりマニュアルの再確認のみ課題となった。業務実績では過去5年間の学術研修活動、院内症例検討会の内容、臨床実習指導内容、リスク対策会議内容を取りまとめた。また、全国的にも先駆けて取り組んでいる「がんのリハビリテーション」への研修参加についてもまとめておいた。さらに、臨床データとして過去3年間の転帰先割合の変化（図①）とリハ開始時・終了時のBarthel indexの変化（図②）について調査してまとめておいた。また、他部門との調整をはかりながら受審に臨んだ。3月19日の書類審査には小田嶋が対応した。3月20日のケアプロセス調査には小田嶋と高橋貞広が対応した。また、20日12:30からの部署訪問は全員で出迎えて主に江畑副院長と小田嶋が対応した。すべて問題無く対応できた。

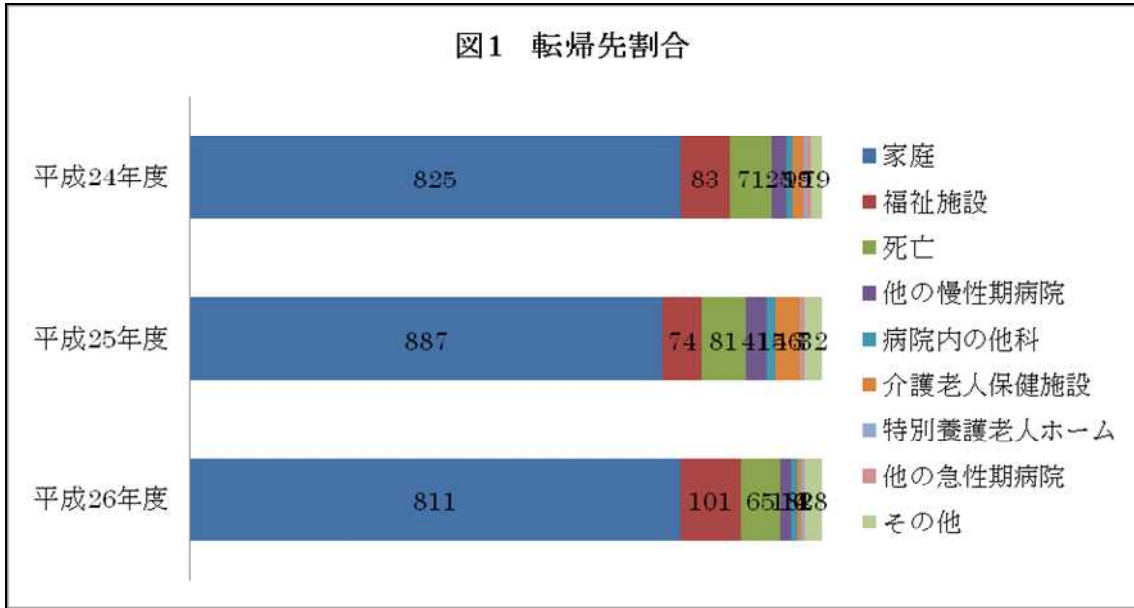
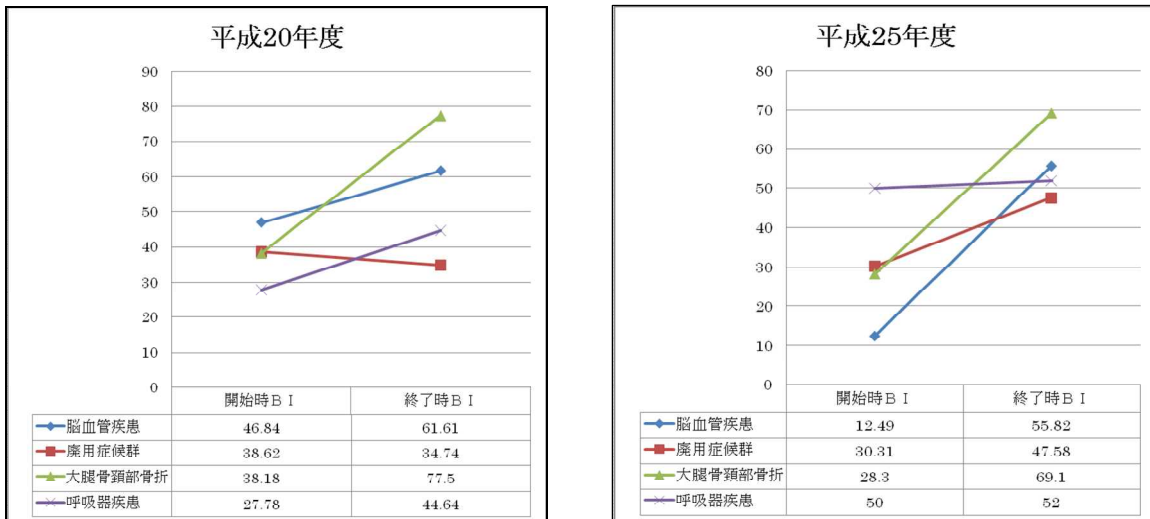


図2 Barthel indexの変化

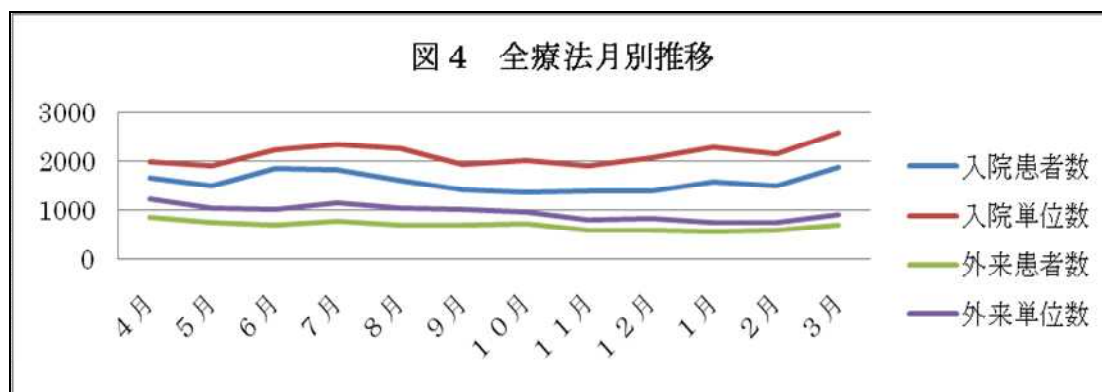


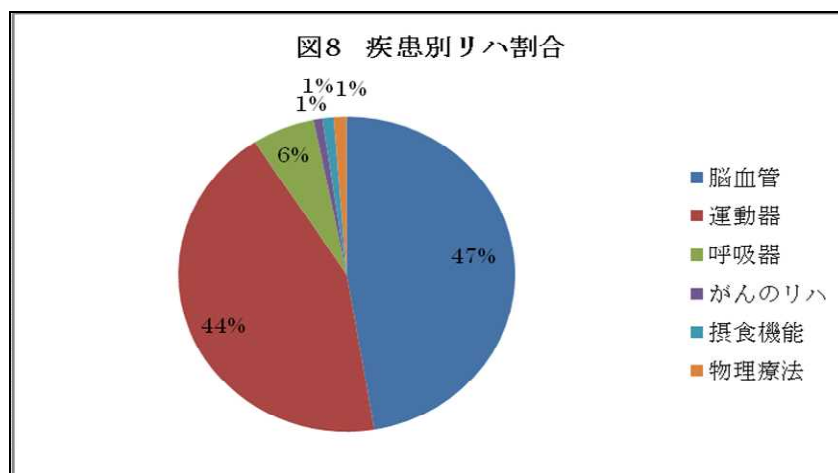
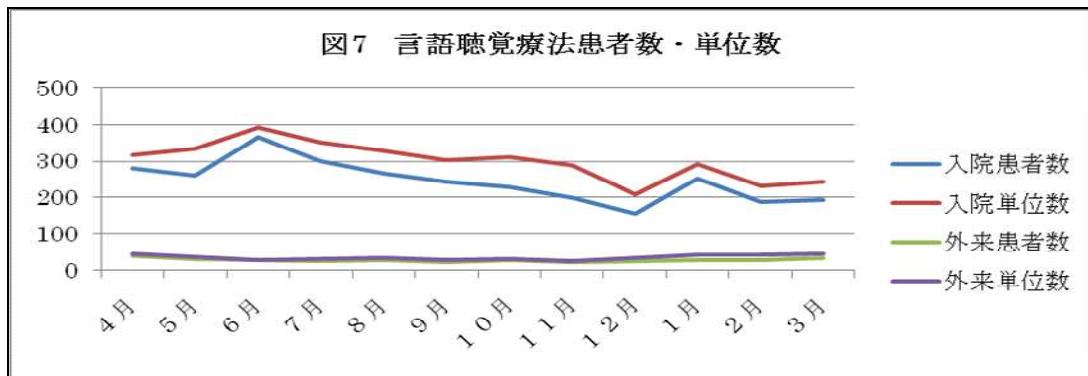
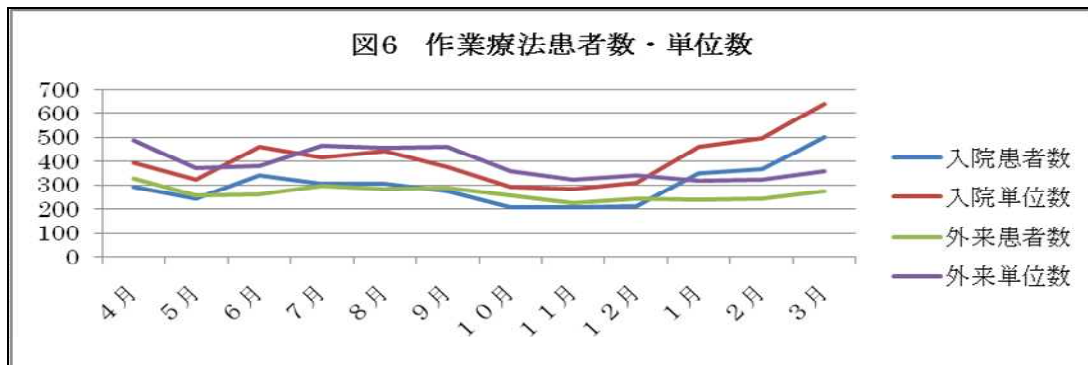
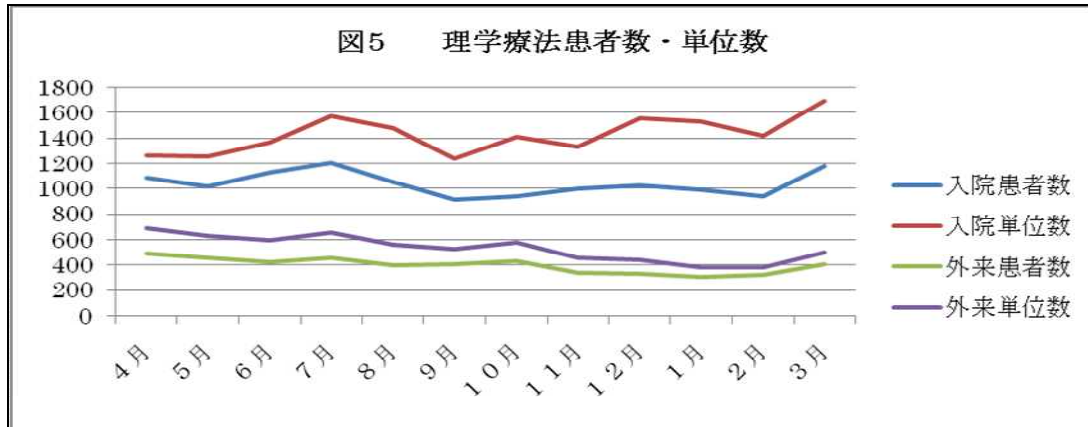
今年度も10月12日（日）病院祭が開催された。リハ科では、「らくらく健康体操」をメイン会場でデモンストレーションした。多くの市民と一緒に体を動かし好評を得た。

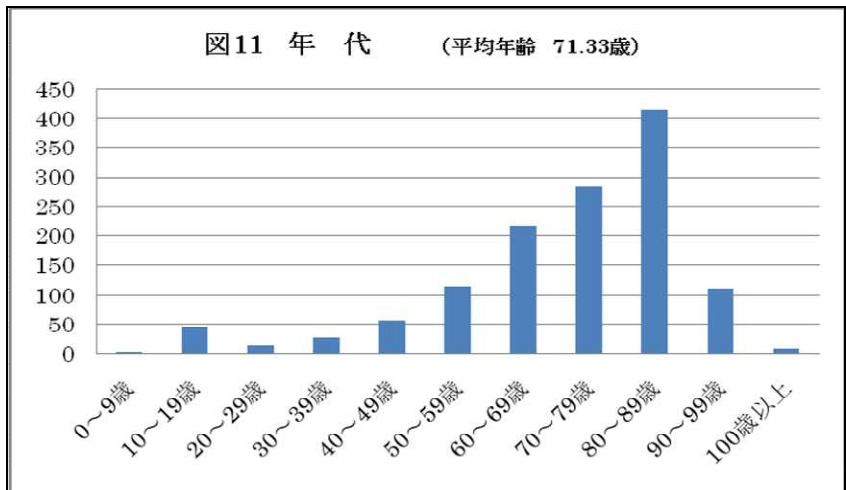
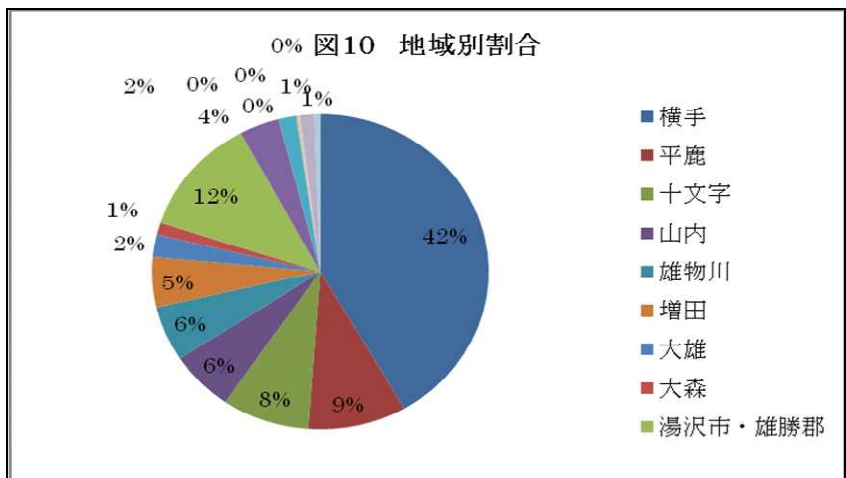
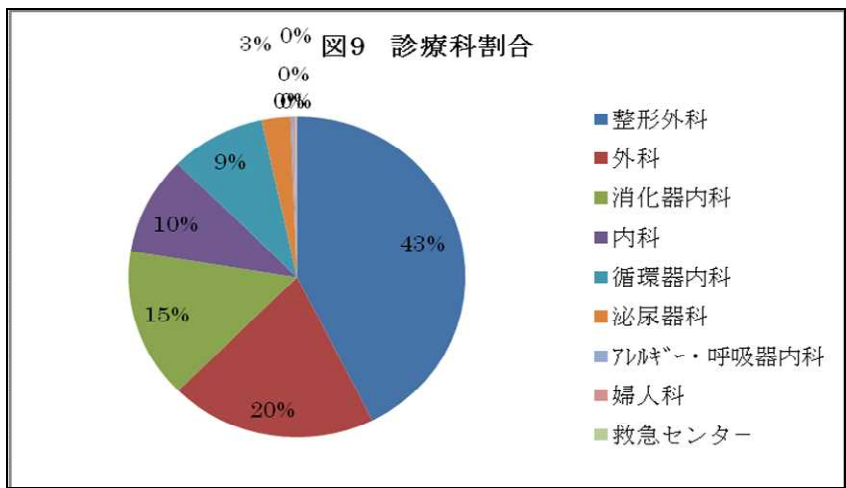
臨床実習は理学療法士養成校・作業療法士養成校から例年通りの受け入れを行った。臨床実習指導について理学療法学科は弘前大学・鈴木、秋田大学・高橋貞広、山谷、青森県立保健大学・山谷。作業療法学科では秋田大学は加賀が指導者となった。

医療機器では心電図モニターをME室から借用していたものをリハ室に常設できるようにした。機種の設定はME室にご協力頂いた。

年間実施患者数・単位数について患者数は理学療法・作業療法・言語聴覚療法ともほぼ横ばいとなった(図③)。単位数は10月に地域包括ケア病棟運用開始以降、特に理学療法の単位数が増加している傾向にある。作業療法・言語聴覚療法については横ばい状態であった。これは専従スタッフが理学療法士であったことにより理学療法の実施単位数に直接反映したものである。最近のリハビリテーションの傾向は、一人の患者へのリハの提供時間を長くかけて早期に改善をはかる傾向になっているため、このような傾向は進めていかなければならないものとする。今年度は例年通り年度末に向けて患者数・単位数とも増加の傾向が見られた(図④～⑦)。その他の傾向については図⑧～⑩を参考にいただきたい。







<文責 小田嶋尚人>

救急センター

<救急センターの理念>

当院は救急告示医療機関である。

病院の基本理念：地域の人々に信頼される病院を目指します。

安心できる良質な医療の提供

心ふれあう人間味豊かな対応

に鑑みて、全職員（非常勤職員も含めて）の協力の下に、24時間体制で良質な救急医療を実践する。

<スタッフ>

救急センター責任者 江畑公仁男

専任看護師 佐藤 鋼子

<救急患者取扱状況> H26年4月1日～H27年3月31日分

1. 取扱患者数 10,223人

2. 来院時間と来院方法

患者数

区 分	標ぼう時間内	標ぼう時間外	深夜（再掲）	計
救急車	316人	639人	157人	955人
その他	0人	9,268人	759人	9,268人
計	316人	9,907人	916人	10,223人

3. 患者取扱診療科

診療科目	患者数	診療科目	患者数	診療科目	患者数
内 科	4,306人	脳外科	0人	精神科	0人
小児科	3,625人	循環器科	0人	泌尿器科	222人
整形外科	1,083人	産婦人科	235人		
外 科	743人	眼科	9人	計	10,223人

4. 患者の症状など

区分	疾病程度（患者数（人））				受付後の扱い（患者数（人））			
	軽症	中等症	重傷	死亡	帰宅	入院	転送	その他
交通事故	107	6	1	0	105	7	2	0
急 病	8,191	667	210	44	8,159	876	32	44
その他	920	33	44	0	918	78	2	0
計	9,218	706	255	44	9,182	961	36	44

<H26年度総括>

世論でも論じられているように救急要請に対する温度差があり、当院への救急患者も軽症から重症度の高い患者まで多様化してきている。更に当院は二次救急病院であるが、他院の受け入れ困難症例が搬送されてくる場合も少なくない。そこに求められるのは初期対応の判断、治療の適切さである。

そこで、いかに円滑に救急患者を受け入れ、適切な治療を提供できるかが重要となってくる。

今後も救急センターの理念に基づき、病院職員一丸となって医療の質向上に努めていきたい。

<文責 木村真貴子>

薬 剤 科

薬剤師

科 長 石田 良樹
主 任 佐々木洋子 渡邊 圭子 小宅 英樹
副主任 谷川 裕子 (～H26.10 育児休暇)
科 員 武石 知希
薬剤助手 北小路由紀 柿崎 幸 高橋 紀子 近江真梨子 藤井 香織
小柳 聡子 (～H26.12) 新山由香子 大台美紗子 (H26.4～)
染川 由香 (H26.12～)

平成26年度目標

- 1) 調剤ミス防止システムの構築
- 2) 医療費削減への貢献

国の医療費削減政策に則り、病院の資源効率および患者負担の軽減のためにGeneric薬品を積極的に採用していった。

本年度の後発品使用比率（入院分）は下記のような推移であった。

	後発品使用比率（入院）
2014年4月	47.3%
2014年5月	51.20%
2014年6月	53.0%
2014年7月	60.1%
2014年8月	62.9%
2014年9月	61.1%
2014年10月	61.5%
2014年11月	65.5%
2014年12月	66.8%
2015年1月	67.7%
2015年2月	67.5%
2015年3月	67.5%

認定等

石田 良樹 感染制御認定薬剤師 日本病院薬剤師会
佐々木洋子 秋田県糖尿病療養指導士 秋田県糖尿病対策推進協議会

平成26年度実績

院外処方せん件数	87,121件 (対前年 98%)
院内処方せん件数	15,034件 (対前年100%)
院外処方せん発行率	85.3%
入院処方せん件数	29,573件 (対前年 99%)
外来注射件数	25,734件 (対前年107%)
入院注射件数	154,306件 (対前年104%)

<文責 石田良樹>

診療放射線科

スタッフ

診療放射線技師 技師長 藤原 理吉
室長 郡山 邦夫 法花堂 学
主任 細谷 謙 根岸 裕介 高橋 愛美(平成26年8月1日採用)
柿崎 千尋(産休中) 佐藤 裕基
副主任 村上 千恵
看護師 佐藤由美子(平成27年3月31日まで) 織田美和子
受付 三浦 真理

平成26年度組織目標について

医療安全推進のため被ばく線量管理の実践 について

患者さんの医療被ばくについては、日本診療放射線技師会の被ばく低減目標値との対比が可能となり、さらに患者さんからの被ばく相談や情報開示に対し、より精度の高い被ばく線量情報を提供する体制が整備できた。また、防護の最適化に向けた適切な透視・撮影モードの選択や心臓カテーテル検査・IVRにおける皮膚障害への対策等新たな課題を確認した。

院内研修会の継続について

看護師による造影剤投与ならびにX線検査・MRI検査で介助を行う際の安全管理上の注意点を周知した。更なる安全性向上に研修会未受講者のフォローアップが今後の課題となった。また、受講者へのアンケート調査で看護師の被ばくに対する認知状況を確認できた。今後の参考とし、研修会は継続して開催したい。

病院機能評価と被ばく低減施設認定更新に向けた取り組みについて

非造影腎MRAは基準時間30分内に検査終了可能となった。肘関節MRIは30分かかるため検討が必要である。また、造影MRIは検討していない。

中長期的課題と目標

課題

ここ数年、機器の更新ができない状態にある。一番の懸念は最も稼働率の高い第一撮影室の画像検出装置（FCR5501D）で、2000年8月（平成12年）に導入され15年目になったことである。2016年3月から保守サービスの終了という申し出を受けているので、故障時の代替え機器の検討が必要になった。

次に各装置の導入年度の状況であるが、マンモグラフィ装置は2001年、CT装置は2004年、透視A室透視装置は2005年、透視B室の透視装置は2007年であるので順次更新時期に来ていると考えられる。PACS装置についても2004年の設置であり、端末とViewerの入れ替えが必要になる。

FCR5501Dと同様に一般撮影で使用するイメージングプレート（IP）も更新が必要となってくるので、フラットパネルデテクタ（FPD）への更新を要望している。

画像検出についてFPD化することで技師の動線の改善と迅速な画像の確認が実施されるので、

例えば、動くことによる再撮影の判断なども早くなり、結果的に作業効率が高くなる。このことは、外来が混む時間帯における患者の待ち時間短縮につながり、患者サービスを向上させる。

加えて、ポータブルにも導入することで、画像確認が迅速に撮影場所（時点）で実施可能となり、救急時の迅速な画像診断につなげられ、緊急時の造影検査やカテーテルの位置替えなどに応用が可能となる。

目標

平成22年4月30日厚生労働省医政局長から「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」(医政発0430第1号)の通知が発せられ、診療放射線技師のさらなる役割として、①画像診断における読影の補助を行うこと、②放射線検査に関する説明・相談を行うことが求められている。

読影の補助については、肺がん検診認定技師をさらに養成して認定技師により肺がん検診における一時読影の実施を行い、肺がん検診者数の増加に繋げていきたいと考えている。また、冠動脈CT撮影加算、大腸CT撮影加算の算定が可能な64列以上のCT装置の更新を目標としていく。大腸CT検査時に使用する酸素を二酸化炭素にすることで患者さんの負担を軽減し、併せて、件数の増加に向けて技師の研修など環境の整備を図りたい。

次に、平成26年6月18日第186回通常国会で「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための法律の整備に関する法律案」が成立し、25日に交付された。この一括法案の中に「診療放射線技師法の一部改正」も含まれ、新たな業務として、X線CT・MRI・血管検査等における自動注入装置を用いた造影剤の投与、検査終了時の抜針・止血、下部消化管のネラトチューブ挿入・空気の吸引、病院又は診療所以外の場所での健康診断を目的として胸部X線検査を行う場合のみ医師又は歯科医師の立ち会いが無くとも実施できる事が業務として認められ、本法に対応する統一講習会の受講を進めていく。

関連資格取得状況

放射線管理士	藤原 理吉、郡山 邦夫、法花堂 学、細谷 謙、根岸 裕介
放射線機器管理士	藤原 理吉、郡山 邦夫、法花堂 学、根岸 裕介
医用画像情報精度管理士	藤原 理吉、根岸 裕介
肺がんCT検診認定技師	法花堂 学、細谷 謙
検診マンモグラフィ精度管理・撮影技術認定	藤原 理吉、郡山 邦夫、法花堂 学、細谷 謙、齊藤 千尋
臨床実習指導教員	藤原 理吉、郡山 邦夫、法花堂 学、細谷 謙

平成26年度 診療放射線科カンファランス

4月8日	腰椎MRI側臥位撮像の検討	郡山 邦夫
6月11日	個人線量計の解析	細谷 謙
7月9日	被ばく相談について	藤原 理吉
9月10日	sat-padによる画質改善の検討	佐藤 裕基
10月31日	コメディカル（マンモグラフィにおけるポジショニング評価）	村上 千恵
11月12日	小児CTにおける防護の最適化について	法花堂 学
12月10日	「R」の紹介	根岸 裕介
3月11日	EOB肝細胞造影相の検討	郡山 邦夫

22年度を100とした時の推移

一般撮影	年度(平成)	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	総撮影件数		100	102	102	101
出張撮影件数		100	105	99	108	123
乳房撮影件数		100	117	118	121	125
健診	胸部撮影人数	100	106	113	111	109
	胃透視検査人数	100	93	106	98	93
造影・透視検査	消化管	100	97	66	58	58
	肝・胆・膵	100	66	74	39	60
	泌尿器・産科領域	100	81	45	81	100
	整形領域	100	101	104	123	95
	心カテ・血管造影	100	93	116	109	104
CT人数		100	97	93	92	102
MRI人数		100	94	103	106	111

件数・人数の推移

年度(平成)		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
一般撮影	総撮影件数	外来	27,431	28,609	29,465	28,922	28,717
		入院	10,117	9,580	8,880	8,849	9,800
		合計	37,548	38,189	38,345	37,771	38,517
	総曝射回数	外来	42,960	45,966	47,583	47,125	48,212
		入院	12,594	12,083	11,394	10,725	11,338
		合計	55,554	58,049	58,977	57,850	59,550
	出張撮影件数		5,757	6,024	5,681	6,216	7,072
	乳房撮影件数		2,227	2,603	2,618	2,702	2,789
フィルム枚数		167	213	192	230	135	
健診	健診胸部撮影人数	6,005	6,351	6,787	6,656	6,555	
	胃透視検査人数	857	796	906	838	793	
造影・透視検査	消化管	619	599	411	356	358	
	肝・胆・膵	145	95	107	56	87	
	泌尿器・産科領域	167	135	75	136	167	
	整形領域	300	302	313	368	284	
	心カテ・血管造影	56	52	65	61	58	
CT	人数	外来	5,552	5,410	5,204	5,027	5,715
		入院	1,395	1,304	1,249	1,356	1,354
		合計	6,947	6,714	6,453	6,383	7,069
	フィルム枚数		1,229	1,342	982	668	474
MRI	人数	外来	1,676	1,593	1,763	1,889	1,940
		入院	234	200	201	139	182
		合計	1,910	1,793	1,964	2,028	2,122
	フィルム枚数		1,026	941	691	945	955

<文責 藤原理吉>

看護科

【看護科理念・方針】

- 理念 1. 人間愛に基づいた患者様中心の看護を提供します。
2. 地域の人々と信頼関係を築ける看護を提供します。
- 方針 1. 専門性を高め、質の高い看護の提供とやりがいの感じられる看護を目指します。
2. 病院の健全経営に積極的に参加します。

【平成26年度看護科目標】

1. 看護科全職員が個々のレベルアップに研鑽し、質の高い看護を提供します。
2. 「より良い接遇」を合言葉に、今まで以上に地域の方々に満足のいく看護サービスを提供します。

【結果】

平成26年度診療報酬改定があり、地域包括ケア病棟をつくるのが病院の方針で早々に決まった。

それに伴い、3C病棟が地域包括ケア病棟に決定し、4月始め、大規模な病棟編成と人事異動をおこなった。師長、スタッフ、それぞれが力と知恵を出してくれたおかげで、1日位かかると思われていた患者の移動が2時間程度で終了し、みんなの力に感謝した。

5月に看護科目標にもある個々のレベルアップに関しては、副主任会を発足し、リーダーを決め、副主任の役割を明確にすることを目標に掲げ、機能評価受審のための各種マニュアルの見直しを行った。しかし、もう一つの目標の「看護必要度監査」については、委員会主導で行ったため、副主任会での役割にはならなかった。

6月には念願だった包布交換を委託し、シーツ交換にかかる時間を短縮できた。

10月に地域包括ケア病棟届出、始動した。また、主任に6名が昇格し、これも長い間の念願だった病棟主任2名体制とOP室1名、中央材料室1名体制を実現できた。

平成27年3月19日、20日に病院機能評価を受審し、看護科としては全力を出し切った形で、良い評価が得られたと思っている。

年度途中で昨年度より看護科の時間外勤務が70%も多いと総務課から指摘を受け、内容を検討し、できるところはすぐに改善したが、時間外の検査、処置、遅い時間帯の入院など、看護科だけではどうにもならない事も多く、病院全体で検討する必要性を感じた。

新人教育の講師に副主任を担当させてから3年経過している。今年度も良い結果が出ている。来年度からは、看護科教育委員会で様々な院内研修会の講師を師長、主任にも担当させ、レベルアップできればと考えている。

今年度全体を振り返ってみると、診療報酬改定と病院機能評価受審で激動の1年であったが、看護科全員がよく頑張ってくれたと思う。この頑張りを来年度につなげ、更に質の高い看護の提供ができるよう進歩していきたい。

平成26年度産休・育児休業・長期病欠・退職状況

	26年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年 1月	2月	3月	平均
産休	0	2	3	3	2	2	4	4	4	4	3	1	2.7
育児休業	10	9	5	5	8	8	7	7	8	8	8	9	7.7
合計	10	10	8	8	10	10	11	11	12	12	11	10	10
長期病欠 退職 介護休暇 長期研修	1 1	2	1 1 1	1 1	1 1					1 1	1		
採用 (嘱託)	11	(1)	1	(1)	1			(1)			(3)		合計 13 (5)
退職 (嘱託)	1 (1)	1	1	(1)	2		1				(1)	4 (1)	10 (4)

- ・平成26年4月 看護師正職員 平均年齢 36.4歳
看護師勤続年数 平均 11年
年休取得日数 平均 3.0日 (平成26年1月～12月)
- ・平成26年度 産休育休取得者(平成26年3月現在) 10人 (初産4, 経産6)
育児休業日数 平均 428日 (最短303日・最長675日)
離職率 4.6%
介護休暇 1名
長期病欠休暇 2名
長期研修(認知症認定看護師) 1名

平成26年度看護科職員総数(平成27年3月末 248名)

保健師 7名
助産師 8名
看護師 147名(嘱託・パート18名含む)
准看護師 5名
看護補助者 54名(嘱託52名含む)

平成26年度 院外発表

	学会名	演題	月日	場所	発表者・共同者
1	第16回日本褥瘡学会学術集会	外力が除去できず陰圧閉鎖療法が継続できなかった仙骨部褥瘡の1症例	8/29	名古屋市	◎佐藤美夏子 竹内郷子
2	第53回全国自治体病院学会	在宅移行スクリーニング表を使用した退院支援の取り組み	11/12	宮崎県	◎小松智美 梅川瑠依
3	医療学術交流会	災害時マニュアル作成に伴ったA病棟産科の現状と今後の課題	11/23	秋田市	◎鈴木智都

4	秋田県看護協会横手地区 支部研究発表会	ウォーキングカンファレンス導入後の有効性の評価	12/10	横手市	◎高橋愛美
---	------------------------	-------------------------	-------	-----	-------

平成26年度 学会参加

学会名	月日	場所	参加者数
日本創傷・オストミー・失禁管理学会	5/15	大宮市	1名
第2回日本手術医学教育セミナー	8/2	秋田市	1名
日本看護学会 在宅看護	10/2～3	山形市	2名
第2回日本脳神経看護研究学会	10/25	秋田市	3名
第19回日本緩和医療学会学術大会	6/19～21	神戸市	1名

平成26年度 院外研修

研修名	月日	場所	参加者数
1 透析療法従事職員研修	7/19～20	大宮市	1名
2 ファーストレベル教育課程	5/22～12/5	秋田市	2名
3 重症度、医療・看護必要度研修	6/29	秋田市	5名
4 高齢者のエンド・オブ・ライフケア	6/24	秋田市	1名
5 糖尿病の最新の治療と看護	6/5	秋田市	1名
6 認知症高齢者への対応	5/30	秋田市	1名
7 看護研究の基礎を学ぶ	5/21	秋田市	2名
8 輸血研修会	6/15	秋田市	1名
9 移植コーディネーター研修会	7/15	秋田市	1名
10 秋田県病院協会看護管理研究部会	6/24	秋田市	1名
11 ELNEC-Jコアカリキュラム指導者養成	7/26～27	仙台市	1名
12 訪問看護管理者研修	7/12、7/23	秋田市	1名
13 秋田県ストーリーマリハビリテーション研究会	6/14	秋田市	3名
14 入院から始まる退院支援	7/8～9	秋田市	2名
15 臨床場面における倫理的問題の対応	7/31	秋田市	1名
16 癌医療における多職種間の連携の意義と看護の役割	8/7	秋田市	1名
17 入院から始まる退院支援	8/22	秋田市	4名
18 日本感染管理ベストプラクティス研究会	7/12、9/13、12/13	秋田市	2名
19 地域包括ケア病棟への取り組み	6/27	東京都	1名
20 医療ガス取扱い保安講習会	7/24	秋田市	1名
21 秋田県医療安全管理者養成研修	8/28～29、9/19、10/17、11/14～15、11/27	秋田市 横手市	1名

22	SSユーザー会	8/23	大阪市	2名
23	重症度、医療・看護必要度院内指導者研修	8/31	秋田市	5名
24	東北ストーマリハビリテーション講習会 講師と評価委員	8/27	仙台市	1名
25	変革期の看護管理	9/20	秋田市	1名
26	家族支援—家族アセスメントと対応の実際	9/5	秋田市	1名
27	フィジカルアセスメントと早期対応のポイント	9/18	秋田市	2名
28	看護サービスにおける経済性	10/24	秋田市	1名
29	救急救命基礎技術	10/22	横手市	4名
30	脳卒中急性期の看護	10/14	秋田市	2名
31	秋田県新人看護職員の育て方研修 I	9/25、10/4、11/10～11	横手市	1名
32	秋田県新人看護職員の育て方研修 II	9/25、10/4、11/6～7	横手市	1名
33	認定看護師交流会	10/1	秋田市	1名
34	洗浄・滅菌 基礎・実践	9/17～20	長野県	1名
35	看護職のワークライフバランス推進ワークショップ	10/2	秋田市	1名
36	プリセプター養成研修	10/30、12/6	横手市	2名
37	滅菌および感染対策研究会	10/18	秋田市	1名
38	災害支援ナースフォローアップ講習会	9/19	秋田市	1名
39	認定看護師交流会	10/1	秋田市	1名
40	秋田県病院大会	10/25	秋田市	2名
41	移植コーディネーター研修会	12/12	秋田市	1名
42	秋田県合同輸血療法研修会	11/11	秋田市	1名
43	消化器内視鏡技師研究会	11/23	秋田市	1名
44	看護の質向上研修	11/28	横手市	1名
45	看護管理者研修	12/14	横手市	1名
46	秋田県合同輸血療法研修会	2/15	大仙市	4名
47	病院勤務の医療従事者向け認知症対応研修会	2/8	秋田市	4名
48	平成26年度退院調整看護師育成事業	2/19	秋田市	1名
49	妊娠中からの子育て支援事業 事例検討会	3/14	秋田市	1名
50	東北ストーマリハビリテーション研究会	3/14	仙台市	1名
51	助産師のワークショップ	3/5	秋田市	1名

<文責 佐藤セツ子>

2 A病棟

【病棟数】

39床 (重症加算病床 3床・LDR室 2床)

【担当科】

産婦人科・内科・消化器内科・循環器内科

【看護方式】

固定チームナーシング

【H26年度 病棟の概要】

産婦人科と主に消化器内科との混合で、唯一の女性病棟であったが、H26年2月からは男性介助者の入院も受け入れすることとなった。またH26年11月より、女性の眼科入院の受け入れも開始した。

産科は、LDR室が設置、運用され、快適なシャワートイレ付、御家族様の付添い可、最近では夫の立ち合い分娩も増加している。助産師は毎日外来に出向き、個別に妊婦の保健指導及び産後指導に熱心で、特に母乳保育を中心にした指導に力を入れている。また、H26年度より始まった、県の育児支援事業のネットワークづくりにも取り組み始め、妊婦の背景や精神状態から問題があると判断された場合は、外来受診時に病棟助産師・MSW・地域の保健師とも連携をとり、不定期に拡大カンファレンスを施行している。6月～7月は助産科学生の実習の指導にもあたっている。

婦人科は、化学療法治療やターミナル期の緩和ケアの対象者が増加傾向にあるため、認定看護師の訪問や薬剤指導など、他部署との連携を密にした看護ケアを提供している。

内科に関しては、患者様の高齢化・一人暮らし・老々介護など複雑な背景が多く、施設との関わり、介護認定・サービスの検討、在宅介護の家族指導などMSW・ケアマネージャー・施設相談員との連携は、更に重要になってきている。社会的背景などで病院の入院生活に頼る傾向も見受けられるが、入院時から退院支援カンファレンスを行い、早期より対応策を講じている。そのため、特殊なケースを除いては長期化する入院は稀になってきている。褥瘡回診・NST回診・PCT回診などからの情報提供、情報交換なども活発に施行している。

年間分娩数 160名 (中期分娩含む)

年間手術数 131件 (内 全麻87件)

【平成26年度 病棟目標】

1. マウスケア用品使用の評価基準を作成し、手技の統一を図る
2. 行動制限や尿道カテーテルの長期留置を最小限にする
3. 妊産褥婦へのサービスを向上させる

【平成26年度 目標の反省】

目標1. に対して

- ・マウスケア用品の評価基準を作成することができた。
- ・対象患者が少なく、手技の統一及び看護師個々の知識が向上の有無に関わる評価は確認できていない。またスタッフ全員への働きかけも不十分であった。
- ・業者による勉強会を開催できたが、評価シートは作成できなかった。
- ・今後は定期的なカンファレンスや評価などを行い、スタッフへの意識づけと主義の統一を図りたい。

目標2. に対して

- ・行動制限解除に向け、アセスメントツールを作成しカンファレンスができた。
- ・尿道カテーテルについては、毎週木曜日に定期カンファレンスを行い、抜去に向けての取り組みができてきた。

目標3. に対して

- ・妊産婦にアンケートをとり妊娠中に知りたいことや、医師を始めとするスタッフの取り組みなど、現在のホームページの内容を医師と共に検討見直しし、積極的にアピールすることができた。総務課との連携をとりながらH27年度より掲載していきたい。
- ・アンケートを基に、各期のニーズに合わせた妊娠期・産褥期のパンフレットを見直し、周産期のテキストを一冊化し、新たにパンフレットを作製した。
- ・妊娠初期から記載している情報シートの見直しと修正を行い、2月より使用している。また、毎月のチーム会や申し送りで、要支援妊婦の情報を全員で共有できた。また、地域との連携体制もできてきている。今後は母乳育児相談の無料券配布など、更に地域連携を強化していきたい。

<文責 藤井洋子>

3 A病棟

【病床数】

49床…重症加算室2床 含む

【診療科】

主に消化器内科が中心、他脳神経内科・循環器内科・外科等と混合

【看護提供方式】

固定チームナーシング

【H26年度 病棟の概要】

4月から新3A病棟となり、消化器疾患を主流とする、ありとあらゆる科の治療を行ってきた。ESD・EESD・EST・EIS・EVL・EUS-FNA・TACEなどクリティカルパスでの運用、ERCP・肝生検などの検査、胆肝膵ドレナージ、化学療法・術前検査で手術に繋げる入院等が多数あった。また、緊急入院で緊急の処置を要するような急性期医療が多かった。その一方で、高齢者や一人暮らしの方の在宅支援に向けた取り組みも行った。今後も地域住民の高齢化を考えると益々治療の一方で速やかに療養環境を整える在宅介護支援に重点を置く必要性があり、多職種との連携をはかりながらチーム医療を目指して行きたい。

年間治療数 ESD：115件 EST：52件 EIS：34件 RFA：5件 TEA：16件

【H26年度 病棟目標】

1. 患者と家族が安心して入院生活が送れるよう、また、不安なく退院後の生活が送れるよう、チームケアを高める。
2. 「ほうれんそう」ができる。

【目標の反省】

1. ウォーキングカンファレンスの定着で深夜→日勤の申し送りの短縮、あいさつ、患者把握はできていた。また、カンファレンスを毎日行うことで、チーム内での情報共有ができ、より良い解決方法をチーム内で見出すことができた。リーダーからの問題喚起だけでなく、スタッフ内や他職種とも活発にカンファレンスができ、また共同歩調をとりながら速やかに在宅介護支援ができた。
2. 看護師だけでなく、医師やコメディカルともお互いに「ほうれんそう」を行う習慣がついてきたように思う。今後も継続して行っていきたい。

<文責 高橋共子>

3 B 病棟

【病床数】

44床（重症加算病床 3床含）

【担当科】

消化器外科 泌尿器科 循環器科 眼科他

【看護方式】

固定チームナーシング

【H26年度 病棟の概要】

診療報酬改定に伴い急性期病棟として、外科、泌尿器科、眼科に加え、循環器各科の混合病棟となった。

また、緊急な内科の重症患者入院や、救急外来からの緊急手術や他病棟からの手術目的・重症化した患者の転入も多い。患者の高齢化に伴い、認知症など合併症を抱えての手術となり、手術前後の管理も高度化してきた。眼科パス入院、心カテパス入院は毎週水曜日と決まっており、加えて外科の化学療法患者も重なるため入退院が著しい。さらに手術はラパロが主流となり、術後の回復が早く入院日数が短縮されている。化学療法に関しては、病棟担当薬剤師との連携を充分にとり副作用の出現の減少に努めている。また、スタッフや患者の被曝軽減のための啓蒙も積極的に行っている。

当病棟の特徴としては呼吸器装着、CHDFによる高次医療や、人工肛門造設患者の管理、透析導入前後の管理、ペースメーカー植え込みなど、より専門性のあるケアが求められる。退院調整で早期より対応をとり、退院後の生活に支障がないように、患者及び家族指導を行い、MSWや担当ケアマネージャーとの連携をとりながら患者様の立場に立って看護するよう努力している。

年間外科手術件数	317件
泌尿器科手術件数	89件
眼科手術件数	72件
心臓カテーテル検査	31件
ペースメーカー植え込み	5件
ペースメーカージェネレーター交換	7件
体外ペーシング	3件

【H26年度 病棟目標】

1. 固定チームにおける自分の役割を自覚し行動しよう
2. チームの連携を図り、安心・安全な看護を提供しよう

【目標の反省】

Aチーム：個別性のある看護計画の確立、新人の育成を目標とし、受け持ち看護師が患者の退院支援に関して情報収集を行い、チームカンファレンスを行い、患者と家族に関わ

ることができ小集団活動報告で一例を報告した。新人は1名で人間関係は良好で、自己学習もしっかり行われ、計画通りに教育が進められ成長できた。

Bチーム：チーム全体で統一して看護を継続して提供できることを目標とし、カンファレンス運営では日々のカンファレンスが充実し、チームで情報を共有することができた。しかし、個人差があり今後の課題。また、記録・計画監査自体はできていたが、記録で修正が必要な個所や改善策をみんなで話し合う機会や受け持ち看護師以外のチームメンバーの目で看護計画を見て意見をもらう機会も必要である。

A・B共通：環境整備では、転倒転落のリスクの高い患者は、チームカンファレンスを行い予防器具を使用し、不要なものはすぐに撤去してベッド周りの環境整備を整えることができた。環境ラウンドチェックの向上が課題である。

看護ケアの向上では、補助者が中心となりケアを実行、患者の個々のケア記録を作成し、ケア活動に活用してみた。看護師との情報交換により患者の詳しい状況や注意点が把握でき、ケア内容を共有することができ、安心安全なケアができた。

<文責 下夕村優子>

3 C病棟

【病床数】

47床（個室6床 特室1床含）

【担当科】

循環器科 脳神経内科 消化器内科 外科 整形外科 泌尿器科

【看護方式】

固定チームナーシング

【H26年度 病棟の概要】

平成26年度の診療報酬改訂により、4月、20床の亜急性期病床を含む47床での運用をスタートした。看護体制は10：1。

入院により手術や検査等が終了し状態が安定した後、すぐに在宅や施設へ移行するには不安のある患者さんに対し、しばらくの間入院療養を継続し、在宅復帰にむけて準備を整えるための病棟として運用されている。

10月からは地域包括ケア病棟としての運用がスタートし、在宅復帰支援計画に基づき、主治医、看護師、リハビリスタッフ、MSW、等が協力し効率的に患者さんの在宅復帰にむけた準備、相談を行っている。26年度の在宅復帰率は95%だった。

転棟してくる患者は、高齢者、認知症患者、要介護者が大半を占める。さらに、施設スタッフやケアマネージャーなどの多職種間の面接や退院指導などで時間を要するため忙しさは増しているが、研修会への積極的な参加などで知識を高めようとスタッフの意識は高まっている。

【H26年度 病棟目標】

退院支援に関する知識を学び、患者・家族にとって安心した退院の実現を促進する。

Aチーム：受け持ち患者へ積極的に介入し、退院支援をすすめていくことができる。

Bチーム：患者個々に応じた退院支援を円滑に進めていくことができる。

【目標の反省】

Aチーム～

初回カンファレンス内容をチームで周知することにより、チーム全体が統一した内容で情報を把握できていたが、受け持ち看護師が主体となって問題提起することはなかった。

研修内容を報告することでチームスタッフの意識が深まった。

Bチーム～

家族背景をアセスメントし、カンファレンスによりチームで情報共有することによって家族指導がスムーズにでき、退院支援を円滑に進めていくことができた。

<文責 高橋礼子>

4 C 病棟

【病床数】

46床（重症加算室2床）

【診療科】

整形外科、脳神経内科、小児科が主であるが麻酔科、循環器内科、消化器内科も混合している。

【看護提供方式】

固定チームナーシング

【H26年度 病棟の概要】

4月より病棟編成が変わり、各科が混在する急性期混合病棟となった。3人夜勤体制となり急性期疾患への看護を提供している。小児科は流行性の疾患が多く、全て緊急入院であり入院数に変動がある。整形外科は腰椎椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、変形性膝関節症、大腿骨頸部骨折などの手術件数が多い。

手術後のADL拡大に伴う見守り患者が多いため、ケアに時間を要する。高齢者の手術患者が増加しているため、入院時より退院支援、退院調整を開始し多職種と協働し、介護の状況や自宅環境の調整を行っている。リハビリ、MSW、薬剤師などコメディカルとの連携を密に行っており退院調整カンファレンスを重ねている。

年間手術件数	288件	全身麻酔	216件	腰椎麻酔	72件
主な検査件数	ミエロ11件/月	ルートブロック	1.6件/月		

【H26年度 病棟目標】

1. 急性期混合病棟として各科の知識を深め、専門性、安全性をめざし、日々のケアの充実を図る。
2. 報告、連絡、相談を通し、コミュニケーションを活発化させ、よりよい看護を提供する。

【目標の反省】

1. 整形外科、脳神経内科、循環器内科のテストを作成し、病棟スタッフ全にテストを施行。不正解の項目を再度確認しながら学習した。これにより、知識が日々の看護に生かされるようになり、チーム内の意識改革となった。また、ルート管理についてチェックリストを作成し、申し送り時Wチェックで確認する事をマニュアル化した。マニュアル整備により手技の統一を図る事ができた。患者の安全、看護の質向上に向け取り組む事ができた。今後も継続し取り組んでいきたい。
2. 多職種とのカンファレンスを行い、退院困難となる患者のカンファレンスを行っているが、今後も情報を共有し、ケアの充実に繋がるカンファレンスの運営をチームで連携して行う必要がある。

<文責 和賀美由紀>

外来部門

【外来診療科】

内科 消化器内科 循環器内科 呼吸器内科 アレルギー科 外科 整形外科
産婦人科 小児科 泌尿器科 眼科 心療内科 麻酔科 放射線科

【特殊外来】

頭痛外来 ペインクリニック 更年期外来 予防接種外来 乳腺外来

【外来患者数】

1日平均患者数：651.0名
救急外来患者数：10,223名／年
紹介患者数：3,386名／年
新患者数：1,796名／年
救急搬送患者数：955名／年

【検査数・処置件数】

内視鏡検査 上部内視鏡：6,536（うち健診3,171）件／年
下部内視鏡検査：2,413（うち健診243）件／年
放射線検査：CT造影検査：3,045件／年
MRI造影検査：274件／年
血管造影検査（心臓カテーテル検査：35件／年 TAE：39件／年）
自己血採血：120件／年（泌尿器科：6件 整形外科：63件 婦人科：51件）

【外来目標】

1. 応援体制の充実を図り、質の高い看護を提供します。
2. コミュニケーション能力の向上に努めます。

【目標の反省】

外来はおのずと知れた一日の仕事に波のある部署である。患者数、重症度、検査、処置とあらゆる要素が関わり業務量が日々かわっていく。限られた人数で看護援助を継続させていくためにはどうしたら良いのかを考え、応援体制の充実を図ることを目標として掲げた。まずは各科の配置人数を考慮し“フットワークの軽いNs”の育成を試みた。各部署での手伝い業務の洗い出しをし、サポートしやすい現場をめざし、徐々に軌道にのってきた。そしてその際大切なのは、コミュニケーション能力である。業務がいかにスムーズに進むかは何をどうして欲しいかをいかに伝えるかにかかってくる。患者対応だけではなく自分たちの共同業務を行う上でのコミュニケーション能力も養っていけるようにしていきたい。

<文責 木村真貴子>

手術室

<スタッフ>

師 長 佐藤 昌悦
主 任 石橋由紀子 小松ルリ子
副主任 岩村 久子 小田嶋ひとみ 黒沢真知子
看護師 谷口 順子 高橋 華澄 中村奈保子 佐藤 純平
佐藤由佳子 大友 絢香
柿崎 拓磨 (H27.3.1より外来へ勤務交代)
村上 玲子 (H27.3.1よりOP室へ勤務交代)

<手術室構成>

4室稼働 (A/B/C/D)

A：主に人工物挿入 (バイオクリーンルーム) B：一般手術 (主に外科)

C：一般手術 (主に婦人科・泌尿器科) D：眼科手術

<H26年度手術件数>

科 別	外 科	整形外科	婦人科	泌尿器科	眼 科	合 計
件 数	372	428	131	78	94	1,103

全身麻酔 641件 緊急手術 112件

<26年度部署目標>

「安全な手術室看護の提供」

1. 固定チームナーシングの機能がうまく発揮できる
2. 術中訪問にむけての検討
3. 勤務交代がスムーズにでき、医療事故を起こさない環境づくりをする

<評価・まとめ>

3月の機能評価に向けて、マニュアルの整備、手術室の整理整頓ができた。麻酔科医、外科系の医師、コメディカルスタッフ (ME・検査科・薬局など)、病棟看護師と手術室看護師のチーム医療に重点を置いて活動した。当院で初めての腹腔鏡下食道切除術の前に3回カンファレンス (執刀医・麻酔科医・手術室看護師・ME) を開いてから、手術に臨むことができた。固定チームは3グループに分かれてそれぞれ目標達成に向けて活動した。術中訪問は、外科の5時間以上の手術にしぼり、4例の術中訪問を行った。2月の固定チームの発表で成果をまとめることができた。体位固定のチームは開脚位のポジショニングのマニュアル・チェックリストを作成した。KYTのチームは、OP前のチームカンファレンスでKYTをすることにより、安全に手術が受けられるように援助することができた。全体に浸透し、OP前カンファレンス、看護計画の記録もできるようになった。固定チームの活動が少し軌道に乗ってきた1年だった。

<文責 石橋由紀子>

中央材料室・洗濯室

<スタッフ>

師長 佐藤 昌悦

主任 石橋由紀子

業務員 鈴木 和平 (滅菌技師2種)

鈴木 時枝

藤原 明香 (H26. 7. 17より勤務)

安部安結美 (H26. 9. 1より勤務)

柴田 里香 (H26. 7. 16退職)

高橋久美子 (H26. 7. 31退職)

手嶋 陽子 (H26. 9. 30退職)

<滅菌装置>

- ・ 高圧蒸気滅菌器 (AC) 3台
- ・ EOGガス滅菌器 1台
- ・ 過酸化水素プラズマ滅菌 ステラッド 1台

<洗浄機>

- ・ ウォッシャーディスインフェクター (WD) 2台
- ・ 減圧沸騰式洗浄器 (RQ) 1台

<平成26年度部署目標>

1. 各種の参加可能な勉強会には積極的に参加する
2. 減圧沸騰式洗浄器が設置されるので、中央材料室で一括洗浄するように移行していく

<評価・まとめ>

業務員の入れ替わりが激しかったので、事故の無い様に注意した。洗浄・滅菌に関して教育を計画したが、計画通りには進まなかった。しかし、基礎は覚えることはできたので良かった。院外の研修会にも参加し、知識を深める事ができたと思う。RQの運用が軌道に乗ってから、病棟・外来の吸入嘴管の中央化を導入し、その後、病棟の経管栄養ボトル・サクション用ビーカーの中央化を導入した。感染管理認定看護師の小川さんの御指導、協力のもと、現場での一次洗浄を無くすことができた。機能評価に向けて整理整頓ができ、特に問題なく審査を受けることができた。目標は達成できたと思われる。

<文責 石橋由紀子>

人工透析室

H26年4月1日現在

<構成スタッフ> 8名

看護主任 小田嶋明子

看護副主任 小田嶋ゆう子、中村勇美子

看護師 嶋田麻由子、照井かおる、高橋 智子、渡部 僚太、佐々木智美

<ベッド数> 15床

<患者数> 平均患者数 43名

月間平均患者件数 約532件

	述べ件数	新規	依頼	臨時	転入	転院	死亡
H26年度	6,389	3	28	23	6	5	5

<特徴>

透析療法は、移植しなければ生涯継続する必要があり、患者自身の自己管理が不可欠である。そのためには、患者自身が透析を取り入れた生活スタイルを確立できるように、身体的・精神的・社会的でのアセスメントを行い、援助を行っていくのが透析看護の目標である。

現在、人口の高齢化に伴って、慢性維持透析患者ならびに新規導入患者も高齢化が進み、また、糖尿病が4割以上占めるなど重症合併症が増加してきている。そのため、現場では、以前より種々の難題を抱える患者に対応していかなければならず、援助していくのが大変になってきている。このような精神的、肉体的負担の多い患者さんに対処していくには、透析医療にかかわる医療スタッフの連携が必須である。

<勤務体制>

日勤4～6名・準夜2名

月・水・金 3クール（午前の部・午後の部・夜間の部）

火・木・土 2クール

<部署目標>

安全で質の高い透析を提供する

透析チームスタッフとして知識の更なる習得に努め、患者・家族指導の充実を図る

【チーム目標】

患者さんへ統一した指導ができる

*小集団目標

- 「透析導入期～退院まで」「外来通院に向けて」のパンフレットを作成、活用する
- 透析標準看護計画を活用しながら適宜追加、修正をしていく

<目標の反省>

Aチームは、今まで使用していた初回病棟訪問用紙の見直しを行った。この用紙の活用により、経験年数問わず、どのスタッフが訪問しても、統一した指導ができるようになった。「外来通院に向けて」のパンフレットは作成したが、実際はまだ使用していないため、実際使用したうえで再度手直しをしていきたい。

Bチームは、紙ベースからシステムを使用し、標準看護計画を作成することにした。透析標準看護計画の内容については、16項目作成はできている。様々な検討を重ね、テンプレートを利用することになり、現在その方向で進めている。

透析室では固定チームナーシングを導入し、2年が経とうとしている。患者へのかかわり方も以前よりもより細かく密な対応ができるようになったと思う。リーダーやサブリーダーの負担の大きさはいなめないが、患者にとっても1年間自分の受け持ちNsであるという安心感や信頼感が、お互い良い人間関係を構築できていると思う。

<1年間のまとめ>

H26年度は、H25年度に比較して、延べ件数が389件減少した。その理由として、新規導入者、依頼者数、臨時透析が軒並み減少したことが挙げられる。特に新規導入者は15名から3名に減少している。また、転院、転入、死亡はほぼ横ばいであった。しかし、まだまだ透析待機の患者が控えていることから、今後患者数は増加することが予想される。また、高齢化及び重症合併症の患者が増えてきている。これに対し、目標である安全で質の高い看護を提供するためには看護スタッフの確保は重要と考える。

昨年からは透析室でも固定チームナーシングを開始した。スタッフ一人一人が受け持ち患者を持つことで今まで以上に自覚と責任が生まれより良い看護に繋がっている。これから更に業務改善や業務整理を行いながら安全で質の高い看護を提供していきたいと思う。

<文責 小田嶋明子>

訪問看護センター

<平成26年度スタッフ>

保健師	管理主任	高橋	佳子
看護師	副主任	安藤	宏子
看護師		佐藤	友紀
事務		三浦	由紀子

<訪問診察 診療科>

循環器内科 3名 消化器内科 6名 外科 1名

<看護方式>

固定チームナーシング 7月～導入

<機能・概要>

訪問看護の看護師は、要介護者等の心身の特性を踏まえて、全体的な日常生活動作の維持、回復を図ると共に、生活の質の確保を重視した在宅療養が維持できるよう支援している。実践にあたっては、関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めるものとする。

訪問看護の対象者は、寝たきり状態で通院困難な終末期看護、中心静脈栄養・胃瘻・腸瘻・尿道カテーテル・気管カニューレ挿入、人工呼吸器装着、在宅酸素等、医療依存度の高い方がほとんどである。

<H26年度目標>

在宅看護の充実のため、他職種との連携を図り、患者・家族が満足のいく、質の高い看護を提供する。

1. 担当者会議等、他職種とカンファレンスを持ち充実させる。

訪問開始から、他職種担当ケアマネジャー等と連携をとり、在宅での療養生活がスムーズに送れよう、サービス担当者会議の90%の出席率を目指し、患者家族が満足 of いく在宅療養が長期間送られる。

<H26年度反省>

訪問開始後や定期的なサービス担当者会議だけでなく、本人や家族を交えて、面接時に病棟スタッフやケアマネジャー等とカンファレンスを行っている。また、サービス担当者会議へは100%出席し、初回訪問にケアマネジャーと同行訪問を行うなど、密に連携を図っている。

その結果、本人や家族の心配事や不安に思っていることが早い段階でキャッチでき、他職種とうまく連携を取ることができ、本人や家族の意向に沿った看護ができていたので、今後も継続していきたいと思う。

<特記事項>

- 秋田県立衛生看護学院衛生看護科3年の在宅実習が8年目を迎え、今年度も5月～11月まで実習生7名を受け入れ、実習指導にあたった。
- 10年目となる介護保険サービス事業所の情報公表調査も例年通り行われた。
- 院内看護研究発表 「在宅における多職種と情報伝達の在り方 処置シート活用しての取り組み」について

<平成26年度訪問看護件数>

- ・ 訪問看護総件数 1,510件
- ・ 訪問診察総件数 331件
- ・ 臨時訪問件数 116件
- ・ 訪問看護利用総人数 59人
- ・ 新規対象者数 32人
- ・ 死亡者数 30人（自宅17人、病院13人）

H26年度

訪問地区別利用者数

訪問地区	利用者数
横手	51
平鹿	4
大雄	1
山内	1
雄物川	0
増田	1
湯沢	1
合計	59

介護認定内訳

要支援	1
要介護1	1
要介護2	5
要介護3	8
要介護4	11
要介護5	30
医療保険	15

疾患別利用者数

疾患別	人数
脳血管疾患（脳梗塞・脳出血）	11
心疾患（心不全等）	5
悪性疾患	15
特定疾患・難病（パーキンソン病等）	2
精神疾患（老人性痴呆等）	6
筋骨格疾患（骨折・関節症・骨粗鬆症等）	0
脳性麻痺	1
脳症（低酸素・インフルエンザ）	0
その他	19
合計	59

年齢・性別利用者数

年齢	利用者数	男	女
1～29	1	0	1
30～49	2	1	1
50～54	1	1	0
55～59	0	0	0
60～64	0	0	0
65～69	1	1	0
70～74	3	1	2
75～79	4	2	2
80～84	13	9	4
85～89	15	5	10
90～94	7	2	5
95～99	11	4	7
100	0	0	0
合計	59	26	33

利用者の医療処置状況（重複あり）

医療処置	人数
膀胱留置カテーテル	17
胃瘻	10
食道瘻	0
腸瘻	1
中心静脈栄養カテーテル	14
在宅酸素	5
気管カニューレ	3
人工呼吸器	2
NIPPV	1
人工肛門	5
褥瘡	6
ペースメーカー	2
処置なし	17

<文責 高橋佳子>

M E 室

【体制】

≪ 室 長 ≫ 吉岡 浩
 ≪ スタッフ ≫ 川越 弦 柏谷 肇

【主な業務】

医療機器中央管理および院内各所における医療機器管理 在宅医療機器管理
 臨床技術提供 その他、教育・啓蒙など

【主な管理機器】

輸液・シリンジポンプ ベッドサイド・セントラルモニターおよび送信機
 除細動器 人工呼吸器 保育器 血液浄化装置 透析および周辺装置
 麻酔器・電気メス・内視鏡装置などの各種手術室各機器および画像データ管理
 低圧持続吸引装置 深部静脈血栓予防装置など

【各施行件数および症例数】

	件数	備考
CHDF	4	
PMX	3	
PE	1	
胸・腹水処理	61	
人工呼吸	21	
在宅人工呼吸	3	
NIPPV・CPAP	4	すべてNIPPVのみ
SAS検査	4	
在宅酸素療法	10	
心臓カテーテル検査	35	
体外ペーシング	3	
ペースメーカー植込み	14	新規9件 交換5件
ペースメーカー外来	170	外来126件 遠隔モニター64件
下大静脈フィルター留置	2	
回収式自己血処理	50	整形46件 婦人科4件
ラジオ波焼灼術	3	

【院内研修の実施】

4 / 8 新採用者オリエンテーション「医療機器の取り扱いについて」（新採用者）
 4 / 10 輸液・シリンジポンプ、医用テレメータについて（新採用者）
 5 / 22 除細動器について（新採用者・未受講者）
 5 / 28 AED BLSについて（新採用者・未受講者）
 6 / 6 ペースメーカー初級編（希望者）
 6 / 17 透析機室機器について（異動スタッフ）
 7 / 2 人工呼吸器準備編（新採用者・未受講者）
 8 / 19. 25 輸液・シリンジポンプ、医用テレメータについて（中級編）

- 9 / 17. 22. 24 閉鎖式吸引について（新採用者・希望者）
- 12 / 5 ペースメーカー中級編（希望者）
- 2 / 3 人工呼吸器中級編（希望者）
- 2 / 6 除細動器と経皮ペーシングについて（研修医）

【院内報の発行】

- 5 / 27 送信機の異常・故障について、他、諸連絡
- 7 / 31 メラサキュームの使用について、他
- 9 / 19 輸液・シリンジポンプのキーロック、喉頭鏡・アンビューバッグ他
- 1 / 29 AED・除細動器、深部静脈血栓予防装置、他

【学会・研修会】

- 6 / 15 ペースメーカー研修（柏谷）
- 7 / 5. 6 日本臨床工学技士会 透析液安全管理責任者研修（川越）
- 7 / 13 秋田県臨床工学技士会 心電図セミナー（川越・柏谷）
- 8 / 29. 31 日本臨床工学技士会 血液浄化関連指定講習会（川越）
- 9 / 14 透析療法合同専門委員会 透析技術認定士更新講習会（川越）
- 9 / 20 ペーシング治療研究会（柏谷）
- 9 / 28 秋田県臨床工学技士会 透析セミナー（川越）
- 3 / 1 秋田県臨床工学技士会 人工呼吸器セミナー（川越・柏谷）

【委員会・諸会議】

- 医療安全管理委員会 医療安全管理対策委員会 医療安全カンファランス
- 医療機器安全管理部会（透析機器管理委員会含む）
- 手術室運営委員会 救急センター運営委員会 診療材料検討委員会
- 防災対策委員会 医療ガス安全管理委員会

【業務・質改善等】

- ① MRI対応ペースメーカーの導入と撮像マニュアルの策定
- ② 人工呼吸器、NIPのみならず、HOTやCPAP（睡眠時無呼吸症候群検査含む）など、在宅機器の管理、対応窓口の開始
- ③ 人工呼吸器における指示系統の確立
- ④ 機器使用時における使用前点検および誤操作防止対策の徹底
- ⑤ メラサキュームの中央管理開始

【総括】

病院機能評価により多くの業務改善が行われた結果、またもや業務が増えてしまった。更に来年度は透析液水質確保加算2を申請するために、装置の改造や水質検査計画の見直しなど、これまで以上に煩雑となるだろう。今後も大きなミスの無いように努めていきたい。しかし、新たな技術や機器が導入されてきている反面、「スタッフの老朽化」が心配である。機器と同様に故障が起きないように日常の管理はもちろんのこと、将来を見据えた増員で体制を整えつつ、平均年齢を下げたいところである。

<文責 川越 弦>

臨床検査科

スタッフ	佐藤恵美子	(技師長)
	平塚多喜雄	(室長)
	小丹まゆみ	(室長)
	佐々木絹子	(室長)
	佐々木美奈子	(室長) (～8月17日)
	工藤真希子	(主査)
	長瀬 智子	(主査)
	和賀 幸子	(主任)
	柴田 一美	(主任)
	石田 拓耶	(副主任)
	藤原 愛	(副主任)
	加賀谷美智子	(検査技師)
	千田美岐子	(検査技師) (6月2日～)
	松井富美子	(業務員)

組織目標・役割

正確かつ迅速な結果報告で安心できる良質な医療へ貢献をする。
安心かつ安全な医療行為の実行

平成26年度組織目標

機能評価更新への対応
チーム医療への貢献
医療安全に努める

検体検査

増員なしでの年度であり、途中で輸血・病理スタッフ減となったが協力し乗り切りました。

生理検査

1名増員 (従来3名→4名)

増員前は、午前中2名健診センターへ (1名10時まで)

残された1名は、心電図、心エコー予約、スパイロ (外来)、救急外来ポータブル心電図等業務内容が多く、患者様に迷惑をかけることもたびたびであった。

しかし増員となってからは、バックアップ体制が整い、患者さまに迷惑をかけることなく業務の改善がなされた。

病理検査

昨年からは術中迅速診断の標本作成を院内で実施する事となり、今年は軌道に乗り、臨床に大いに役立ったと思われる。

機能評価

26年度組織目標であった機能評価更新への対応は、早くからマニュアルの見直し、各種機器等の記録確認がなされ、混乱もなく受審できた。検査の評価項目であった臨床検査機能を適切に発揮している、輸血・血液製剤投与を確実・安全に実施している、病理診断機能を適切に発揮しているに関しては自己評価同様に高い評価が得られた。

今後の課題として、より質の高い医療ができるように、指摘を受けた病理医の確保と細胞検査士の採用を目標としたい。

年間検査実績 (件)

検体検査 総件数 900,328件

尿一般	47,531	生化学	597,689	赤沈	2,545
尿定性	15,939	血糖	27,715	血ガス	2,795
尿沈渣	12,299	HbA1c	15,926	免疫関連	9,636
便潜血反応	4,710	血液一般	77,448	輸血関連	2,659
インフルエンザ	3,235	凝固線溶	11,470	乳幼児	1,697
一般細菌	2,929	感染症	16,217	外注	27,024
結核菌関連	654	腫瘍マーカー	10,313	外注率 (%)	3

生理検査

心電図	12,098	簡易聴力検査	6,853	腹部エコー (検診)	1,701
ホルター心電図	407	スパイログラフイー (VC・FVC)	2,237	甲状腺エコー	52
マスターダブル	76	眼底カメラ	1,828	頸動脈エコー	308
マスタートリプル	9	脳波	65	心エコー (UCG)	1,797
トレッドミル	4	MCV	150	指尖容積脈波	3
24時間心電血圧計	9	新生児聴力検査	156	血圧脈波	276

病理細胞診

生検	1,080	術材	1,148	細胞診	1,187	婦人科細胞診	4,555
----	-------	----	-------	-----	-------	--------	-------

最後に、平成26年8月17日佐々木美奈子さんがご逝去されました。

検査室は大きな悲しみのなかでの年でありました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

<文責 佐々木絹子>

食 養 科

「病院機能評価受審は、病院の文化である。」という院長の考えのもと、3月の受審に向け職員が一丸となって取り組んだ一年でした。

今回の審査のキーワードは「チーム医療」、スタッフ同士が垣根を越えて診療・ケアを実践していくことが求められていたと思います。管理栄養士も多職種からなる専門チームの一員として介入しました。ケアプロセスにおいては、入院から退院までの経過の中で患者に対し、どのタイミングでどう関わったかの確認、必要な患者に適切に栄養指導が行われたかの確認、多職種とどのように連携したのか（電子カルテの記録をとおして）の確認、といったことが主な審査対象だったような気がします。

なお、管理栄養士としての役割を担うため臨床面で必要な知識の習得に励み、栄養指導においては食習慣・生活環境など多方面から適切にアセスメントし支援するよう努めました。

部署訪問への対応については、旧態依然の現状を改善・整備することに力を注ぎました。ただ、施設・設備の問題はパーフェクトな改善は望めませんでしたので、実情に合った対策を練るよう努めたつもりです。

まずは、受審も終わりました。認定証取得だけが目的ではありませんが、できれば合格判定が出る事を切に望みます。また、平成27年度以降は評価基準のバージョンが変わり、新たな項目が追加されると聞いております。ますます難しくなってくると思いますが、定期的に改善する文化を定着させ、日々努力して参りたいと思います。

食養科スタッフ

技師長	原田 優子
主任	川越 真美
主席調理技能士	天羽 勝義
調理主任	小松 信宏
嘱託事務員	幕沢 美紀・藤原 由香
嘱託調理員	松井世津子・佐藤 殉子・高橋 麗・石川 勝美・百合川智賀子 高橋 広美・高橋加奈子・二坂由紀子・高橋 陽香・小貫由美子 渡辺 絹子・川崎紗央里
パート職員	田中 澄子・小山 訪子・鈴木 千紘

計 21名

活動状況

* 院内活動実績

平成26年11月26日 訪問看護ご苦労様会
「食生活における注意点～介護者の方に向けて～」 原田 優子

* 院外活動実績

平成26年 9月12日 県南地区給食施設関係者研修会（横手保健所主催）
「食改善における調理指導」 原田 優子

平成26年10月18日 うごまちフェア（秋田県栄養士会）
「にこにこ栄養相談」 原田 優子

平成27年 2月25日 横手市栄養士協議会
「こどもの肥満について」 原田 優子

* 出前健康講座実績

平成26年 6月12日 舘合公民館にて 川越 真美

平成26年 7月 8日 精兵村集落会館にて 原田 優子

平成26年 7月25日 大沢公民館にて 川越 真美

平成26年 7月28日 野協会館にて 原田 優子

平成26年 8月25日 深井・大巻・末館児童館にて 川越 真美

***その他（主な出来事）**

平成26年 7月17日 東北厚生局による適時調査
 平成26年12月 5日 横手保健所による立ち入り検査
 平成27年 3月19～20日 機能評価受審

実習生の受け入れ状況

平成26年 8月25日～9月 5日 小西 由衣（秋田栄養短期大学）
 中野 沙耶（ ” ）
 丹尾 遥（ ” ）

平成26年度食数及び給食材料費

区分	食 数（食）				1人1日当たり単価（円）			
	常食	軟食	特別食	合計	常食	軟食	特別食	平均単価
4月	3,659	3,013	3,941	10,613	895	708	558	717
5月	4,183	3,027	3,497	10,707	739	705	622	691
6月	4,346	2,577	3,307	10,230	686	799	631	697
7月	5,155	2,503	3,543	11,201	645	810	658	657
8月	4,608	2,919	3,172	10,699	714	662	615	671
9月	4,045	2,476	2,994	9,515	790	787	644	743
10月	4,579	2,827	2,978	10,384	686	658	607	656
11月	4,477	2,757	3,064	10,298	647	660	563	626
12月	4,292	2,965	3,088	10,345	777	789	718	763
1月	4,412	2,810	3,334	10,556	692	720	554	655
2月	4,306	2,758	2,938	10,002	782	773	660	744
3月	4,204	3,737	3,646	11,587	794	662	588	687
合計	52,266	34,369	39,502	126,137	8,847	8,733	7,418	8,307
平均	4,559	2,864	3,292	10,511	737	728	618	692

平成26年度 栄養指導（外来、入院、集団）状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来	クローン病			1									
	糖尿病	2	1	1	3	1	3	6	6	2	2	2	4
	脂質異常症	1	1	1		1	5		2				1
	慢性腎不全	1	1	1	1		1			3	1	3	4
入院	手術後食		1						2	4	1		1
	糖尿病	3	1	3	6	3	1	4			4	1	5
	高血圧												
	慢性腎不全				3								1
	脳梗塞						2				1		1
	肝硬変												
その他	1	1			1	1				4	1	1	
集団	糖尿病			12	8	5	4	9	6	4	4	9	2
合計人数		8	6	19	21	11	17	19	16	13	17	16	20

<文責 原田優子>

健康管理センター

スタッフ

所 長	船岡 正人	(兼務)
所長補佐	佐藤 正弘	(兼務)
保健師副主任	鈴木久美子	(看護科兼務)
保健師	松浦 喜美	(看護科兼務)
保健師	古関亜矢子	(看護科兼務)
保健師	伊藤真理子	(看護科兼務)
看護師	高松志美子	(看護科兼務・平成26年7月まで)
看護師	関口 エリ	(看護科兼務・平成26年11月から)
副主査	佐藤 超	
事務員	菊地 智子	
事務員	奥山沙耶香	
事務員	樋渡まゆみ	(平成26年5月まで)
事務員	照井 幸代	(平成26年6月から)
事務員	加藤みき子	
事務補助	佐々木 澄	(平成26年8月から11月まで)
事務補助	小原由美子	(平成26年8月から11月まで)
事務補助	照井 美里	(平成26年8月から11月まで)
事務補助	奈良知早都	(平成26年8月から10月まで)

概 要

主な健診項目での対前年度比では、延べ受診者数で11,712名となり、昨年度と比較して2.85%の減となりました。なお、実質の受診者数は、8,022名です。請求額は164,728千円で3,340千円、2.07%増となり、近年では161,000千円の請求額を持続させております。この実績は、院内関係部署各位のご理解ご協力によるものであり、心より感謝申し上げます。

健診受診者への対応と二次検診予約窓口への対応や受診者への継続フォローといった本来の業務の他、外来部門での健康診断や予防接種の担当や、院内職員健康管理として衛生委員会の指示のもと、感染データ管理や各種予防接種対応などといった部署外の業務も当センターが担っております。加えて、国立がん研究センターからの依頼に答え、「次世代多目的コホート研究」への協力及び調査を実施しました。今後も当センターの業務の範囲や量は年々拡大・増加し続け、市民の皆様はもちろん、当院職員についても健康で安心して過ごしていける地域医療に貢献していく所存です。

当院の基本理念「地域の人々に信頼される病院を目指します。」に基づく「地域医療・保健に貢献します。」及び当センター基本理念「地域の人々に信頼される良質な健診を目指します。」を両輪とし、基本方針実現に努めるとともに、二次検診を通して保険診療部門へ貢献する事で、健全な病院経営に資するよう頑張っております。

平成26年度目標

1. 現在提供している各種ドック・健康診断等の質向上
2. 医療事故防止に努める

主な項目の過去5年間の受診者数と請求額

健診種別	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
社保一般健診・付加	2,671	2,980	3,125	3,156	3,048
日帰り人間ドック	1,018	1,000	1,109	1,076	1,184
宿泊人間ドック	182	259	275	267	252
脳ドック	158	161	181	192	197
市役所関係職員健診	1,933	1,946	1,919	1,841	1,726
事業所健診	675	803	930	949	775
子宮がん検診	2,080	2,009	2,029	2,169	2,056
乳がん検診	1,669	1,730	1,749	1,909	1,979
B型肝炎検査	473	491	527	496	495
合計(件数)	10,859	11,379	11,844	12,055	11,712
増減率(%)	4.81	4.79	3.77	0.03	△2.85
請求額(千円)	146,627	153,480	164,144	161,388	164,728
増減率(%)	7.87	4.67	6.95	△1.68	2.07

参考資料

受診種別	受診者(名)	請求額(円)
特定健康診査	104	736,715
特定健康指導	4	49,032
内臓脂肪CT	51	153,000
肺CT	22	264,000
腫瘍マーカー	743	1,997,762
ピロリ抗体	114	114,000
乳腺エコー	39	78,000
HPV検査	99	297,000
インフルエンザ予防接種	50	150,000

平成26年度(2014年度)健康管理センター報告書

健診種別	受診者数(名)	請求金額(円)	検査料金(円)	消費税(円)
協会けんぽ一般健診	2,924	49,046,174	45,413,125	3,633,049
付加健診	181	3,970,410	3,676,307	294,103
子宮ガン検診	69	306,059	283,388	22,671
子宮ガン(オプション)	535	2,058,375	1,905,903	152,472
乳ガン(オプション)	460	1,946,614	1,802,421	144,193
肝炎ウイルス検査	172	350,440	324,482	25,958
日帰り人間ドック	1,184	39,294,670	36,383,954	2,910,716
宿泊人間ドック(マスターダブル希望者を加えた人数)	317	15,019,697	13,907,128	1,112,569
脳ドック	197	6,478,068	5,998,212	479,856
市役所関係職員健診	1,726	16,464,342	15,244,762	1,219,580
事業所健診	775	13,496,868	12,478,582	998,286
婦人科検診	1,452	5,722,638	5,298,740	423,898
乳ガン視触診・マンモグラフィー	1,519	6,379,279	5,906,741	472,538
B型肝炎検査・接種	495	374,669	346,916	27,753
CT・腫瘍マーカーほかオプション	1,118	3,053,762	2,827,561	226,201
特定健康診査・特定保健指導	108	785,747	727,544	58,203
合計	13,232	164,747,812	152,525,766	12,202,046

<文責 三浦幸恵>

事務局

平成26年度は、診療報酬改定と第6次医療法の改正があり、その対応を行いながら新しい地方公営企業会計制度での会計処理や年度末の病院機能評価受審に向けた準備という大変忙しい年になりました。

平成26年度診療報酬改定は、全体改定率がプラス0.10%でしたが、消費税率引き上げに伴う増分を差し引くと実質マイナス1.26%となりました。

今回の改定により7：1看護基準が見直され、亜急性期病床も廃止されることから、急性期の治療が終わった患者さんが在宅復帰へ向けて治療を継続する地域包括ケア病棟を導入することを決定して、4月からその準備を始めました。病棟再編などの準備を行い、10月1日から地域包括ケア病棟（47床）の運用を開始しました。

また、8月1日からは在宅療養後方支援病院の届け出をし、在宅で療養を続けている方が急に入院が必要になったときに、安心して入院治療ができるようバックアップできる体制を作ることができました。

平成26年度の収支状況は、入院、外来ともに患者数が減少しましたが、それぞれの診療単価は上がり、医業収益全体では微増となりました。一方、職員が増えたことによる人件費の増や医薬品などの材料費の増に加え、消費税率引き上げの影響や会計制度の改正により退職手当などの引当金を計上しなければならなかったことなどから大変厳しい決算となり、来年度に向けて収支の改善は大きな課題となりました。

平成26年2月から準備を始めた病院機能評価（3rdG:Ver.1.0）受審は、準備委員会を開催しながら1年間にわたって準備を進め、平成27年3月19日と20日に2日間の審査を受けました。チーム医療を中心としたケアプロセス調査が審査の重点でしたが、事務部門でも様々な改善の視点を与えてもらい、「職員全員参加による病院機能評価の更新」という目標を達成できたのではないかと思います。

病院を地域の多くの皆様に紹介できるよう病院祭を継続して行いたいということから、昨年度に引き続き、10月12日に病院祭を開催しました。骨密度測定や血管年齢測定など病院ならではの企画が好評で、病院祭を毎年開催するためのステップとなりました。

病院の経営環境は年々厳しくなっていますが、今後も引き続き、安心できる良質な医療を提供し、地域の人々の信頼に応え、経営の健全化に努めてまいります。

<文責 佐藤正弘>

総務課

企画係

スタッフ	係	長	高橋 功（兼総務課長、企画経営課主幹）
		主	査 黒澤 雄悦（兼企画経営課企画経営係長）
		嘱託事務員	阿部千鶴子（兼医療安全対策室）
		同	田村 公規

業務内容

- ・ 病院事業の基本計画の策定及び推進に関すること。
- ・ 病院の事務事業の改善及び目標管理に関すること。
- ・ 病院機能評価の取得・継続に関すること。
- ・ 病院事業の経営改善の調査に関すること。
- ・ 病院広告及び広報に関すること。
- ・ 病院ホームページに関すること。
- ・ 皆様の声（投書箱）の回収、回答等の処理。
- ・ 外来・入院患者さんアンケート調査、集計等処理。
- ・ 職員提案制度に関すること。
- ・ 臨床研修医制度に関すること。
- ・ 市立横手病院学術振興基金に関すること。
- ・ 医療安全対策及び院内感染対策における庶務に関すること。
- ・ 秋田県医療学術交流会事務局に関すること。

企画係は、組織上、横手市病院事業（病院部）の企画経営課を兼務しつつ、秋田県医療学術交流会事務局も担当しております。

「26年度病院目標」の策定を受けて、これに基づく院内各部署・部門別目標の策定及び総括、病院機能評価受審の準備、経営改善に向けた調査、検討を継続的に行いました。

業務内容の項目のうち、事務事業の改善については、事務部門における経費節減について重点をおき、昨年に引き続き病院事業として、大森病院との物品の共同購入等の向けた調査等も行いました。

病院機能評価については、平成27年3月19日～20日に実施され、中間的な結果報告では、一部評価を欠いた部分があり、その点については、次年度での検討事項となりました。

広報活動は、病院広報誌を4回発行し、市内全戸配布を行うとともに病院ホームページを随時更新し、最新の内容となるように努めました。

また、患者さん及びそのご家族様等からの「皆様の声」は60件いただいており、直ちに関係部署へ投書内容を知らせるとともに、改善すべき点や謝罪すべき点等への対応を取り、その内容を院内掲示や投書いただいた方へ回答しました。

外来・入院患者さんアンケート調査については「患者サービス向上委員会」を中心に外来患者さんには年1回、入院患者さんには年2回実施しました。

臨床研修医制度に関しては「臨床研修管理委員会」、市立横手病院学術振興基金については「学術研究実績」の項に記載されておりますが、その事務について担当しました。

また、学会発表については、その参加者だけでなく、広く院内の職員へも知っていただくように、B棟4階に掲示板が設置されており、25年度においては2件のポスター掲示が行われた。

秋田県医療学術交流会事務局としては、平成26年11月23日（日）秋田市 秋田県総合保健センターにおいて「第22回秋田県医療学術交流会学術大会・総会」を開催し、一般演題13題、会員交流演題2題の発表と特別講演として「人体の健康と社会の健康」と題して、むのたけじ氏の講演を行いました。

<文責 高橋 功>

総務係

スタッフ 亀谷良文、三浦幸恵、柴田昌洋、後藤美佐子、佐藤ひろみ、長澤克彦、
三浦和也、高橋成美、藤田千紘

業務内容

- ・ 人事・給与支払等管理業務
- ・ 旅費・経費等各種支払業務、会計処理、予算・決算処理、起債管理業務
- ・ 文書収受・発送・保管業務
- ・ 電話交換業務
- ・ 公用車・患者搬送車の運転、維持管理業務
- ・ 選挙事務（院内入院患者の不在者投票）
- ・ 互助会会計事務

医局秘書担当

スタッフ 谷口明美

業務内容

- ・ 医局関連庶務業務全般
- ・ 医師スケジュールの管理業務【学会・出張関係各手配、年休管理など】
- ・ 医局図書室、医師当直室、産泊室の管理業務
- ・ 医局費、旅行積立金収支報告処理業務
- ・ 医師給与に関する書類の作成業務
- ・ 医局行事のセッティング業務

事務当直

スタッフ 佐々木悟、照井利明、松井強士、井上雅幸

業務内容

- ・ 夜間の救急患者の受付、電話取次ぎ、早朝の診察券受付等業務

夜間警備

スタッフ 照井祐一、堀江努、佐藤賢、金征徳、小田島隆

業務内容

- ・ 夜間の来院者等の確認、院内巡回による戸締り・火気確認等業務

<文責 亀谷良文>

管財係

スタッフ

係長（薬品担当） 阿部光子

物品担当 菅原祐司、伊藤有希子、藤倉美穂

施設担当 伊藤建一、高橋正男、渡辺ひとみ

ボイラー室 柿崎更生、杉田健一、堀江敦司、山中慎太郎、千葉禎彦、佐藤幸夫

駐車場 珍田 健、黒沢秀利、谷口英明、向井直樹、久米友樹、中川 巖

*薬品担当

業務内容

- ・ 管財係統括
- ・ 医療機器の購入に関すること
- ・ 医薬品・試薬・血液購入の経理、価格交渉、在庫管理
- ・ 酸素使用状況調査
- ・ 職員被服の見積・発注
- ・ 未払金入力処理、貯蔵品入力処理
- ・ 委託契約、賃借契約に関すること
- ・ 医薬品・診療材料関係使用状況調査
- ・ 棚卸資産調査、統計に関すること
- ・ 院内掲示に関すること
- ・ 行政財産使用許可業務
- ・ その他管財係に関する業務

*施設担当

業務内容

- ・ 施設の営繕、保全に関すること
- ・ 建物、設備の保全に関すること
- ・ 防災に関すること酸素使用状況調査
- ・ 廃棄物に関すること
- ・ 医師住宅の施設管理に関すること
- ・ 危険物の管理保全に関すること
- ・ 駐車場に関すること
- ・ 用地の取得、処分に関すること
- ・ 工事請負契約、委託契約、賃借契約に関すること
- ・ 警備に関すること
- ・ 除排雪に関すること
- ・ 医療用ガスの保全に関すること
- ・ 院内の環境整備に関すること
- ・ エネルギー管理に関すること
- ・ 未払金入力処理
- ・ 開設許可事項変更届出事務に関すること
- ・ 消防・危険物等届出事務に関すること
- ・ 行政財産使用許可業務
- ・ その他施設に関する業務

*用度担当

業務内容

- ・ 医療材料・消耗品の価格交渉、発注、払出業務
- ・ 石油製品の価格交渉、契約

- ・ 市有物件災害共済会事務
- ・ 未払金入力処理
- ・ 特定治療材料の調査に関すること
- ・ 医療材料等の使用状況調査・在庫管理に関すること
- ・ 委託契約、賃借契約に関すること
- ・ 備品購入、備品修理に関すること
- ・ 備品台帳の管理
- ・ その他用度に関する業務

*ボイラー室

業務内容

- ・ ボイラー室の保守管理
- ・ 調機械保守管理
- ・ 暖用ファンコイル保守管理
- ・ 蛍光灯交換及び管理
- ・ 冷房・暖房運転
- ・ 自家発電機の管理
- ・ 重油取り扱い及び管理
- ・ 医療ガス情報監視、点検及び酸素ボンベ交換
- ・ その他施設に関する業務

○宿直時のトラブル及びナースステーションからの要請件数

警報関係	25件
施設関係	40件
蛍光灯関係	40件
ナース関係	50件

○委託契約業務

件数 42件

○賃借契約業務

件数 30件

○医薬品見積状況

試薬	H26. 4. 1	508品目
薬品	H26. 10. 1	1,601品目

○医療機器契約業務

契約件数 手術用照明器具・映像システム 他40件
 契約総額 ￥137,858,962.－

薬品購入実績

(単位：円)

	25年度	26年度
内服	150,738,597	155,360,923
注射	433,192,747	437,079,010
外用	28,381,018	26,041,933
血液	23,636,564	29,402,827
試薬	67,972,231	73,318,212
合計	703,921,157	721,202,905

(消費税含まない)

医療消耗品(特材、一般)購入金額

(単位：円)

	H25			H26		
	医療消耗	特材	一般	医療消耗	特材	一般
4月	27,593,631	11,304,717	16,288,914	34,705,652	16,358,708	18,346,944
5月	30,878,201	12,678,224	18,199,977	27,464,725	11,485,961	15,978,764
6月	31,944,701	14,131,280	17,813,421	33,411,879	15,317,671	18,094,208
7月	38,209,551	19,353,958	18,855,593	37,160,739	17,036,295	20,124,444
8月	39,178,207	17,552,472	21,625,735	39,286,816	16,250,844	23,035,972
9月	31,095,881	11,919,434	19,176,447	32,360,881	13,156,032	19,204,849
上期	198,900,172	86,940,085	111,960,087	204,390,692	89,605,511	114,785,181
10月	35,817,515	15,148,108	20,669,407	39,901,729	16,805,403	23,096,326
11月	41,033,042	19,938,608	21,094,434	33,955,436	13,919,073	20,036,363
12月	36,304,002	14,196,692	22,107,310	38,447,244	16,822,201	21,625,043
1月	32,879,300	17,221,292	15,658,008	33,525,608	15,288,326	18,237,282
2月	30,429,574	13,362,464	17,067,110	29,823,299	13,888,052	15,935,247
3月	32,532,469	15,341,142	17,191,327	37,939,537	15,250,975	22,688,562
下期	208,995,902	95,208,306	113,787,596	213,592,853	91,974,030	121,618,823
合計	407,896,074	182,148,391	225,747,683	417,983,545	181,579,541	236,404,004

平成26年度 医療機器購入一覧

番号	品名	科課名
1	大腸内視鏡用トレーニングモデル	内視鏡室
2	上部消化管汎用ビデオスコープ	内視鏡室
3	高周波焼灼電源装置	内視鏡室
4	大腸ビデオスコープ	内視鏡室
5	上部内視鏡トレーニングモデル	内視鏡室

6	カスパー開創器	手術室
7	グライドスコープコバルトAVL	手術室
8	超音波診断装置	LDR室・2 A病棟処置室・産科外来など
9	分娩監視装置	LDR室・産科病室
10	オートレフケラト/トノメータ TONOREF II	眼科外来
11	血圧脈波検査装置	生理検査室
12	上肢機能評価セット	リハビリテーション科
13	ポータブルスプリングバランサー	リハビリテーション科
14	立ち上がり椅子ユニット	リハビリテーション科
15	超音波画像診断装置	泌尿器科外来
16	簡易陰圧装置	院内病室・病棟出入口
17	戸棚付き調理台	食養科厨房内
18	メラサキューム	病棟
19	AZEシステム	読影室
20	CR Console advance	第2撮影操作室・手術室・C棟X線操作室 (マンモグラフィ用)
21	調剤監査システム	調剤室
22	バイオメディカルフリーザー	検体検査室
23	システム生物顕微鏡&デジタルカメラシステム	病理検査室
24	減圧沸騰式洗浄器	中央材料室
25	手術用照明器具・映像システム	手術室ABC
26	膝用CPMパフォーマー	4 C病棟
27	多目的ベッド	内科処置室
28	ベッド・ベッドサイドレール	看護科
29	電子カルテ・オーダーリングシステム サーバー	院内全域(サーバー室)
30	電子カルテ端末	院内各部署
31	オートクレーブ滅菌装置管理システム	中央材料室
32	ユニバーサル・ラテラルポジショナー	手術室
33	ネットワークスイッチ	医局
34	薬用冷蔵ショーケース	薬局
35	超音波診断装置	産婦人科
36	血液ガスシステム	産婦人科
37	大腸ビデオスコープ	内視鏡室
38	テーブルトップ冷却遠心機	臨床検査科
39	訪問看護公用車	総務課
40	総務課公用車	総務課
41	総務課トラック	総務課

<文責 阿部光子>

医 事 課

概 要

診療科目は、内科、心療内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、アレルギー科、外科、整形外科、小児科、産婦人科、眼科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科の15科でした。

平成26年度患者数は、入院が延患者数63,484人で昨年度より1,350人減（病床利用率77.3% 平均在院日数11.5日）、外来が延患者数158,851人で昨年度より2,338人減となりました。

入院では昨年度に引き続き、呼吸器内科常勤医師の不在による患者数減と消化器内科、循環器内科、外科、整形外科、小児科、麻酔科の減少が大きく影響しました。外来では同じく呼吸器内科、内科、循環器内科、整形外科、小児科が減少しました。

入院収益は昨年度と比較してほぼ同額、外来収益は4.5%増となりました。入院単価は46,214円で昨年度と比較して950円増、外来単価は9,906円で昨年度と比較して562円の増となり、患者数は減少しましたが単価増により外来は収益増につながりました。4月からの消費税率の改定による影響を考えると入院収益では厳しい結果となりました。

平成26年度における医事課の組織目標については、診療報酬改定により設けられた「地域包括ケア病棟の導入」を図り、3C病棟をケア病棟として10月1日より運用を開始しました。導入当初は患者さんの病状や看護必要度、リハビリ等の要件等への対応がうまくできず、病棟利用率が65%台と目標としたラインの85%を下回りましたが、平成27年3月には83.9%となり、目標とした水準の確保に努めました。

二つ目の目標とした「病院原価計算への準備」では、費用と収入に関わるデータの収集を進め、ワーキンググループによる作業を行いました。今後、データを活用したフィードバックを行えるように更に活動を継続していくことにしています。

三つ目の目標は「外来クラークのレベルアップ」でした。診療科担当制から全ての科の会計・レセプトチェックを行えるように環境整備を行い、会計についてはほぼ問題なく実施できるレベルまで来ましたが、レセプトチェックについては、まだ不十分な面もあり、引き続き、レベルアップを目指していきます。

なお、査定減等の取組については、毎月、第3水曜日に入院事務担当と外来事務担当による検討会を行い、査定減等の減少に向けての取組みを継続しており、平成26年度の査定返戻率は0.101%でしたので、今後も査定減に対する取組みを続ける必要があります。

四つ目の目標は「受付窓口の混雑解消」は当初、予定した増員によらず、現員での応援体制で実施したところであり、外来患者さんの満足度調査でも一定の評価をいただいたものですが、引き続き、患者さんをお待たせしないように努めていきます。

また、医療費の未収金対策では医事課職員よる夜間の電話督促を年2回（8/11・12/15）を行い、未収金の回収に取り組んでいます。

組 織

- ・ 医事係（受付・入院事務担当・外来事務担当）
- ・ 会計係
- ・ 医療相談室

スタッフ

浮嶋 優子	石山 博幸	照井 圭子	百合川深里	奥州 理湖	石塚 紫
伊藤 雅子	伊藤 雅子	佐々木有希子	瀬田川春香	佐々木和貴子	
藤田ゆかり	高橋真知子	青池 満雄	高橋由紀子	村田 芳江	小椋美紀子
勝長 薫	後藤恵理子	藤原 明子	照井希世子	伊藤喜美子	

医事課業務内容

※ 窓口業務	受付窓口・会計窓口
※ 医療費請求業務	入院・外来・公費負担請求
※ 医療相談業務	医療相談窓口

<文責 高橋 功>

医療安全管理室

概要

医療安全管理室は、医療事故防止活動を通して「医療の質を保証すること・質の向上を目指すこと」を目的とし、組織横断的に安全管理体制を構築する事を目的としている。平成20年4月より、医療安全管理室に専従の医療安全管理担当者を配置しており、25年度から医療安全管理者が交替した。

医療安全管理者は、病院全体の医療安全に関する業務に従事し、医療安全に関する企画・立案および評価、委員会の円滑な運営の支援、また、職員への医療安全に関する教育研修、情報収集と分析、再発防止策や、発生予防等に努めている。平成26年度は、機能評価受審があり、準備委員会の一員として院内の医療安全の体制強化に努めた。

構成員

医療安全管理室は、医療安全管理室長のもとに次にあげる者をもって構成する。

- | | |
|--------------------------|-------|
| 1) 医療安全管理室長 | 吉岡 浩 |
| 2) 医療安全管理室副室長（専従医療安全管理者） | 高本 和子 |
| 3) 医薬品安全管理者（兼任） | 石田 良樹 |
| 4) 医療機器安全管理者（兼任） | 川越 弦 |
| 5) 医療安全管理室事務（兼任） | 阿部千鶴子 |

業務

1. 院内報告制度の整備とひやりハット報告書の検討集計・分析
2. 医療安全の委員会に関する活動
医療安全管理室会議・医療安全管理対策委員会・感染対策委員会・救急運営委員会・輸血療法委員会・化学療法委員会etc.
3. 医療安全の為の部署間の調整・対策等の提案、ひやりハット通信の作成・回覧
4. 医療安全の為の指針やマニュアルの作成
 - 1) 医療安全に関する指針・規程の見直し
 - 2) 医療安全マニュアルの作成
5. 医療安全に関する研修・教育
6. 医療安全に関する院外からの情報収集と対策、医療安全情報の掲載
7. 医療安全に関する院内評価業務
院内監査 リストバンド装着率・指示伝達確認・注射ラベル（3点認証）
院内の定期的な巡回（麻薬・薬品保管に関する監査）
救急カートの整備状況監査

平成26年度医療安全研修会

日付	内容	講師	対象
4月2日	新採用者研修 医療安全対策（総論・各論）	医療安全管理室 高本和子	新規採用職員
4月8日	基礎看護技術の研修 採血・注射・吸引について	医療安全管理室 高本和子	新人看護師 臨床研修医
5月8日	リスクマネジャー研修	医療安全管理室 高本和子	看護科安全部会メンバー

5月22日	除細動器勉強会	ME 川越弦	新人看護師 臨床研修医
5月26日	薬剤情報の見方	薬剤師 武石知希	新人看護師・臨床研修 医・看護師（病棟・外 来）
5月28日	AED・BLS研修会 心肺蘇生の手順とAEDの使用 方法	医師 伊藤周一 ME 川越弦	新人看護師は必須・研 修会未参加の方・興味 のある方
6月6日	ペースメーカー勉強会 ～初級編～	日本メドトロニック(株)	ペースメーカーに携わ る看護師
6月23日 6月25日	ヨード造影剤投与のリスク マネージメント 造影CT検査に関わるスタッ フが知っておきたいこと	バイエル薬品(株) 外来看護師 佐藤由美子	医局（特に臨床研修 医）・看護科
7月2日	人工呼吸器勉強会 ～準備編～手順の確認	ME 川越弦	病棟看護師
7月8日	医療裁判の実際 医療事故等	(株)損保ジャパン 医師賠償保険金サービ ス課	医療安全管理対策委員 会メンバー・医師・臨 床研修医・部署内リス クマネージャー
7月11日	医療安全看護補助者研修	医療安全管理室 高本和子	看護補助者・業務員
8月22日 9月2日 9月3日	インシデント報告から学ぶ PDCAサイクルの活用 DVDフォロー研修会	自治医科大学附属さい たま医療センター 遠山信幸先生	全職員
8月19日 8月25日	輸液・シリンジポンプECG モニター～使用手順、観察、 ルールの確認など～	ME 川越弦	ポンプを使用する職 員、病棟にてモニター を使用する職員
10月7日	効果的な選択方法・転倒転 落・予防対策等	(株)テクノスジャパン	病棟看護師・看護補助 者
11月27日	これまでの輸血に関するイ ンシデント事例	医師 畑澤淳一	臨床研修医・看護師・ 臨床検査技師
12月3日	当院の医療安全対策	医療安全管理室 高本和子	医師事務作業補助者・ 委託業者職員（リネ ン・清掃・組合）
12月5日	ペースメーカー勉強会 ～応用編～	日本メドトロニック(株)	ペースメーカーに携わ る方、不整脈治療、植 え込みデバイスに興味 のある方
12月16日 1月6日 1月7日	医療安全シンポジウム DVDフォロー研修	基調講演 医師 寺田宏達 食養科 川越真美 臨床検査科 平塚多喜雄 リハビリテーション科 小田嶋尚人 消化器センター 小田島千津子 3B病棟 佐藤睦子	全職員
1月30日	当院の化学療法について	薬剤師 小宅英樹	臨床研修医・病棟看護 師
2月3日 2月4日	人工呼吸器勉強会 ～中級編～	ME 川越弦	臨床研修医・病棟看護 師（2A・3A・3B）
2月17日 2月19日	放射線防御の基礎知識MRI 検査のリスクマネージメント	診療放射線科 佐藤裕基 診療放射線科 根岸裕介	医師・臨床研修医・看 護師

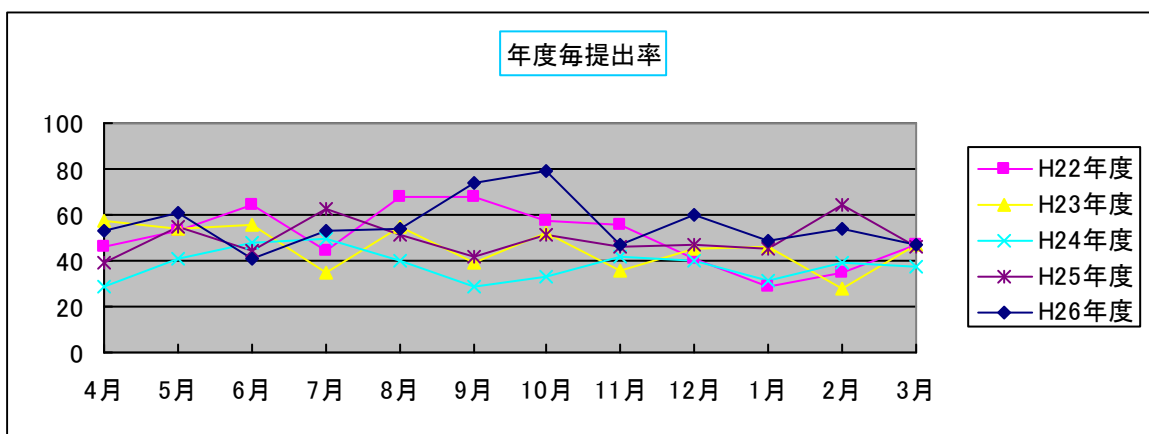
【主な内容】

- 1) 主な定期の会議を「医療安全管理対策委員会」に名称変更して2年が経過した。構成メンバーも医師・薬剤師・看護師・ME・事務部門等、すべての医療安全管理責任者（各部署長）へ改訂したことにより、医療安全管理体制が実務的に強化されてきた。
- 2) インシデント報告奨励「院長表彰」を導入し、各部署の医療安全の意識向上・活動が活性化された。
- 3) 患者サポート体制により、各部門の担当者と共に週一回カンファレンスを開催し、患者相談の対応・報告が実施された。
- 4) 安全対策として「検体検査患者安全認証システム導入」及び「メドトロニック社製MRI対応ペースメーカー 撮像マニュアル作成」「小児科外来：予防接種薬剤の管理」などについてシステム改善を行った。
- 5) 毎週医療安全カンファレンスを開催し、多くのインシデント報告の対策検討を行った。更に関係部署と連携し再発防止とマニュアル改訂を行い、院内全体が医療安全へ取り組むことができた。

平成26年度ヒヤリハット集計

年度毎提出件数 月別

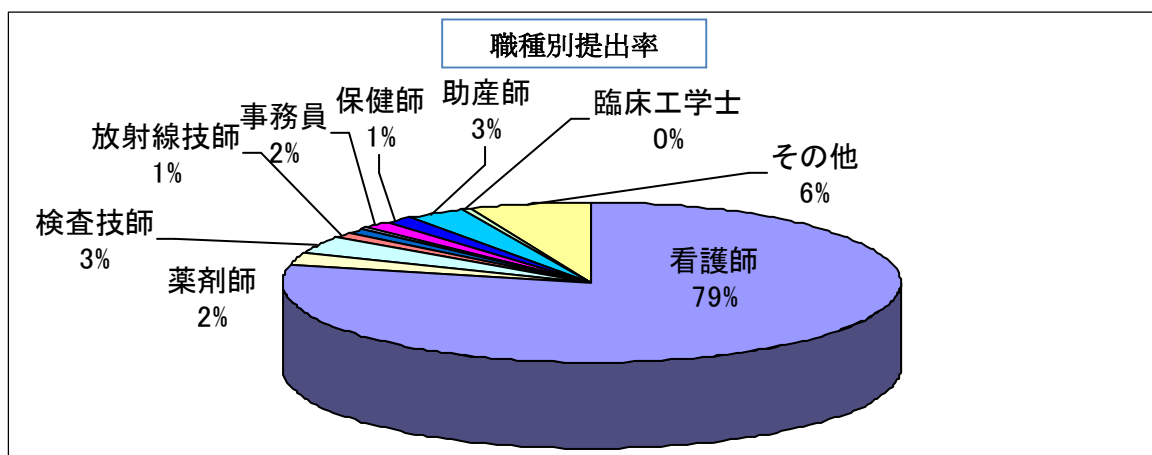
年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H22年度	46	53	64	44	68	68	57	56	41	29	35	47	608
H23年度	57	54	56	35	55	39	52	36	45	46	28	47	550
H24年度	29	41	48	50	40	29	33	42	40	31	39	37	459
H25年度	39	55	44	63	51	42	51	46	47	45	64	46	593
H26年度	53	61	41	53	54	74	79	47	60	49	54	47	672



職種別提出件数 月別

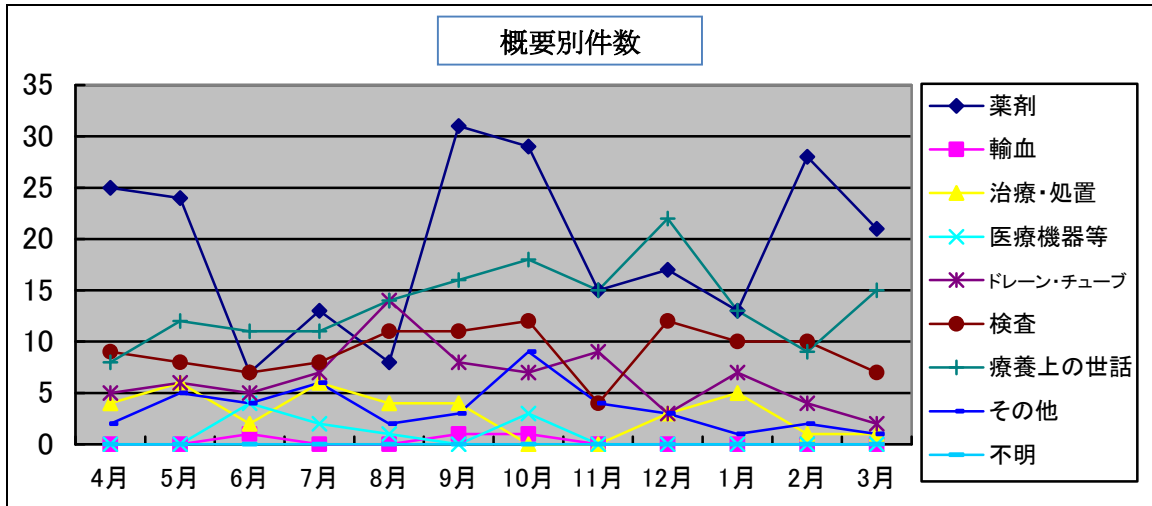
職種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医師	0	0	0	0	2	0	2	1	0	0	0	0	5
看護師	41	48	31	43	43	57	57	39	46	39	42	39	525
准看護師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
薬剤師	3	2	0	2	1	2	2	0	1	1	1	1	16
検査技師	4	3	2	0	3	2	1	0	4	1	2	1	23
助手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線技師	0	1	0	0	1	2	0	2	0	1	0	0	7

理学療法士	0	0	1	0	1	1	2	0	1	0	0	1	7
作業療法士	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
言語療法士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事務員	0	1	2	1	1	1	4	0	1	0	0	0	11
運転手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ボイラー技師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
管理栄養士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栄養士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
調理師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保健師	1	0	0	2	0	0	1	3	0	1	1	1	10
助産師	2	2	1	2	1	4	3	0	2	1	1	1	20
MSW	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床工学士	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	3
その他	2	4	4	2	0	5	5	2	5	5	6	3	43
合計	53	61	41	53	54	74	79	47	60	49	54	47	672



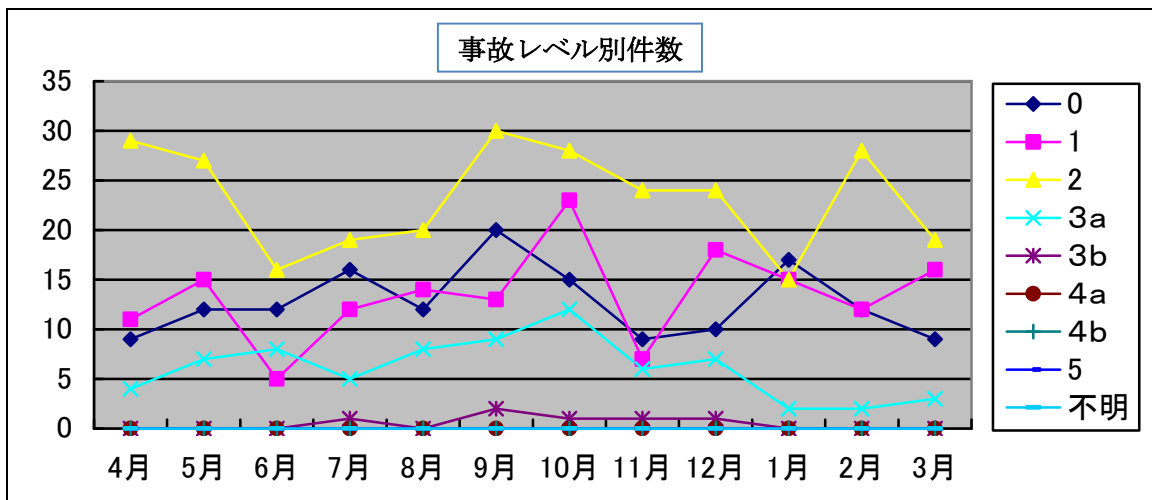
ヒヤリハット概要 月別

概要	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
薬剤	25	24	7	13	8	31	29	15	17	13	28	21	231
輸血	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3
治療・処置	4	6	2	6	4	4	0	0	3	5	1	1	36
医療機器等	0	0	4	2	1	0	3	0	0	0	0	0	10
ドレーン・チューブ	5	6	5	7	14	8	7	9	3	7	4	2	77
検査	9	8	7	8	11	11	12	4	12	10	10	7	109
療養上の世話	8	12	11	11	14	16	18	15	22	13	9	15	164
その他	2	5	4	6	2	3	9	4	3	1	2	1	42
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	53	61	41	53	54	74	79	47	60	49	54	47	672



平成26年度レベル分類 月別

事故レベル	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	9	12	12	16	12	20	15	9	10	17	12	9	153
1	11	15	5	12	14	13	23	7	18	15	12	16	161
2	29	27	16	19	20	30	28	24	24	15	28	19	279
3 a	4	7	8	5	8	9	12	6	7	2	2	3	73
3 b	0	0	0	1	0	2	1	1	1	0	0	0	6
4 a	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 b	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	53	61	41	53	54	74	79	47	60	49	54	47	672



<文責 高本和子>

医療情報管理室

平成26年度は、適切な診療情報の管理とその分析および電子カルテ運用の適正な管理を行うこと、また、契約方法および契約先の見直しを行いシステムの更新等に伴う導入コストの削減を行うことを目的とした。

<電子カルテ>

電子カルテシステム関連として、日々のシステム更新に加え、

- ① 電子カルテ・オーダーリングサーバーの更新
- ② 平成23年度より5ヶ年計画で実施することとした、次期電子カルテシステムへのリプレイスを踏まえたWindows 7 端末の導入について、その4年目として70台の端末設定
- ③ 業務用のインターネット用端末についてWindows XPのサポート終了に伴う更新
- ④ 介護施設等への往診時にも利用できる持ち出し可能な電子カルテ環境についての検討
- ⑤ 病院機能評価受診に伴う各部署からのシステムに関する問い合わせや支援業務

を実施した。

また、例年に引き続き、電子カルテソフトベンダーからのSEの定期訪問事業を実施し、各部署の要望等を取り入れたシステム更新を実施した。

<平成26年度のスタッフ>

藤盛 修成	佐藤セツ子	照井 洋子	高橋 共子
浮嶋 優子	照井 圭子	木村 宏樹	佐藤 恵
伊藤 誉幸	千葉 崇仁	高橋 清	

<医療情報管理室の業務内容>

- ・ 電子カルテシステムを主とした院内医療情報システムの更新及び保守
- ・ 院内情報システム機器の更新・修理・新規設置等の作業
- ・ 新規システム導入に関する企画・立案及び各部署への助言
- ・ 病診連携システム導入に関する調整
- ・ 院内職員に対するシステム関連のヘルプデスク作業
- ・ 診療情報に関する統計的資料の作成及び分析

<文責 千葉崇仁>

地域医療連携室

当室は地域の中核病院としての役割を果たすため、地域の医療機関、保健・福祉関連担当との連携を図り、急性期医療の提供、良質で安全・安心出来る医療、効率的な医療を適切に提供するとともに、退院時にも医療機関や関係各部門への連絡調整するための窓口として業務を行うことを目的とした部署です。

このため、内部組織として「地域医療連携担当」、「患者相談担当」、「退院調整担当」をおき、業務を行いました。

スタッフ

室長	藤盛 修成 (医局 地域医療連携担当)
副室長	和泉千香子 (医局 退院調整担当)
〃	佐々木佳子 (看護科 退院調整担当)
室員	木村真貴子 (看護科 地域医療連携担当)
	高橋 礼子 (看護科 退院調整担当)
	高橋 佳子 (看護科 退院調整担当)
	小田嶋尚人 (リハビリテーション科 退院調整担当)
	浮嶋 優子 (医事課 地域医療連携担当・患者相談担当・退院調整担当)
	石山 博幸 (医療相談室 患者相談担当・退院調整担当)
	高橋 美幸 (地域医療連携室 地域医療連携担当)
	藤原 明子 (医療相談室 患者相談担当・退院調整担当)

所管事項

地域医療連携担当

- ・紹介患者さんの診察、検査予約の調整 (電話・FAX)
- ・紹介元医療機関への結果報告、情報提供と管理
- ・地域医療機関、関係各部門との連絡調整
- ・地域医療連携室の広報誌の作成 (地域医療連携だより「かじか」発行)
- ・地域医療機関等への訪問 (7月下旬・12月下旬の年2回、50ヶ所の医療機関へ丹羽院長、吉岡、船岡、藤盛、江畑副院長が分担して実施)
- ・地域医療連携セミナーの開催
- ・地域医療連携に関するデータ管理
- ・医療機関・関係部門との研修会、懇談会の開催
- ・アンケート調査
- ・休日当番医について

地域医療連携担当業務としては、今年度は、診察2,531件、検査855件、合計3,386件のご紹介をいただきました。昨年度と比較し、診察の紹介件数は24件の増加、検査の紹介件数が33件の増加となり、紹介件数全体としては57件の増加となりました。今後も予約方法の改善を行うなどして、ご利用いただけるように努めてまいります。

また、11月4日には「地域医療連携セミナー」を開催し、連携医療機関等から23名の先生方

のご参加をいただきました。セミナーとして、内科 鈴木 直志科長より「睡眠呼吸障害×生活習慣病」、薬剤科 小宅 英樹主任より「当院のNST活動について」の2題を発表するとともに、平成25年度地域医療連携室実績報告、院内がん登録データの報告、在宅療養後方支援病院としての受け入れについて等をお知らせさせていただき、セミナー終了後には懇親会を開催して更なる意見交換等を行いました。

平成17年から始まりましたこの「地域医療連携セミナー」も10回目を迎え、年1回の貴重な情報交換の場として有意義なものとなっており、今後ともより多くの先生方にご参加いただけるようセミナーの内容を充実させ、より地域医療連携を円滑に進むように努めてまいります。

患者相談担当

- ・介護保険や福祉制度に関する説明、相談
- ・退院後の相談（在宅医療、転院先、施設入所等）
- ・病気などの健康相談、苦情相談等

担当者の所属は医療相談室となっておりますが、地域包括ケア体制への対応を含め、地域医療連携、患者相談、退院調整・支援が連続した形での対応を行っています。

また、相談内容に適切に対応するため、患者相談窓口（患者サポート体制 平日8：30～17：00）を設けて対応を行うとともに、患者さんやご家族からの疾病に関する医学的な質問、生活上や入院上の不安等、医療安全を含む様々な苦情、相談、要望等にも対応するため、総合案内（平日 9：00～11：00）に医師・看護師・医療安全管理者・薬剤師・検査技師・管理栄養士・理学作業療法士・放射線技師・事務局等の各職種からの担当者を出して対応（188日実施）を行っています。

毎週月曜日に「患者サポート体制カンファレンス」を開催し、相談等の共有化と必要な対応等の検討を行うとともに関係各部門からの検討事項や周知事項についても確認し、患者サポート体制に係る取組の評価を実施しています。

退院支援担当

- ・退院困難な患者の退院支援
- ・医療機関や関係施設への連絡調整
- ・退院調整会議（退院支援チーム）の開催
- ・退院支援委員会の開催
- ・退院支援に関するデータ管理
- ・院内研修会の企画、開催

<文責 高橋 功>

医師事務支援室

<概要>

25年度から消化器センターへ検査説明・オーダー代行入力で配置していたが、26年度の新しい取り組みとして、消化器内科医師の外来診察補助を開始した。消化器内科医師の患者数が多く、外来診察時間が延びて病棟回診への影響が出ていたため、医師事務作業補助者を配置し、医師の事務補助を行ったところ、診察予約時間がほぼ保たれ、外来診察時間が短縮された。このことにより、医師の病棟回診がスムーズに行われた。

さらに、泌尿器科は常勤の医師が一人のため、外来診察時の医師の補助を開始した。

また、入院患者の定期処方について、医師の指示の下、代行入力を行った。

院内研修では、当院薬剤師を講師として「薬剤情報の見方について」、医療安全管理者より「当院の医療安全対策」、また、薬剤師より「当院の化学療法について」の研修会を開催した。

来年度は更に医師の事務負担の軽減を目標に、業務の見直しと改善を行う予定である。

<構成>

室長	藤盛 修成			
室長補佐	浮嶋 優子			
医師事務作業補助者	伊藤 尚子	小川由美子	佐藤 裕香	照井 奏
	小松田はつみ	島田万里子	佐藤ゆかり	柿崎志穂子
	加藤 広美	長谷川澄子	三浦由紀子	大沢真由美
	高橋 美幸			

<業務内容>

○診断書等の文書作成補助

- ・診断書・入院証明書等の記載代行、紹介患者診療情報代行入力、書類に関する問い合わせ、内容の紹介。

○診療記録への代行入力

- ・電子カルテやオーダーリング等の代行入力。
外来診察時補助・各種オーダー入力・退院サマリー作成

○医療の質の向上に資する事務作業

- ・外来患者への検査説明
- ・外来患者への問診と入力
- ・病院月報の作成
- ・予定入院患者の入院準備、入院説明

○行政上の対応

- ・NCD代行入力
- ・救急医療情報入力
- ・JAS麻酔台帳作成

<文責 浮嶋優子>

委員会活動

医療安全管理対策委員会

概 要

院内における医療の安全管理体制の確立を図り、適切かつ安全な医療の提供に資することを目的としている。これまでの委員会を「医療安全管理対策委員会」と名称変更し、構成メンバーを医師・薬剤師・看護師・ME・事務部門等、各部署の医療安全管理責任者（各部署長）としてから2年が経過した。これにより院内の医療事故防止を図るための実質的な組織体制ができた。院内のひやりはっと報告書の評価・分析を行い、具体的対策の検討・決定後各部署内に於ける安全対策の周知徹底を行う。

委員会の構成員

委員長	吉岡 浩			
副委員長	高本 和子			
委員	寺田 宏達	奥山 厚	佐藤 優真	佐々木 諒
	小野 怜子	佐藤セツ子	木村真貴子	藤井 洋子
	高橋 共子	下夕村優子	高橋 礼子	和賀美由紀
	佐藤 昌悦	川越 弦	石田 良樹	藤原 理吉
	小田嶋尚人	佐藤恵美子	原田 優子	鈴木久美子
	浮嶋 優子	高橋 功		

委員会開催日

平成26年	4月8日	5月13日	6月10日	7月8日
	8月12日	9月19日	10月14日	11月11日
	12月9日			
平成27年	1月13日	2月10日	3月10日	(合計 12回)

主な協議事項

各月毎に①インシデント事例紹介・検討 ②院内監査報告 ③ヒヤリハット集計報告がされた。

- 4月 「検査科に提出された「尿培養」検体が、検査未実施となった事例」
他・H26年度医療安全管理対策委員会名簿の改訂承認
・インシデント報告奨励のための表彰基準」について
- 5月 「TKA術後1病日に誤ったSBチューブ管理をした事例」
- 6月 「CT検査後 誤って腹腔ドレーンのチューブを切断してしまった事例」
* 移乗前にドレーンの挿入部・ルート of 走行を確認し、リーダー役（医師・看護師）の掛け声の元 安全確認後に移乗する。マニュアル改訂
- 7月 「未滅菌の物品をパスボックスに入れてしまった事例」
* 乾燥・メンテナンス中の物品を滅菌バックに入れず。マニュアルの改善
- 8月 「小児科外来管理の予防接種薬剤が全廃となった事例」
* 薬剤師による予防接種薬剤の管理とする（PCによる温度管理）

- 9月 「CHDF治療中の患者がCT（造影）検査時、必要以上に治療中断された事例」
*濃厚治療患者に係る検査・処置について必ず主治医へ報告・相談する
医療安全研修会（全職員対象）の報告
- 10月 「他院からの診療情報（メール）が未受信のため診察日が延期となった事例」
*医療情報管理室側でメール着信を確認可能なシステム環境へ整備
- 11月 「和痛分娩時、薬剤を誤って違うチューブに接続した事例」
*指示薬剤と接続部位を明記し、医師指示を明確に入力指示する
- 12月 「既存カルテに、誤って他の患者情報を上書きした事例」
*「1患者 1ID」の原則の基、患者基本情報変更時は、保険証など根拠となる書類に基づいて行う
- H27年 1月 「退院指導を受けた患者が、自宅で誤って尿道カテーテルを切断した事例」
*退院指導用パンフレットを活用する・DIBキャップの留意点の周知
- 2月 「採血室で、患者誤認採血が疑われた事例」
*採血支援システムで患者認証後、最後まで同じユニットで採血を実施する
医療安全研修会（全職員対象）の報告
- 3月 「11歳の小児へ、抗インフルエンザ薬（イナビル）を成人の2倍量投与した事例」
*間違えない作業環境の整備（1キット20mgずつ、準備・保管する）

<文責 高本和子>

医療事故対策委員会

概要

院内における医療の安全管理体制の確立を図り、適切かつ安全な医療の提供に資することを目的とする。

大きな医療事故が発生した場合、情報の共有と当面の対応を協議して、病院ならびに患者側・病院職員両者へのダメージコントロールを迅速に行い、社会的損失を最小限に抑えるよう対策を講じる。また、医療事故の分析および再発防止の検討について行い、医療訴訟の対応・紛争解決への対応を行う。

構成員

委員長	診療科	丹羽 誠	病院長
	診療科	吉岡 浩	医療安全管理室室長
	診療科	藤盛 修成	
	診療科		※主治医
	看護科	佐藤セツ子	
	事務局	佐藤 正弘	
	医事課	浮嶋 優子	
	医療安全管理室	高本 和子	医療安全管理者

件数

報告5件：レベル3b以上の事故報告書

骨折（4件）人工呼吸器管理中の挿管チューブの自己抜管（1件）

原因分析・対策を速やかに行い、再発防止に取り組んだ。（情報共有・環境整備・自己抜管の防止策・整形術後の患者用パンフレット改善など）

構成員へ書面で報告を行ない、委員会メンバー全員が承認確認をした。

対応

1. 医療事故事例の原因分析から再発防止に取り組んだ。
2. 受傷早期に担当科受診後処置をした。
3. H25年1月発生的事例1件について、平成26年5月29日終結。
4. 患者サポート体制からの対応にてH26年12月1日病理解剖症例検討会開催。
5. 会議開催数 8回

最後に

平成26年度は、日本医療機能評価機構への報告事例なし。

<文責 高本和子>

院内感染対策委員会

1. 概要

院内感染対策委員会の目的は、院内感染の積極的な防止、並びに病院から排出される医療廃棄物の適正処理に関して必要な事項を審議することを目的としている。市立横手病院感染対策チームが実践活動を行い、病院長の諮問機関である院内感染対策委員会へ提言・報告を行っている。

2. 構成員

委員長：丹羽 誠
副委員長：船岡 正人
委員：和泉千香子 佐藤 正弘 伊藤 建一 石田 良樹 佐藤セツ子
佐々木佳子 高本 和子 石橋由紀子 小田嶋千津子 照井 洋子
赤川恵理子 高橋 正子 佐藤 悦子 高田真紀子 佐々木絹子
小川 伸

3. 院内感染対策委員会の開催回数

- ・開催回数：月1回、年間12回の会議を開催した。
- ・委員参加率（平均）：90.3%

4. 全職員を対象とした院内感染対策研修会内容

開催日：2014年7月25日（金）
講演：尿路感染症への対応
講師：札幌医科大学医学部 泌尿器科学講座 准教授 高橋 聡 先生

開催日：2014年11月7日（金）
講演：中通総合病院 脳神経外科 感染制御部長 ICD
講師：菅原 厚 先生

5. サーベイランス結果

	感染率*	使用比
尿道留置カテーテル関連感染	0.99	0.19

期間：2014年4月～2015年3月、対象：2A病棟、3A病棟、3C病棟、*単位：センデバイスデイズ

	感染率*	使用比
中心静脈カテーテル関連感染	2.39	0.11

期間：2014年4月～2015年3月、対象：2A病棟、3A病棟、3C病棟、*単位：センデバイスデイズ

	H21	H22	H23	H24	H25	H26
消化器外科手術部位感染発生率	10.3%	9.6%	11.0%	7.7%	4.7%	4.8%

<文責 小川 伸>

栄養管理委員会

栄養管理委員会は、給食関係諸部との連絡を緊密にし、栄養管理業務の円滑な運営と給食の充実・改善・向上を図ることを目的としています。

- 協議事項**
- ①栄養業務の運営に関する事項
 - ②栄養業務の向上に関する事項
 - ③各職域間の円滑な運営に関する事項
 - ④施設・設備の改善に関する事項
 - ⑤その他栄養サービスに関する事項

委員会の構成員は以下に示したとおりであり、平成26年度の主な議題を示しました。

役 職	氏 名	役 職	氏 名
院 長	丹羽 誠	薬剤科主任	小宅 英樹
食養科長	船岡 正人	食養科技師長	原田 優子
事務局長	佐藤 正弘	主 任	川越 真美
医事課係長	照井 圭子	主席調理技能士	天羽 勝義
総 師 長	佐藤セツ子	嘱託調理師	松井世津子
2 A病棟師長	藤井 洋子	嘱託調理師	佐藤 殉子
3 A病棟師長	高橋 共子	嘱託調理師	高橋 麗
3 B病棟師長	下夕村優子		
3 C病棟師長	高橋 礼子		
4 C病棟師長	和賀美由紀		

平成26年度委員会開催日および主な議題

平成26年4月23日

- * 栄養管理委員会メンバーについて
- * 年間計画表について
- * 診療報酬改定について
- * 食札について
- * 害虫駆除について

平成26年7月23日

- * 「患者さんのお声」からの意見（箸の導入）について
- * 東北厚生局による適時調査結果について

平成26年10月22日

- * 経管流動食「F2ライトMP・Fライト55」について商品説明並びに導入の検討について

平成27年1月21日

- * 経管流動食について
- * 備蓄品について
- * 病棟訪問について
- * 2015年版・日本人の食事摂取基準について
- * 補修工事について
- * 医師検食簿について

<文責 原田優子>

NST委員会

目 的

個々の患者の栄養状態を評価し、最もふさわしい栄養管理を提言することで、個々の患者の治療、回復、退院及び社会復帰に寄与し、もって当院の医療の質の向上を目的とする。

構成員

Supervisor 丹羽 誠

Chairman 船岡 正人

Director

Core Staff 江畑公仁男 安藤 宏子 菅原なつき 平塚加奈子 深沢 美里
高橋 愛美 大山十亜良 福田 祐美 小松孝太郎 和賀美由紀
岩見香名子 高橋 幸代 原田 優子 川越 真美 小宅 英樹
古関 佳人 百合川深里 柴田 昌洋
佐々木美奈子(H26. 8月まで)

役 割

1. 適切な栄養評価
2. 栄養管理法の提言
3. 栄養管理に伴う合併症の予防・早期発見・治療
4. 患者の早期退院・早期社会復帰に努める
5. 栄養管理法に関するコンサルテーション
6. 栄養管理法の啓蒙

活動内容

1. 全入院患者に対して栄養評価を行い個人ファイルとして保存する。この中から問題症例を抽出し、個々の症例に最適な栄養療法を立案・提言する
2. 抽出した症例に対してNST Core Staffによる症例検討会及び回診を行い、栄養管理の判定・評価を継続的に行う
3. 検討会、栄養評価、回診の内容に関しては記録し、保存する
4. 前記各号に掲げた活動は主治医、NSTメンバーからのコンサルテーションにより開始されることがある。更に、このコンサルテーションは24時間体制で行うものとする
5. 栄養療法に関する情報の収集・提供、各種勉強会や研修会などの開催
6. その他、栄養療法に関する事柄

ONST栄養評価、回診（毎週月曜日15時～）

4月7日 14日 21日 28日

5月12日 19日 26日

6月9日 16日 23日 30日

7月7日 14日 28日
8月4日 11日 18日 25日
9月1日 8日 22日 29日
10月6日 20日 27日
11月10日 17日
12月1日 8日 15日 22日
1月5日 19日 26日
2月2日 9日 16日 23日
3月2日 9日 16日 23日 30日

○NST症例検討会（毎月第2水曜日17時30分～18時30分）

4月9日 第1回
5月14日 第2回
6月11日 第3回
8月11日 第4回
10月8日 第5回
11月12日 第6回
1月22日 第7回
2月18日 第8回
3月11日 第9回

○NST勉強会（第2水曜日17時30～18時30分）

平成26年7月9日 第1回勉強会

テーマ 「経腸栄養と腸内細菌」

内容 腸内細菌と経腸栄養との関について

講師 ミヤリサン製薬株式会社

平成26年10月8日 第2回勉強会

テーマ 「糖尿病と食物繊維」

内容 糖尿病の基本知識と治療、食物繊維と糖尿病との関係など

講師 株式会社三和化学研究所

平成27年1月22日 第3回勉強会

テーマ 「経腸栄養に係る勉強」

内容 半固形化栄養剤の特徴と有用例、使用上の注意など

講師 株式会社大塚製薬工場

平成27年2月18日 第4回勉強会

テーマ 「NSTへの歯科医師介入の意義」

内容 NSTチームに歯科医師がメンバーとして介入する意義について

講師 ささき歯科医院 院長 佐々木徹 先生

<文責 柴田昌洋>

褥瘡対策委員会

本委員会は、院内の褥瘡対策を討議・検討し、その効率的な推進を図るため、平成14年度より設置された。院内における褥瘡予防体制確立のための活動や、褥瘡発生事例の対策に関する調査や審議を行っている。

【構成員】

委員長	医師	伊勢 憲人		
副委員長	医師	武内 郷子		
褥瘡管理者	皮膚・排泄ケア認定看護師	佐藤美夏子		
委員	病棟看護師	高橋加美子	久米 鮎美	煙山由紀子
		斉藤みどり	横井 道子	地主 愛
		山石 陽子	小川千夏子	大澤 恵美
		篠木 望美		
	訪問看護師	佐藤 友紀		
	手術室看護師	岩村 久子		
	透析室看護師	高橋 智子		
	薬剤師	渡邊 圭子		
	管理栄養士	川越 真美		
	臨床検査技師	工藤真希子		
	理学療法士	石川 順基		
	医事課	百合川深里		
	総務課	阿部 光子		
事務局	管材係	菅原 祐司		

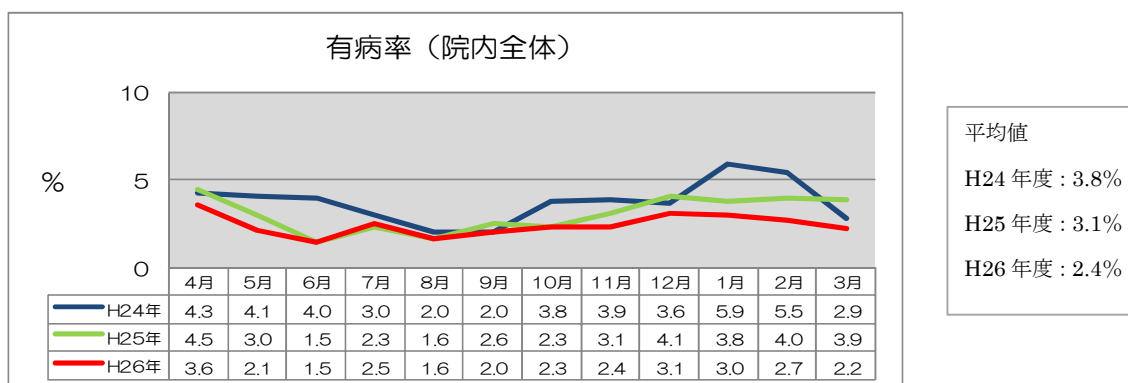
【主な活動内容】

- 1) 褥瘡対策委員会開催
4/10、5/8、6/12、7/10、8/14、9/11、10/9、11/13、12/11、1/8、2/12、3/12
- 2) 褥瘡回診（1週間に1回）ならびに褥瘡ハイリスク患者カンファレンスの実施
- 3) 体圧分散寝具等の整備
- 4) 学習会の実施
4/8：新規採用者研修「褥瘡対策の基本」出席者数11名
10/23：病棟看護補助者研修「褥瘡対策用品の管理と基本的ケア技術」出席者数20名
12/8：医師・看護師対象院内研修：「DESIGN-Rの採点方法」出席者数40名

【動向】

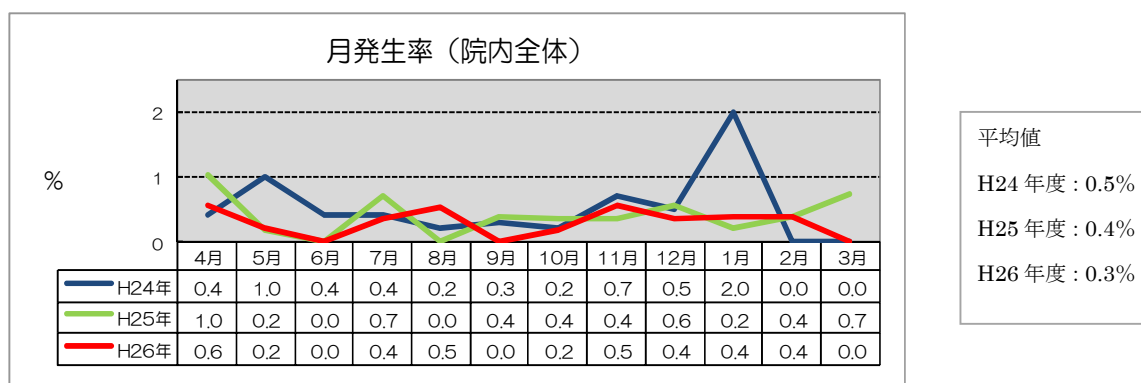
1) 褥瘡有病率の推移

●褥瘡有病率＝調査期間中に褥瘡を保有する患者数÷調査期間の入院患者数×100



2) 褥瘡新規発生率の推移

●褥瘡新規発生率＝調査期間中に褥瘡発生した患者数÷調査期間の入院患者数×100



平成26年度は、褥瘡発生率1.0%以下維持を目標に褥瘡対策の推進を図った。年間の平均値は1.0%以下となっており、褥瘡発生件数も減少傾向にある。しかし、部署単位では時に1.0%を超えることもあるため、引き続き褥瘡発生予防に重点をおき、褥瘡対策の推進を図っていききたい。

<文責 佐藤美夏子>

緩和ケアチーム委員会

【設置目的及び経緯】

当院では平成8年からターミナルケア勉強会『虹の会』が有志により行われていたが、当院に
来られた患者・家族全ての方に当然のこととして高い水準の緩和ケアを提供できるようになるこ
とを目的として緩和ケア研究会が平成13年に設立された。さらに緩和ケアの保証について病院と
しての責任を明らかにするため、平成14年10月に公的委員会として緩和ケア委員会が認められた。
その後、名称を緩和ケアチーム委員会に変更し現在に至る。

【事業検討事項及び事業】

- 1) 症状緩和の方法論の勉強・実践・普及を行いスキルアップを目指す
- 2) 患者・家族のQOL向上のためのあらゆるアプローチ

上記のために、①勉強会及びケースカンファレンス、②緩和ケアチーム（PCT）回診、③院内
勉強会、④緩和ケアマニュアルの整備等を行う。また、在宅支援などについて、コメディカルと
も話し合うなどチームで調整をはかる。

【26年度構成員】

委員長：丹羽 誠

副委員長：高橋 共子

委員：鈴木 直志・滝澤 淳・石田 良樹・高橋麻理子・柿崎 美幸・吉川ちあき
佐々木 薫・丹 久美・佐藤（金子）由美子・畠田 麗子・高橋 康子
菊谷ゆかり・中川原恭子・鈴木 務・原田 優子・石山 博幸

事務局：柴田 昌洋

【委員会開催】

毎月第3月曜日に開催

【特記事項】

- ① 緩和ケア回診：毎週月曜日・全病棟オピオイド使用患者及び依頼患者対象
- ② 勉強会の開催：11月10日 「緩和ケアチームの紹介と緩和ケアについて」 参加者56名
3月10日 疼痛緩和に関するWebカンファレンス
- ③ 院外勉強会への参加
 - ・厚労省指針に基づく緩和ケア研修会への参加
 - ・6月15日「秋田がんささえ愛」への参加
 - ・3月12日 横手医師会主催「在宅緩和ケア研修会」への参加
 - ・秋田県緩和ケア実施研修への参加（外旭川病院ホスピス・仙北組合総合病院）
- ④ 緩和ケアマニュアルの改訂
- ⑤ 10月12日 病院祭での緩和ケアに関する資料の掲示

<文責 高橋共子>

救急センター運営委員会

救急センター運営委員会は、当病院における救急センター運営を討議、検討し、その効率的な推進を図る事を目標に、設置された。(平成14年12月)

本委員会は、救急部門の体制の整備、救急部門の適切な運営の検討を行う。また、当病院の救急部門の地域における役割の明確化、院内救急時の対応マニュアル、救急患者統計についても検討を行っている。

救急センター運営委員

委員長	江畑公仁男	
副委員長	藤盛 修成	
委員	小松 明	工藤真希子
	法花堂 学	渡邊 圭子
	佐藤 鋼子	川越 弦
	高本 和子	和賀美由紀
事務局	木村 宏樹	

本年度の活動状況

平成26年4月10日	救急カートについて検討
平成26年5月7日	AED・BLS研修会・エマージェンシー訓練について検討
平成26年5月27日	AED・BLS研修会 (52名参加)
平成26年8月11日	救急センターマニュアルについて検討
平成26年11月13日	エマージェンシー訓練
平成26年11月13日	機能評価プレ受審について検討
平成26年10月23日	普通救命講習会 (15名参加)
平成26年12月15日	機能評価プレ受審について検討
平成27年2月9日	救急症例検討会 (73名参加)

<文責 木村宏樹>

手術室運営委員会

<委員会概要>

- ・手術室業務報告（各科月間手術件数・手術時間・麻酔時間・在室時間・手術室スタッフの時間外）
- ・手術室で行っている業務改善報告
- ・外科系医師・麻酔科医師・ME・手術室スタッフの連携を図る

<構成メンバー>

委員長	寺田 宏達	手術室室長・麻酔科科長
委員	吉岡 浩	副院長・外科科長・ME室室長
	江畑公仁男	副院長・整形外科科長・救急室長
	伊勢 憲人	外科科長
	畑澤 淳一	産婦人科科長
	高橋 誠	泌尿器科科長
	佐藤セツ子	総看護師長
	川越 弦	ME室主査
事務局	石橋由紀子	手術室師長
	小松ルリ子・岩村 久子	手術室主任

<H26年度議題内容>

- ・機能評価に向けてマニュアルの整備
 - *麻酔チャートの記入方法、出血量測定の記事方法の変更
 - *手術室入室時の容姿の変更
 - *スケジュールの組み立て方
 - *麻酔同意書の説明、取り方
- ・6月に中央材料室に減圧沸騰式洗浄器が入った。一管・長いチューブ類、吸入嘴管など高温に耐えられない容器の洗浄ができ、再生器材洗浄の中央化ができた。
- ・8月にLED无影灯、A・B・C室の術中モニターは、入口のカウンターの設置
- ・整形外科で使用しているエスマルヒをディスポの物に変更、スクラビングを止めた。
- ・手術室看護師の日直・当直業務への関与（5月から）

<総括>

機能評価に向けてマニュアルの見直し・整備ができた1年だった。チーム医療が注目されているが、手術室は、チーム医療がスムーズにいかないと事故に繋がってしまうので、チーム医療の大切さを改めて感じた。

年間1,103症例の手術を行う中で、これからも安心・安全な医療の提供に努めていきたい。

<文責 石橋由紀子>

糖尿病委員会

【委員会活動概要】

急増する糖尿病患者様に、糖尿病委員会は病院および地域へ啓蒙活動の推進役として取り組んでいる。

平成26年度は、糖尿病教室の定期開催、委員会メンバーの糖尿病についての知識の底上げと地域住民との交流、啓蒙活動に重点を置いた。

糖尿病習慣行事として初めて単独事業として地域交流センターY2プラザでの開催、病院祭での生活習慣病コーナー設置。

多くの一般市民に糖尿病への当院での取り組みをアピールした。

【構成メンバー】

委員長	奥山 厚				
副委員長	照井 洋子				
食養科	原田 優子	川越 真美			
薬剤科	佐々木洋子				
リハビリ科	小田嶋尚人				
健康管理センター	鈴木久美子				
検査科	柴田 一美				
看護科	高橋 正子	小松 則子	柿崎 愛	佐藤 直美	
	稲川 雅美	渡部 僚太	山田 沙織		
総務課	柴田 昌洋				

【活動報告】

委員会開催 6回 糖尿病教室開催 20回（6月～3月）

参加者 入院患者24名 外来57名 年間参加者81名

講義担当者： 小田嶋医師 管理栄養士 薬剤師 保健師 理学療法士

〈かまくらの会：糖尿病患者会〉

日本糖尿病協会秋田県支部理事会出席（照井）

糖尿病週間行事：12月7日

各コーナーで展示、血糖測定、糖尿病療養指導相談、試食

奥山医師を講師に糖尿病に関する講演会、昨年度ウォーキングDVD鑑賞

病院祭：10月10日 生活習慣病コーナー設置

各コーナーで展示、血糖測定、糖尿病療養指導相談、試食

奥山医師を講師に糖尿病に関する講演会

糖尿病研修会案内

糖尿病・看護・療養指導を考える試行錯誤の会参加要請など（年3回）

<文責 照井洋子>

輸血療法委員会

◎輸血療法委員会設置の目的

当院における輸血関連業務の安全性の確保および適正使用のための輸血療法委員会が設置されている。

平成26年度 委員

委員長	畑澤 淳一	診療科(輸血業務責任医師)
	吉岡 浩	副院長・診療科
	船岡 正人	副院長・診療科
	寺田 宏達	診療科
事務局	小宅 英樹	薬剤科
	佐藤恵美子	臨床検査科
	佐々木美奈子	臨床検査科
	下夕村優子	看護科・病棟師長
	石橋由紀子	看護科・手術室看護師
	柿崎 美幸	看護科
	阿部 光子	総務課
	百合川美里	医事課
	高本 和子	医療安全委員会

輸血療法委員会の報告事項

(第1回) 平成26年4月21日

- 1) 看護科委員の変更
- 2) 使用状況の報告
- 3) 廃棄報告
- 4) その他 ① 3月医局会回答
② 委員会への血液センター参加について
③ 貯血式自己血輸血管理体制加算について

(第2回) 平成26年6月16日

- 1) 使用状況の報告
- 2) 輸血管理料について
- 3) その他 ① (機能評価関連) マニュアルの整備について
② (機能評価関連) C評価となりうる例について
③ HIV検査の表記
④ 委員会の伝達方法について

(第3回) 平成26年10月20日

- 1) 使用状況の報告

- 2) 輸血管理料について
- 3) その他
 - ①第16回輸血管管理実務者担当会議報告
 - ②機能評価対策について
 - ③感染症検査について
 - ④委員変更について

(第4回) 平成26年12月8日

- 1) 使用状況の報告
- 2) 機能評価プレ受診 報告
- 3) その他
 - ①血液製剤等に係る遡及調査ガイドラインについて
 - ②医科診療報酬：輸血管理料について
 - ③重症輸血副作用の診断について

(第5回) 平成27年1月28日

- 1) 使用状況の報告
- 2) その他
 - ①（血液センターより）輸血副反応ガイド紹介
 - ②血漿分画製剤に関する同意書修正について
 - ③次年度研修会について
 - ④平成26年度 県南地区輸血講演会について

(第6回) 平成27年2月16日

- 1) 使用状況の報告
- 2) 輸血後感染症検査について
- 3) その他：2014年の施設加算、適正使用加算について

●平成26年度 血液製剤使用状況

	製剤名	合計	平均
実施単位数	照射赤血球濃厚液LR140ml	29	2
	照射赤血球濃厚液LR280ml	2,180	182
	自己血輸血	240	20
	合計 (M)	2,449	204
	照射濃厚血小板「日赤」 200ml	570	48
	照射濃厚血小板「日赤」 250ml	155	13
	照射濃厚血小板「日赤」HLA 200ml	220	18
	照射濃厚血小板「日赤」HLA 250ml	0	0

新鮮凍結血漿-LR 480ml	315	26
新鮮凍結血漿-LR 120ml	0	0
新鮮凍結血漿-LR 240ml	260	22
合計 (F)	575	48
アルブミン5%250ml	総数	145
	単位数	604.2
アルブミン20%50ml	総数	655
	単位数	2,183.3
合計 (A)	2,787.5	232
A/M比 (2.0未満)	13.42	1
F/M比 (0.25未満)	2.49	0
自己血 FFP	90	8
自己血 フィブリン糊	42	4
交差試験本数 (C)	1,239	103
輸血実施本数 (T)	1,121	93
C/T比	13.2	1

●廃棄単位数

廃棄 単 位 数	自己血輸血 300	2	0
	自己血輸血 330	0	0
	自己血輸血 400	10	1
	新鮮凍結血漿 450ml	0	0
	照射赤血球濃厚液LR140ml	0	0
	照射赤血球濃厚液LR280ml	58	5
	新鮮凍結血漿-LR 120ml	0	0
	新鮮凍結血漿-LR 240ml	18	2
	照射濃厚血小板「日赤」 200ml	0	0
	自己血 FFP	4	0

●年度別廃棄

	単位数	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
RBC	購入	1,767	1,905	1,688	1,641	2,267
	廃棄	107	82	52	84	58
	廃棄率 (%)	6.06	4.30	3.08	5.12	2.56
FFP	購入	385	383	369	286	573
	廃棄	49	51	8	8	18
	廃棄率 (%)	12.7	13.3	2.17	2.80	3.14
PC	購入	1,160	845	515	995	945
	廃棄	10	10	10	0	0
	廃棄率 (%)	0.86	1.18	1.94	0.00	0.00
合計	購入	3,312	3,133	2,572	2,922	3,785
	廃棄	166	143	70	92	76
	廃棄率 (%)	5.01	4.56	2.72	3.15	2.01

<文責 小宅英樹>

臨床検査適正化委員会

概 要

当院において臨床検査を適正かつ円滑に遂行するための検討を行なうことを目的とし、平成12年度に設けられた委員会である。年数回開催するものとし、検討事項は以下の通りである。

1. 精度管理に関すること
2. 検査項目に関すること
3. 検査の実施状況に関すること
4. 外部委託に関すること
5. 研究検査に関すること
6. その他臨床検査全般の運用に関する事項

構成員

- 委員長 丹羽 誠 (院長)
- 委員 船岡 正人 (副院長)
- 藤盛 修成 (副院長)
- 畑澤 淳一 (検査科科长)
- 伊勢 憲人 (外科科長)
- 照井 圭子 (医事係長)
- 佐藤セツ子 (総看護師長)
- 佐藤恵美子 (検査科技師長)
- 長瀬 智子 (内部精度管理責任者)

委員会開催日及び検討事項

平成26年12月17日 (水)

1. 平成26年度日臨技コントロールサーベイ結果報告
2. サーベイ内容についての質疑応答

平成27年3月11日 (水)

1. 平成26年度日本医師会コントロールサーベイ結果報告
2. 平成27年度外部委託契約について現行通り継続で決定
3. その他事案

①髄液細胞数報告の変更について決定

細胞数は、 $/3\mu\text{L}$ → $/\mu\text{L}$ へ変更。整数で報告し、3で割り切れない場合は、四捨五入、全区画で3個未満であれば、1以下 $/\mu\text{L}$ と表記する。

②順路案内の項目表記改良について、関係部署と協議の上で考慮することに決定。

<文責 長瀬智子>

化学療法委員会

1. 概要

本院の化学療法を実施する体制等の設備を図るとともに、抗がん剤の適正使用に関する教育及び啓発を行い、もって化学療法の安全な施行の推進を目的とする。

2. 構成員

委員長	医局	奥山 厚			
副委員長	医局	畑澤 淳一			
	薬剤師	小宅 英樹			
委員	医局	伊勢 憲人	武内 郷子	千葉 修治	
	医療安全管理室	高本 和子			
	看護科	木村真貴子	高橋 正子	赤川恵理子	柿崎 美幸
	臨床検査科	長瀬 智子			
	薬剤科	谷川 裕子			
	医事課	百合川深里			

3. 委員会開催日

化学療法委員会：平成26年6月24日、7月24日、平成27年1月9日

化学療法審議会：平成26年6月9日、9月12日、平成27年1月15日

4. 主な活動内容

1. 化学療法の適切かつ安全な施行に関すること
2. 抗がん剤の適正使用に関する教育及び啓発に関すること
3. 関係各診療科及び関係診療施設等との連携調整に関すること
4. 化学療法に関する情報の収集・提供、各種勉強会や研修会などの開催
5. 化学療法審議会の管理・調整
6. その他、化学療法に関する事柄

5. 今年度承認されたプロトコール

乳癌：ハーセプチン+パージェタ+DTX療法、ハーセプチン+ゼローダ療法、
ハーセプチン+VNR療法、カドサイラ療法、タイケルブ錠+ゼローダ錠療法、
アブラキサン療法

食道癌：DCF療法

膵癌：FOLFIRINOX療法、アブラキサン+GEM療法

子宮肉腫：PTX+IFO療法

胃癌：アブラキサン療法、SOX療法、XELOX療法

胞状奇胎：MTX療法

<文責 百合川深里>

退院支援委員会

当委員会は、退院後も様々な生活ニーズや課題を持つ患者さんやご家族に対して、それらに応じた適切な療養状況の選択支援等を行い、患者さんやご家族にとって安心した退院の実現を促進するため、院内各病棟の退院調整状況を共有するとともに、効果的で有効な退院調整や支援方法の検討を行うために平成26年4月1日より設けられた委員会です。

委員会構成

委員長	和泉千香子（医局）
副委員長	吉岡 浩（医局）
委員	船岡 正人（医局）
	高橋 佳子（看護科・退院調整専任看護師）
	佐藤セツ子（看護科）
	佐々木佳子（看護科）
	高橋 礼子（看護科）
	佐々木美智子（2 A病棟看護師）
	櫻谷 麻美（3 A病棟看護師）
	佐藤美紀子（3 B病棟看護師）
	塚本 梢（3 C病棟看護師）
	佐藤加代子（4 C病棟看護師）
	小田嶋尚人（リハビリテーション科）
	浮嶋 優子（医療相談室）
	石山 博幸（医療相談室）
	藤原 明子（医療相談室）

規程上、委員会は月1回（第3火曜日）の定例開催とされていますが、平成26年度においては都合により、7回の開催（5.20、8.19、9.16、12.18、1.20、2.17、3.17）となりました。

案件としては、退院支援に関する評価（在宅復帰率、退院先、在院日数、再入院率等）をデータに基づき行うとともに、退院困難な事例について検討、対応策等を協議しています。

退院に向けては院外の施設等との連携も必要であり、施設担当職員との意見交換会を12月17日に開催し、14施設から23名のご参加をいただきました。研修として「冬の流行性疾患対策～インフルエンザとノロウイルス～」と題して、当院 感染対策室 小川 伸より施設等における対策での講演を行うとともに8月1日より当院が「在宅療養後方支援病院」となったことから、そのお知らせを行うとともに意見交換を行いました。

また、機動的な退院調整を行うために「退院支援チーム」を設け、毎週木曜日に退院困難な要因を有する患者さんの退院支援計画に基づき、関係職種が共同して退院支援・調整を行う「退院調整会議」を開催（平成26年度 49回）し、会議のなかで退院困難な事例については「退院支援委員会」へ報告して、更に対策を進めています。

退院支援チーム構成

医 局	和泉千香子			
看 護 科	佐藤セツ子	佐々木佳子	高橋 佳子	高橋 礼子
リハビリテーション科	小田嶋尚人			
医療相談室	浮嶋 優子	石山 博幸	藤原 明子	

<文責 高橋 功>

倫理委員会

概要

当院における臨床倫理に関する課題について検討し、臨床研究の実施について倫理的妥当性を審議する。外部委員1名を含んでいる。

構成員氏名

	役 職	氏 名
委員 長	院 長	丹 羽 誠
副委員 長	副 院 長	藤 盛 修 成
	総看護師長	佐 藤 セツ子
	リハビリテーション科技師長	小田嶋 尚 人
	薬剤科主任	渡 邊 圭 子
	事 務 局 長	佐 藤 正 弘
	外部委員・見識を有する者	三 橋 由美子
書 記	総務課総務係長	亀 谷 良 文

活動記録

第1回委員会（平成27年1月13日）

倫理審査申請 1501

課題名 気管支喘息、咳喘息および肺癌患者における心身医学的調査

- ・上記1件の申請は、倫理規範に沿ったものとして承認された。
- ・その他の案件として、「臨床研究に関する倫理規程」の制定について審議され、承認された。

第2回委員会（平成27年2月6日）

倫理審査申請 1502

課題名 内分泌療法施行中の前立腺癌に対するデノスマブの骨粗鬆症予防効果の検討

倫理審査申請 1503

課題名 血液透析患者に対するファブリー病スクリーニングの実施について

- ・上記2件の申請は、倫理規範に沿ったものとして承認された。

<文責 佐藤正弘>

図書委員会

[目的]

図書室は病院の理念及び方針に基づき、運営・診療・教育及び研究活動に必要な環境を整備し、その運用によって医療の維持、向上を図ることを目的としている。

[スタッフ]

委員長	泉 純一（診療科）	平成23年4月～
副委員長	佐藤 正弘（総務課）	平成25年4月～
書記	三浦 幸恵（総務課）	平成25年4月～
委員	佐藤セツ子（看護科）	平成26年4月～
委員	谷口 明美（総務課）	平成14年9月～
委員	島田万里子（医師事務支援室）	平成19年4月～
委員	阿部千鶴子（総務課）	平成20年1月～

[図書室概要]

面積・・・48.05㎡ 座席数・・・6席

設備・機器・・・コピー&Fax機（1台）

- ・コンピューター（2台・1台インターネットに接続・1台院内LANに接続）
- ・プリンター 1台
- ・カラーインクジェットプリンター 1台

書架・・・移動式書架

閲覧時間・24時間閲覧可能

所蔵資料・単行書（約1,000冊）・製本雑誌（約2,440冊）

- ・和雑誌（70誌）・洋雑誌（21誌）・学会誌（3誌）

配架・・・単行書（NLMC分類順）

- ・和雑誌（あいうえお順）・洋雑誌（アルファベット順）
- ・患者図書（大分類・中分類・小分類順）

サービス・文献データベース①医学中央雑誌Web版

②メディカルオンライン

- ・相互貸借依頼先；秋田大学附属図書館医学部分館・上尾中央総合病院図書室
国立国会図書館・日本医師会（個人申込み）
- ・個人医学図書の購入・支払い・製本と取次ぎ

[活動]

- ・委員会開催日；5/28・8/20・12/15・3/25の4回

- ・図書購入予算の確定と管理

年度始めに各科に予算配分をし、各科受入れ毎に収支簿を作成。

- ・購入図書の受入れと配架作業；毎月の受入れ図書のリスト作成と所定位置への配架。
院内LANで月1回新着図書の情報提供。

- ・製本作業・蔵書点検作業
- ・文献複写の取次ぎ

[統計]

(文献複写依頼数)

秋田大学附属図書館医学部分館	9件
日本医師会図書館	101件
上尾中央病院図書室	1件

(医中誌Web)

ログイン回数 483回

(メディカルオンラインジャーナル)

ログイン回数 2,515回

患者図書サービス

[目的]

入院患者さん及び付添いの方々の不安やストレスを少しでも癒していただき、闘病生活の支えや回復への意欲につながることを目的としている。

[概要]

所蔵図書（約1,950冊）、備品・・・ブックトラック、固定書架（図書室内）

[活動]

各病棟ディルームに蔵書一覧ファイルを設置し、Faxでの貸出しサービスを行っている。今は主として娯楽書主体の貸出しサービスである。ただ、医療現場でのインフォームドコンセントの重要性が増す中、自ら病気や治療について情報を得て学べる一般向けの医学情報誌を提供することを視野におき、患者さんの要望に応じていきたい。

[統計]

<患者図書貸出し数>（平成26年4月～平成27年3月）

病棟	貸出数	利用人数	月平均貸出数	月平均利用者数
2 A病棟	91冊	24人	7.58冊	2.00人
3 A病棟	138冊	35人	11.50冊	2.92人
3 B病棟	58冊	17人	4.83冊	1.42人
3 C病棟	70冊	17人	5.83冊	1.42人
4 C病棟	249冊	60人	20.75冊	5.00人
宿泊ドック	62冊	8人	5.17冊	0.67人
合計	668冊	161人		
月平均	55.67冊	13.42人		

<文責 谷口明美>

臨床研修管理委員会

概要

医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修を当院と協力病院及び協力施設で実施するために設置された委員会である。

当院の平成26年度開始の研修プログラムは、内科系重視の内科コース、外科系重視の外科・整形外科コースがあり、それぞれ募集定員は2名となっている。

研修プログラムの中の『精神科研修』では、横手興生病院・市立角館総合病院に、『地域保健・医療研修』では、横手保健所・市立大森病院・秋田県赤十字血液センターに協力をいただいている。

また、本荘第一病院・秋田大学医学部附属病院・市立角館総合病院・由利組合総合病院の研修プログラムの協力型臨床研修病院となっている。

構成員氏名

委員長	船岡 正人（研修実施責任者）
副委員長	藤盛 修成、伊勢 憲人
委員	吉岡 浩、江畑公仁男、小松 明、畑澤 淳一、塩屋 斉、根本 敏史、 和泉千香子、寺田 宏達、奥山 厚、滝澤 淳、武内 郷子、泉 純一、 富岡 立、岩崎 渉、寺田 宏達、千葉 修治、佐藤 正弘、 南園 智人（横手保健所長）、 杉田多喜男（横手興生病院長）、 西成 忍（西成医院長、横手市医師会長）、 小野 剛（市立大森病院長）、 西野 克寛（市立角館総合病院長）、 面川 進（秋田県赤十字血液センター） 小棚木 均（秋田赤十字病院長）
オブザーバー	丹羽 誠、木村真貴子
事務局	高橋 功、黒澤 雄悦

委員会開催年月日及び案件

○管理委員会

平成26年9月30日

案件 平成26年度マッチング順位付けについて
平成26年度マッチング中間公表結果について

平成27年3月5日

案件 平成25年度採用研修医の修了認定について
平成27・28年度研修プログラムについて
平成27年度研修日程について

○評価・プログラム委員会

平成26年6月5日

案件 2年次研修医の研修評価について
平成27年度プログラムについて
独自説明会の開催について
呼吸器内科研修について

平成27年2月5日

案件 2年次研修医の研修評価について
平成27年度臨床研修日程について
平成28年度臨床研修プログラムについて

平成27年2月26日

案件 2年次研修医の研修評価について
平成27年度臨床研修日程について
平成28年度臨床研修プログラムについて

○研修医会議（指導医と研修医との意見交換等）

平成26年 4月3日、5月1日、6月5日、7月3日、8月7日、9月11日、
10月7日、11月13日、12月4日、
平成27年 1月8日、2月5日、3月3日

○平成26年度 臨床研修医

当院プログラムによる研修医（1年次） 佐々木 諒、佐藤 優真、小野 怜子
（2年次） 伊藤 周一、高橋 晋、宮嶌 和宏
秋田大学医学部附属病院からの研修医
（2年次） 竹越 結生
本荘第一病院からの研修医（2年次） 池田 祐介、梅沢 純、碩 雄亮、湊野 大志

○マッチング日程

平成26年6月19日 参加登録開始
8月7日 参加登録締切
9月11日 希望順位登録受付開始
9月25日 希望順位登録中間公表前締切
9月26日 中間公表
10月9日 希望順位登録最終締切
10月23日 組み合わせ結果発表

○平成27年度採用臨床研修医

定員4名 飯塚 颯、伊藤 隆士、佐藤 姫子、佐藤 悠紀

○病院説明会参加状況

平成26年6月1日 民間主催の合同説明会 (福岡県 県協議会企画)
平成26年7月20日 民間主催の合同説明会 (東京都 県協議会企画)
平成26年8月9日 初期・後期研修説明会 (秋田市 県協議会主催)
平成27年2月10日 秋田県臨床研修病院合同説明会及び意見交換会
(秋田市 県協議会主催)
平成27年3月22日 民間主催の合同説明会 (東京都 県協議会企画)

<文責 黒澤雄悦>

臨床研修プログラム

市立横手病院臨床研修病院群基本研修プログラム内科コース

○研修プログラムの特色

1年次で必修科目（内科、救急部門）と選択必修科目（産婦人科、精神科、小児科）と選択科を研修。2年次に必修科目（地域医療）と選択科を研修する。選択科を12ヵ月設定しているため、必修科目や選択必修科目を再度重点的に研修したい場合や、他の科目（外科系、整形外科、泌尿器科、放射線科、麻酔科）、地域保健を研修したい場合に対応できる。

○臨床研修の目標の概要

1. 一般目標 医師としての人格を養い、将来どのような分野に進むにせよ、医学、医療の社会的ニーズを認識しつつ、日常診療で頻りに遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、幅広い基本的な臨床能力（態度、技能、知識）を身につける。
2. 行動目標 卒後臨床研修目標に対する考え方：すべての科の医師にとってコアとなる臨床能力（clinical competence）を養い育てることを目標とする。

○プログラム責任者

市立横手病院 副院長（消化器内科科長） 船岡 正人

○研修医の指導体制 マンツーマン方式による。

○協力型臨床研修病院

市立角館総合病院（精神科）

- ・研修実施責任者 西野 克寛
- ・指導医 佐々木道基、北條 康之

横手興生病院（精神科）

- ・研修実施責任者 杉田多喜男
- ・指導医 杉田 俊生、杉山 智成、佐藤 英次、金山 浩信、安倍俊一郎

○臨床研修協力施設

横手保健所（地域保健）

- ・研修実施責任者 南園 智人
- ・指導医 南園 智人

市立大森病院（地域医療）

- ・研修実施責任者 小野 剛
- ・指導医 小野 剛、三浦 勉、大場 雅史、福岡 岳美、澤邊 淳、粕谷 孝光、中西 真一

秋田県赤十字血液センター（地域保健）

- ・研修実施責任者 面川 進
- ・指導医 面川 進

○研修開始時期：2014年4月1日

○研修スケジュール

	1年次	2年次
4月	内科（市立横手病院）	地域医療（市立大森病院） 選択科（市立横手病院・横手保健所・赤十字血液センター）
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月	救急部門（市立横手病院）	
11月	産婦人科（市立横手病院）	
12月	精神科（市立角館総合病院・横手興生病院）	
1月	小児科（市立横手病院）	
2月		
3月	選択科（市立横手病院・横手保健所）	

※救急部門については、診療時間帯及び日当直（2年間で40日以上）を含め3か月の研修とする。

市立横手病院臨床研修病院群基本研修プログラム外科・整形外科コース

○研修プログラムの特色

1年次で必修科目（内科、救急部門）と選択必修科目（外科系、小児科）を研修。2年次に必修科目（地域医療）と選択必修科目（産婦人科、精神科、麻酔科）を研修。2年次に選択科を8ヵ月設定しているので、必修科目や選択必修科目を再度重点的に研修したい場合や、他の科目（整形外科、泌尿器科、放射線科）、地域保健を研修したい場合に対応できる。

○臨床研修の目標の概要

1. 一般目標 医師としての人格を養い、将来どのような分野に進むにせよ、医学、医療の社会的ニーズを認識しつつ、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、幅広い基本的な臨床能力（態度、技能、知識）を身につける。
2. 行動目標 卒後臨床研修目標に対する考え方：すべての科の医師にとってコアとなる臨床能力（clinical competence）を養い育てることを目標とする。

○プログラム責任者

市立横手病院 外科科長 伊勢 憲人

○研修医の指導体制 マンツーマン方式による。

○協力型臨床研修病院

市立角館総合病院（精神科）

- ・研修実施責任者 西野 克寛
 - ・指導医 佐々木道基、北條 康之
- 横手興生病院（精神科）
- ・研修実施責任者 杉田多喜男
 - ・指導医 杉田 俊生、杉山 智成、佐藤 英次、金山 浩信、安倍俊一郎

○臨床研修協力施設

横手保健所（地域保健）

- ・研修実施責任者 南園 智人
- ・指導医 南園 智人

市立大森病院（地域医療）

- ・研修実施責任者 小野 剛
- ・指導医 小野 剛、三浦 勉、大場 雅史、福岡 岳美、澤邊 淳、粕谷 孝光、中西 真一

秋田県赤十字血液センター（地域保健）

- ・研修実施責任者 面川 進
- ・指導医 面川 進

○研修開始時期：西暦2014年4月1日

○研修スケジュール

	1年次	2年次
4月	外科系（市立横手病院）	地域医療（市立大森病院）
5月		産婦人科（市立横手病院）
6月		精神科（市立角館総合病院・横手興生病院）
7月	救急部門（市立横手病院）	麻酔科（市立横手病院）
8月	内科（市立横手病院）	選択科（市立横手病院・横手保健所・赤十字血液センター）
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月	小児科（市立横手病院）	
3月		

※救急部門については、診療時間帯及び日当直（2年間で40日以上）を含め3か月の研修とする。

<文責 黒澤雄悦>

治験委員会

構成員氏名

委員長 吉岡 浩
委員 船岡 正人 佐藤 政弘 石田 良樹
外部委員 三橋由美子
事務局 渡邊 圭子

本委員会は当院で実施される臨床試験について、その目的および手順ならびに倫理の面から当該臨床試験を実施することの妥当性を検討するために設置されている。新GCP基準における条件を満たすために外部委員1名を加えている。

委員会開催日及び検討事項

開催日 平成27年1月13日

案件1. ダクルインザ錠60mg/スンベプラカプセル100mg使用成績調査

案件2. ジャカビ特定使用成績調査（全例調査）

以上2件、問題なく承認された。

<文責 渡邊圭子>

診療材料検討委員会

本委員会は診療材料に関する適正な購入・管理・業務の円滑な運営を図ることを目的として設置されました。診療材料の新規採用についての検討のみならず、院内で使用されている診療材料の合理化・効率化に向けた取り組みや、診療材料の統一化に向けた取り組みについても協議を行います。

新規に診療材料を使用する場合は必ずこの委員会で承認を受けることになっており、原則としてそれ以外の診療材料は使用することはできません。また、承認を受けていない材料を特定の患者に使用する場合には「診療材料限定使用申請書」を提出させ、委員長より使用の可否を判断することとしています。

構成員氏名

委員長	医 師	江畑公仁男		
	医 師	根本 敏史		
	医 師	畑澤 淳一		
	看護科総師長	佐藤セツ子		
	2 A病棟主任	照井 洋子	3 A病棟主任	赤川恵理子
	3 B病棟主任	高橋 正子	3 C病棟主任	佐藤 悦子
	4 C病棟主任	高田真紀子		
	手術室主任	石橋由紀子	透析室主任	小田嶋明子
	外来主任	小田嶋恵美子	ME室主任	川越 弦
事務局	総務課長補佐	阿部 光子	管財係	菅原 祐司

委員会開催年月日及び主な検討事項

H26年6月4日 フォーリートレイキットの採用について、酒精綿の変更について、SPD
不動定数の調査及び定数の再確認について

診療材料採用検討申請書

H26年4月15日 消化器センターより「上部消化器用鉗鉗子」
H26年8月5日 感染対策室より「N95微粒子マスク」
H26年9月22日 感染対策室より「ハイポですっきり 滅菌清拭ワイプHP」
H26年10月9日 感染対策室より「ヘキザックAL1%OR液16mm」
H26年11月13日 ME室より「シリコンバルーンカテーテル温度センサー付」
H27年1月8日 ME室より「気管切開チューブ固定用ホルダー VBMネックテープ（成人用）」

<文責 菅原祐司>

病床運営委員会

概 要

市立横手病院の病床運営・管理に関して問題点・対策を協議・検討し、全病院的な効率確保を目的に平成14年10月病床運営委員会が発足。

構成員

委員長 丹羽 誠
副委員長 吉岡 浩・藤盛 修成
委員 和泉千香子
佐藤セツ子・佐々木佳子
藤井 洋子・高橋 共子・下夕村優子・高橋 礼子
和賀美由紀・木村真貴子
事務局 佐藤 正弘・浮嶋 優子・石山 博幸

H26年度は開催なし。

<文責 石山博幸>

医療情報管理委員会

電子カルテシステム稼働6年目を迎え、関連する医療情報システムの円滑かつ安全な運用や院内情報システムの総合的運用およびシステムのリプレイスについて協議。

構成員

委員長 藤盛 修成

副委員長 小松 明

委員 佐藤セツ子 佐藤セツ子 藤原 理吉 佐藤恵美子

佐藤 正弘 浮嶋 優子 木村 宏樹 千葉 崇仁

活動報告

今年度は、委員会を一度も開催しなかったものの、病院機能評価に向けて医療情報管理の領域について十分な体制となっているか確認を行った。

また、電子カルテオーダーリングサーバーおよび電子カルテ端末の更新作業について内容の確認を行った。

<文責 千葉崇仁>

電子カルテ委員会

(目的)

この規程は、電子カルテ及び診療情報の適切な管理について討議・検討し、診療の質の向上を図ることを目的とする。

(業務)

1. 委員会は次の各号における事項について審議する。
 - ・電子カルテ内の情報の真正性、見読性、保存性の確認に関すること。
 - ・オーダーリングシステムの内容の検討に関すること。
 - ・紙カルテ、フィルム、検査データの保存に関すること。
 - ・その他カルテについての重要事項に関すること。
2. 委員会は前項の審議結果を速やかに院長へ報告するものとする。

構成員

委員長	藤盛 修成			
副委員長	和泉千香子			
委員	伊勢 憲人	佐藤セツ子	小田嶋千津子	石橋由紀子
	高橋千津子	高橋 佳子	照井 洋子	和賀美由紀
	高橋 正子	高橋 共子	高田真紀子	松川かおり
	小宅 英樹	高本 和子	藤原 理吉	小田嶋尚人
	原田 優子	佐藤恵美子	鈴木久美子	浮嶋 優子
	照井 圭子	木村 宏樹	千葉 崇仁	佐藤 恵

活動報告（検討内容）

平成26年 9月18日

- ・電子カルテの運用開始について
- ・未使用のオーダ伝票廃棄について
- ・患者情報へのHIV検査の反映について 他

平成27年 2月12日

- ・インフォームド・コンセントについて
- ・説明と同意について
- ・ワードパレット使用について 他

<文責 木村宏樹>

DPC委員会

DPC委員会では、適切なコーディング、在院日数分析を中心に検討を行った。特に在院日数については、看護科、医事課と情報を共有し、適切なベットコントロールについての対策を行った。

今後も、他院とのベンチマークや更に詳細なデータ分析を行い、医療の質向上、医療の標準化に繋がるよう委員会で検討していきたい。

構成員

委員長 畑澤 淳一

副委員長 藤盛 修成

江畑公仁男

委員 丹羽 誠 塩屋 斉 佐藤セツ子 藤井 洋子

小宅 英樹 郡山 邦夫 浮嶋 優子 佐藤恵美子

照井 圭子 木村 宏樹 千葉 崇仁 佐藤 恵

活動報告（検討内容）

平成26年12月11日

- ・在院日数分析について
- ・注意すべきコーディング事例について

平成27年 3月26日

- ・平成27年度医療機関別係数について
- ・部位不明・詳細不明コードについて

<文責 木村宏樹>

クリニカルパス委員会

概要

院内におけるクリニカルパス作成及び普及を推進・支援し、診療の質及び患者サービスの向上に寄与することを目的とする。

構成員

委員長 藤盛 修成
 委員 和泉千香子 畑澤 淳一 伊勢 憲人 江畑公仁男 小松 明
 塩屋 斉 奥山 厚 千葉 修治 下夕村優子 佐々木史子
 末次エリカ 高橋 恵子 藤沢 親子 塚本 梢 高橋 亮子
 郡山 邦夫 小宅 英樹 高橋 洋 原田 優子 照井 圭子

平成26年度退院患者パス適用率

診療科	パス適用件数 (件)	退院患者数 (人)	パス適用率 (%)
内科	0	132	0%
外科	473	844	56.0%
整形外科	13	399	0%
産婦人科	356	502	70.9%
小児科	1	331	0.3%
泌尿器科	97	283	34.3%
眼科	94	94	100.0%
消化器内科	674	1,829	36.9%
循環器内科	25	228	11.0%
麻酔科(ペインクリニック)	0	25	0.0%
合計	1,733	4,667	37.1%

平成26年度新規作成パス

- 腰椎椎間板ヘルニア (整形外科)
- 腰部脊柱管狭窄症 (整形外科)
- 成長ホルモン検査 (小児科)

<文責 照井圭子>

地域交流推進委員会

当委員会は平成21年度より、地域住民の健康に関する意識向上と良質な医療を地域住民に提供し、当院に対する理解向上を目的とした地域交流委員会を設置されました。

所期の目的の達成のため、「市立横手病院出前健康講座」を行うこととしており、対象は地域の公民館、いきいきサロン等で、主催者より講演依頼があった場合、当院の職員が地域に出向き、健康や病気の治療・予防に関する内容の講演を行うものとしております。

講座も6年目となり、講座数も増やし27講座を準備するとともに地域住民の方々に理解しやすい内容となるよう内容の充実に努めてまいりました。

委員会名簿

委員長 吉岡 浩 (医局)
 委員 船岡正人 (医局) 佐藤セツ子 (看護科) 石田良樹 (薬剤科)
 原田優子 (食養科) 小田嶋尚人 (リハビリテーション科)
 藤原理吉 (診療放射線科) 佐藤恵美子 (臨床検査科)
 佐藤 超 (健康管理センター) 佐藤正弘 (事務局) 高橋 功 (総務課)

委員会開催状況

26. 4. 17 (木)

- 案件
- ・25年度「出前健康講座」の開催状況について
 - ・26年度「出前健康講座」メニューについて
 - ・26年度「出前健康講座」開催予定及び講師分担について
 - ・その他

講演実施状況

月日	地区・事業所名	場所	講座名	講師	参加者
5/21 (水)	馬場崎	馬場崎 町内会館	脳卒中発症後のリハビリ	理学療法士 高橋 貞広	17名
6/12 (木)	雄物川 薄井	館合公民館	身体にあった量の食事を摂っていますか	管理栄養士 川越 真美	15名
6/19 (木)	山内地区	山内公民館	正しい傷の手当について	認定看護師 佐藤美夏子	9名
6/24 (火)	三貫堰	三貫堰 町内会館	心臓と高血圧	臨床検査技師 平塚多喜雄	15名
7/3 (木)	御所野	御所野会館	正しい薬の使い方について	薬剤師 石田 良樹	15名
7/8 (火)	大雄 精兵村	精兵村 集落会館	生活習慣病予防と食生活	管理栄養士 原田 優子	35名

7/10 (木)	根小屋	根小屋会館	生活習慣病予防と運動	理学療法士 小田嶋 尚人	10名
7/25 (金)	雄物川 大沢	大沢公民館	身体にあった量の食事を摂っていますか	管理栄養士 川越 真美	47名
7/28 (月)	野脇	野脇会館	生活習慣病予防と食生活	管理栄養士 原田 優子	13名
8/7 (木)	八丁	松林会館	手洗い大事です	認定看護師 小川 伸	18名
8/22 (金)	睦	福小屋会館	糖尿病について	臨床検査技師 小丹 まゆみ	12名
8/25 (月)	雄物川 深井	深井・大巻・末館会館	身体にあった量の食事を摂っていますか	管理栄養士 川越 真美	15名
9/5 (金)	横手地区	Y2プラザ	手の衛生について	認定看護師 小川 伸	13名
9/9 (火)	上境	境町 ふるさと館	生活習慣病予防と運動	理学療法士 小田嶋 尚人	27名
9/10 (水)	雄物川 東里	東里公民館	正しい薬の使い方	薬剤師 渡邊 圭子	25名
10/10 (金)	朝倉碓	あさくら館	正しい薬の使い方	薬剤師 小宅 英樹	22名
10/15 (水)	県南地区	Y2プラザ	正しい薬の使い方	薬剤師 石田 良樹	20名
10/29 (水)	中里	中里集落センター	放射線検査と放射線被ばくについて	放射線技師 郡山 邦夫	17名
11/4 (火)	朝日ヶ丘	朝日ヶ丘 児童センター	喀痰の働きと検査	臨床検査技師 佐々木 絹子	38名
11/25 (火)	下根田	下根田構造 改善センター	正しい傷の手当について	認定看護師 佐藤 美夏子	7名
11/26 (水)	下和野・百万刈	下和野構造 改善センター	放射線検査と放射線被ばくについて	放射線技師 法花堂 学	11名
12/3 (水)	化石	化石会館	誤嚥ってなあに	言語聴覚士 古関 佳人	10名
12/10 (水)	平鹿 石成	平鹿町農家 高齢者創作館	インフルエンザとノロウィルスの感染予防	認定看護師 小川 伸	30名
12/15 (月)	立館石	立館石会館	放射線検査と放射線被ばくについて	放射線技師 藤原 理吉	12名
12/19 (金)	平鹿 宿館	新平川会館	正しい薬の使い方について	薬剤師 石田 良樹	20名

1/14 (水)	増田地域局	横手市役所 増田庁舎	職員健康診断を終えての健康講話	保健師 松浦喜美ほか	10名
1/15 (木)	大雄地区	ゆとりおん 大雄	循環器疾患一般	医局 和泉千香子	36名
2/9 (月)	塚堀	塚堀担い手 センター	お酒と肝臓のお話	医局 杉元 侑孝	19名
2/12 (木)	黒川落合	黒川落合会館	誤嚥ってなあに	言語聴覚士 古関 佳人	9名
2/18 (水)	中村	中村会館	お酒と肝臓のお話	医局 船岡 正人	15名
2/23 (月)	根田川	根田川集落 センター	放射線検査と放射線被ばくについて	放射線技師 郡山 邦夫	10名
2/24 (火)	十文字地域局	横手市役所 十文字庁舎	健診結果表の見方や結果を生かした生活改善について	保健師 鈴木久美子	30名
2/25 (水)	雄物川 大沢	大沢公民館	骨髄バンクについて	臨床検査技師 工藤真希子	40名
3/10 (火)	栄地区	栄公民館	正しい薬の使い方について	薬剤師 石田 良樹	46名
3/11 (水)	田町	田町会館	放射線検査と放射線被ばくについて	放射線技師 法花堂 学	10名
3/18 (水)	朝倉関根	関根町内会館	正しい傷の手当について	認定看護師 佐藤美夏子	22名
3/19 (木)	寺内	寺内 集落センター	尿検査について	臨床検査技師 長瀬 智子	21名

37ヶ所（いきいきサロン33ヶ所、公民館1ヶ所、職域3ヶ所）延べ741名の地域住民の方々に講演を行いました。

前年度より開催回数、参加者とも増加しており、依頼団体数も増加しました。

また、前年度は無かった職域での利用もあり、今後も利用いただけるよう、広報を行うとともに講演内容の更なる充実に向け、講演メニューの検討を進めていきます。

<文責 浮嶋優子>

病院機能評価準備委員会

【概 要】

平成7年、当院は全国でも先駆けて病院機能評価のトライアルを受審しており、平成14年5月には正式な認定を目指して準備委員会を組織して平成16年3月にver.4.0を受審。改善すべき事項の指摘を受けて平成17年2月に再受審し、5月にver.4.0認定を受けました。

更新を目指して平成20年12月より準備を開始し、平成22年3月ver.6.0受審しました。平成22年5月に中間的な結果報告を受け、評価2以下の項目についての業務改善に向けプロジェクトチームを立ち上げ、改善を行い、補充的な審査を受審し、8月にver.6.0認定を受けました。

更に更新を目指し、平成27年3月の受審を決定し、平成26年2月より3rdG : Ver1.0の認定更新に向けて本格的な準備を開始し、医療の質の維持・改善を図ることを目的とし、更なる病院の発展を目指し取り組んできました。

【委員会】

委員長	診療科（副院長）	吉岡 浩
副委員長	診療科（副院長）	藤盛 修成
委 員	看護科（総看護師長）	佐藤セツ子
	看護科（副総看護師長）	佐々木佳子
	医療安全管理室（副室長）	高本 和子
	感染対策室（副室長）	小川 伸
	事務局（事務局長）	佐藤 正弘
	医事課（課長）	浮嶋 優子
	総務課（課長）	高橋 功
オブザーバー	健康管理センター（副主任）	鈴木久美子
書 記	総務課企画係	阿部千鶴子

【活 動】

26. 4. 1 機能評価業務委託契約締結
4. 24 受審病院説明会参加（吉岡委員長ほか）
5. 16 第2回準備委員会
5. 22 自己評価実施（6/20提出期限）
6. 18～19 院内研修会（職員全員対象 講師 吉岡委員長）
6. 20 第3回準備委員会
6. 23 自己評価C項目改善対策等の報告依頼（7/4提出期限）
7. 10 第4回準備委員会
7. 18 自己評価S～B項目を確認出来る書類等の記載依頼（8/15提出期限）
7. 23 第5回準備委員会
8. 1 第6回準備委員会
8. 12 第7回準備委員会
8. 27 第8回準備委員会

- 9. 19 第9回準備委員会
- 9. 22 第10回準備委員会
- 10. 6 第11回準備委員会
- 10. 17 第12回準備委員会
- 11. 5 院内模擬ケアプロセス調査実施・第13回準備委員会
- 11. 11 実地指導付講師派遣（看護領域サーベイヤ－1名）
- 11. 12 実地指導における指摘事項等の報告依頼（11/21提出期限）
- 11. 14 第14回準備委員会
- 11. 17 事前提出書類作成（12/15提出期限）
- 11. 27 第15回準備委員会
- 12. 11 第16回準備委員会
- 12. 16 自己評価票コメント記載（1/23提出期限）
- 12. 26 事前提出書類郵送（オンライン提出できない書類）
- 27. 1. 5 書面審査書類提出（オンライン提出 施設基本・部門別・診療機能調査票等）
- 1. 8 第17回準備委員会
- 1. 22 第18回準備委員会
- 1. 23 審査日程決定通知（3/19～20）
- 1. 26 ケアプロセス調査研修会（医師、看護師、コメディカル対象）
- 1. 29 書面審査書類最終提出（オンライン提出 エラーチェック）
- 1. 30 自己評価票提出（オンライン提出）
- 2. 2 第19回準備委員会
- 2. 13 審査日日程表及び担当者表周知
- 2. 19 第20回準備委員会
- 3. 3 院内模擬ケアプロセス調査（3A・2A病棟）
- 3. 6 院内模擬ケアプロセス調査（4C病棟）・第21回準備委員会
- 3. 9 院内模擬ケアプロセス調査（3B病棟）
- 3. 16 第22回準備委員会
- 3. 18 会場設営・リハーサル・関係書類搬入・第23回準備委員会
- 3. 19 機能評価審査受審（第1日目）・第24回準備委員会
- 3. 20 機能評価審査受審（第2日目）
- 3. 23 審査における指摘事項等の報告依頼（3/27提出期限）
- 3. 27 受審アンケート実施（4/20提出期限）

この1年間で委員会を23回（第2回～24回）開催するとともに、適宜、院内関係部署との調整に努め、審査受審をむかえることが出来ました。特に今回から行われた「ケアプロセス調査」では日頃の業務の確認を含め、委員会で企画した「院内模擬ケアプロセス調査」の日程のほかにも「チーム医療」として医師、看護師、コメディカルが自主的に模擬実施を行うなど、時代の変化と共に、地域で私達が求められている医療を考えていく取組み等が行われました。

審査結果は次年度となりましたが、3rdG : Ver1.0認定を契機に更に質の良い医療を提供し、進歩し続けるために取り組んでいきたい。

<文責 高橋 功>

薬事委員会

◆概要

薬事委員会は院内の薬剤に関する適正な管理、薬剤業務の改善向上、安全性の確保並びに薬事業務の効率的な運営を図ることを目的とする。検討事項は下記の項目とする。

- ①院内の薬品管理に関する事項の審議（新規採用医薬品・限定採用医薬品の審議、採用後の使用状況の確認、医薬品の適正使用、その他）
- ②医療安全や経営面の観点から定期的に採用医薬品を見直す（同種同効品目の比較検討、削減）
- ③委員からの提案された事項についての審議
- ④副作用事例の収集・報告・伝達・対策

◆構成員

	委員	氏名
委員長	副院長	藤盛 修成
	副院長	吉岡 浩
	副院長	船岡 正人
	副院長	江畑公仁男
	診療部長	畑澤 淳一
	診療部長	小松 明
	循環器内科科長	根本 敏史
	循環器内科科長	和泉千香子
	消化器内科科長	奥山 厚
	泌尿器科科長	千葉 修治
	外科科長	伊勢 憲人
	産婦人科科長	滝澤 淳
	内科科長	塩屋 斉
	消化器内科科長	武内 郷子
	放射線科科長	泉 純一
	麻酔科科長	寺田 宏達
	整形外科科長	富岡 立
	外科科長	岩崎 渉
	内科科長	鈴木 直志
	薬剤科科長	石田 良樹
	4C病棟主任	高田真紀子
	医事課係長	照井 圭子
	総務課長補佐	阿部 光子
オブザーバー	院長	丹羽 誠

◆委員会開催日及び検討事項

	開催日	検討事項
第1回	H26年5月21日	※正規採用申請品・院外採用申請品・限定採用医薬品について ※漢方製剤、1年以上実績がない製品の見直し ※年間破損金額の報告、DPCの後発医薬品係数について ※オーダーリング画面の薬品名の表記の検討(中止品、消化品の表記) ※ジェネリック薬品採用検討(7品目採用) (メリスロン錠、フェロミア錠、ムコダイン錠、アルサルミン液、アルロイドG) (ビソルボン吸入液、ヒルドイドソフト軟膏)

第2回	H26年7月16日	※正規採用申請品・院外採用申請品・限定採用医薬品について ※販売中止品への対応の検討(ネオペルカミンS注) ※オーダーリング画面の薬品名の表記の件(前回からの継続審議項目) ※ジェネリック薬品採用検討(11品目採用) (ビソルボン錠、ディオバン錠、ウルソ錠100、ラクツロースシロップ、アスタット軟膏 強ポス軟膏、ネリプロクト軟膏、ワンタキソテール注3種、パクリタキセル注100)
第3回	H26年9月17日	※正規採用申請品・院外採用申請品・限定採用医薬品について ※販売中止品への対応の検討(スキサメトニウム注) ※ジェネリック薬品採用検討(6品目採用) (ガスモチン錠、テルネリン錠、プロテカジン錠、ハルシオン錠2種、プロプレス錠)
第4回	H26年11月19日	※正規採用申請品・院外採用申請品・限定採用医薬品について ※販売中止品への対応の検討(イントラリピッド注、マスキュラックス注) ※ジェネリック薬品採用検討(5品目採用) (リーゼ錠、ザイロリック錠、レンドルミン錠、マスキュラックス注2種)
第5回	H27年1月21日	※正規採用申請品・院外採用申請品・限定採用医薬品について ※販売中止品への対応の検討(メプチンクリックヘラー) ※供給停止品への対応(ゼスタッククリーム) ※後発品変更連絡書類の廃止について ※ジェネリック薬品採用検討(6品目採用) (ガナトン錠、ムコソルバン錠、同L-Cap、クラビット錠、ドセタキセル注20・80)
第6回	H27年3月23日	※正規採用申請品・院外採用申請品・限定採用医薬品について ※診療科限定採用薬の扱いについて ※ジェネリック薬品採用検討(4品目採用) (ワソラン錠、ムコダインシロップ、ビソルボンシロップ、含嗽用ハチアズレ)

◆平成26年度採用品目の動向

新規採用医薬品	12品目
院外採用医薬品	9品目
限定採用医薬品	138品目(延べ数)
使用中止医薬品	45品目
ジェネリック医薬品の採用 (全39品目)	内服薬 25品目 注射薬 8品目 外用薬 6品目

◆まとめ

DPC病院における診療報酬上の後発医薬品の対応の変化としては、今年度から機能評価係数Ⅱの独立した係数として後発医薬品係数が新設されました。

従来の注射薬を重視した後発医薬品の採用体制とは違い、数量シェアを高める為には薬価が安くても使用量の多い内服薬や外用薬の導入を求められる方向性へと変化した年でした。今年度の当院における後発医薬品導入品の選定も、従来のように購入金額の大きさに注目するのではなく、入院で使用量の多い品目を抽出し、経済的メリットの高さを優先して検討する方向で対応させていただきました。

より効果が期待される新薬が次々と発売される中、既存の採用品で十分対応できない症例も多く、限定採用医薬品の使用が大変増えています。全体的な在庫管理、治療終了後の残薬管理、期限切れによる破損への対策なども今後の課題とさせていただきたいと思っております。

<文責 佐々木洋子>

衛生委員会

概 要

病院事業職員の健康保持及び増進を図るため、また安全衛生管理を推進するために、平成13年度から設置されている。

構成員

委 員 長	船岡正人
副 委 員 長	藤原理吉（診療放射線科）
委 員	丹羽 誠（院長・産業医） 佐藤正弘（事務局） 佐藤セツ子（看護科） 塩屋 斉（診療科） 鈴木久美子（健康管理センター） 小川 伸（感染対策室）
委員（労働組合推薦）	高橋貞広（リハビリテーション科） 末次エリカ（看護科） 高橋大樹（看護科） 高橋 洋（リハビリテーション科） 丹 久美（手術室）
書 記	糸井 豪（総務課）

委員会開催日時及び検討事項等

【開催日時】 毎月最終木曜17:00～17:30

【検討事項等】

- 4/24 放射線被ばく線量報告、流行性疾患予防接種について報告、腰痛対策研修会報告
- 5/29 放射線被ばく線量報告、結核接触者健診報告、メンタルヘルスチェック実施検討、VDT 佐合健康診断について、流行性疾患予防接種について報告
- 6/27 放射線被ばく線量報告、職員健診実施について、流行性疾患予防接種について、メンタルヘルス研修会の開催・実施について
- 7/31 放射線被ばく線量報告、流行性疾患予防接種について、機能評価に係る禁煙状況について、メンタルヘルス研修会開催報告、メンタルヘルスチェック途中経過報告
- 8/28 放射線被ばく線量報告、職場におけるメンタルヘルス対策取り組み支援について、職員早朝健診の開始について、喫煙アンケートについて
- 9/25 放射線被ばく線量報告、喫煙アンケートについて、メンタルヘルス研修について、職員健康診断について
- 10/30 放射線被ばく線量報告、メンタルヘルスチェック分析結果、メンタルヘルス管理監督者研修会の開催について
- 11/27 放射線被ばく線量報告、職員健康診断結果報告、メンタルヘルス研修実施報告
- 12/25 放射線被ばく線量報告、職員健康診断の二次検査状況報告
- 1/29 放射線被ばく線量報告、MRワクチン料金再設定について、職員の喫煙に関するアンケート結果について、職員健診実施方法について検討、作業環境測定結果報告
- 2/26 放射線被ばく線量報告、平成27年度職員B型肝炎ワクチン自己負担化について検討、病院職員二次検診受診状況、腰痛アンケート検討、病院職員健康診断実施方法調査報告
- 3/28 放射線被ばく線量報告、職員採用健診料金改定報告、平成27年度職員健診体制見直し検討、平成27年度実施予定研修会の報告

<文責 糸井 豪>

患者サービス向上委員会

目的 : 選ばれる病院になるために職員一人一人が接遇マナーを身につけることができる。

目標 : ①接遇意識を高めることができる

②患者の満足を得るために全職員の対応サービスの向上が図れる

構成員: 委員長 佐藤セツ子

委員 丹羽 誠 江畑公仁男 佐々木佳子 細谷 謙 奥州 理湖

佐藤 正弘 高橋 功

○委員会開催日

第1回 平成26年9月29日(月)

① 平成26年度入院患者アンケート調査結果について

② 平成26年度接遇研修会について

第2回 平成27年2月19日(月)

① 平成26年度外来アンケート調査について

② 平成26年度接遇研修会の報告・研修会アンケート結果について

○患者満足度アンケート調査

アンケート結果は院内10箇所の外来待合ホール・病棟ディールームにファイルにし掲示

・退院患者アンケート調査実施

実施期間 平成26年6月1日～平成26年6月30日(1カ月間)

・外来アンケート調査実施

実施期間 平成26年12月15日～平成25年12月19日(5日間)

○接遇研修(全職員対象)

日時: 1回目 11月28日 16:30～17:15

2回目 11月28日 17:30～18:15

3回目 12月03日 16:30～17:15

4回目 12月03日 17:30～18:15

参加者 324名(参加率73%)

場所 4階会議室1

講師 高橋 功(患者サービス向上委員会)

DVD他

<まとめ>

今年度の退院患者さん対象のアンケート結果は、前年度と比べ「満足」と答えた患者さんが、全体的に約10%下がり、70%代になってしまった。4月に病棟再編成を大がかりに行った影響があるのではないかと、3A、3B、3C病棟別にアンケート結果を分けて評価をしてみたが、病棟編成の影響であるといった決定的なことはなかった。外来患者さん対象のアンケート結果は前年度に比べ、「満足」と答えた患者さんがやや多い結果であった。

接遇研修は昨年同様、時間の工夫をし、できるだけ多くの職員に参加できるようにしたが、前年度より参加率が悪くなってしまい、来年度の課題である。

<文責 佐藤セツ子>

病院教育委員会

当委員会は、院内の職員研修について病院全体で体系的、効果的に実施することを検討するとともに、学術交流を奨励し、推進するために設置された委員会である。

委員会構成

委員長	丹羽 誠
副委員長	藤盛 修成
委員	佐藤セツ子
	郡山 邦夫
	佐藤 正弘
	高橋 功
書記	亀谷 良文

委員会開催

- 平成26年8月5日 以下について検討した
- ・平成25年度職員院内研修実績について
 - ・平成25年度職員院外研修実績について
 - ・平成26年度職員院内研修計画について
 - ・施設基準、加算に関連した研修会について

院内研修実績

4月1日	保険診療に関する研修会	医事課
5月28日	AED・BLS研修会	救急センター運営委員会
6月18日、19日	病院機能評価研修会	病院機能評価準備委員会
7月25日	院内感染対策研修会	感染対策室
30日	メンタルヘルス研修会	衛生委員会
8月22日	医療安全対策合同研修会	医療安全管理室
10月23日	救急救命講習会	救急センター運営委員会
11月7日	院内感染対策研修会	感染対策室
21日	メンタルヘルス研修会	衛生委員会
28日 (12/3)	接遇・個人情報保護研修会	患者サービス向上委員会
12月16日	医療安全シンポジウム	医療安全管理室
2月13日	倫理研修会	倫理委員会
3月27日	保険診療に関する研修会	医事課

<文責 亀谷良文>

広報委員会

【概要】

広報委員会は、病院広報誌・病院ホームページを通して、当院の医療情報や活動状況を地域の住民及び医療機関などに広く情報提供することを目的とした活動を行っています。

病院広報誌は、年4回の発行を目標に、患者さん、地域の皆様、秋田県内の各病院、地域医療連携関連の施設などに向けて、当院の活動紹介や医療情報の提供、病気の予防策などを掲載しています。

病院ホームページは、平成22年度にリニューアルし、当院に関する様々な情報を地域の皆様に提供しています。

【構成員】

委員長	診療科	船岡 正人
副委員長	総務課	高橋 功
委員	感染対策室	小川 伸
	診療放射線科	細谷 謙
	医事課	石山 博幸
	医事課	奥州 理湖
	地域医療連携室	高橋 美幸
	総務課	黒澤 雄悦
	総務課	阿部千鶴子

【委員会開催日及び検討事項】

平成26年6月19日	広報誌37号発行日について 平成26年度広報の年間発行予定について 広報誌37号の内容について 広報誌38号の内容について ホームページについて
平成26年12月5日	広報誌39号の発行について 広報誌39号の内容について 広報誌40号の発行について 広報誌40号の内容について ホームページについて

【病院広報誌の発行】

平成26年8月	第37号発行
平成26年10月	第38号発行
平成27年1月	第39号発行
平成27年3月	第40号発行

【その他】

(広報誌)

平成22年度	横手市内の市民向け回覧板による回覧を開始
平成23年度	横手市内全戸配布開始（フルカラー印刷）
平成26年度	秋田協同印刷株式会社（秋田市）が管理・運営する電子書籍ポータルサイト『akita ebooks』への広報誌掲載を開始

(ホームページ)

平成21年度	横手・大森の両病院のホームページをリニューアル
平成23年度	トップページフラッシュ動画化（四季により変化）
平成25年度	臨床研修関連のメールフォーム作成・ホームページ改修

<文責 黒澤雄悦>

個人情報保護委員会

【目 的】

情報公開と個人情報保護を目的とし、院内の各種情報システムのセキュリティ強化及び各種情報の開示等について、その手法及び各種規程等について検討するとともに、院内におけるその能率的かつ適正な運営を図り、全職員に対して個人情報保護に関する周知を図る。

【委員会構成】

委員長	佐藤 正弘	(事務局長)
委員	丹羽 誠	(院 長)
	佐藤セツ子	(総看護師長)
	高本 和子	(医療安全管理室副室長) 26.10.14～
	高橋 功	(総務課長)
	浮嶋 優子	(医事課長)
	千葉 崇仁	(医療情報管理室主任)

【活動状況】

研修会については、新採用職員研修会（4月）で実施するとともに、接遇研修と合わせて、11月28日及び12月3日に各2回（開始時刻16:15～及び17:30～）、計4回の全職員対象の個人情報保護研修会を開催しました。

委員会は10月14日に開催しています。協議案件は

・設置要綱の改定について

委員に医療安全管理室副室長を加えました。理由は個人情報が漏えいした場合は、医療安全との関係も大きくあるためとされ、改定日を当日として承認、以降の案件の協議は新たな委員会構成で行われました。

・個人情報保護に対する取組み状況と課題について

特に課題として、医療情報システムにおける個人情報保護について、USB等の外部記録媒体へ記録されたものが紛失等した場合、暗号化機能付を条件としていないことから、リスクが高いとの判断をしており、職員の倫理に依拠するのではなく、対策を検討していただくこととした。検討は医療情報管理委員会で行っていただくこととした。

また、亡くなった患者さんに関する警察からの電話照会についての対応についても、捜査上の必要性等が電話では困難なため、どこまで回答できるのかが判断できかねる部分があり、マニュアル化し院内周知することとした。

このほか、個人情報の漏えい等の問題が発生した場合のフローチャートを確認した。

・個人情報保護研修会の開催について

開催日程等を確認した。

<文責 千葉崇仁>

診療記録開示審査委員会

概 要

「横手市個人情報保護条例」の制定を受けて策定された「市立横手病院における診療情報提供実施要領」及び「診療記録開示事務処理要領」に基づき、適切な診療情報の開示等について審議するために院内に設置され審査会であり、本人もしくは家族からの開示請求手続きによって開催されるものです。

委 員

	役 職	氏名
委員長	副 院 長	吉 岡 浩
副委員長	院 長	丹 羽 誠
委 員	副 院 長	船 岡 正 人
	副 院 長	藤 盛 修 成
	副 院 長	江 畑 公仁男
	総看護師長	佐 藤 セツ子
	事務局長	佐 藤 正 弘
	医事課長	浮 嶋 優 子

活動記録

平成26年度は26件の開示請求があり、全ての案件を審査会の開催に代えて、文書回覧による決裁とし、開示請求の審査を行い、請求のあった全ての案件を開示しております。

<文責 高橋 功>

年報編集委員会

【目的】

市立横手病院の年報を編集することを目的とする

【構成員】

委員長	診療科	小松 明
	リハビリテーション科	山谷 加奈
	診療放射線科	細谷 謙
	薬剤科	渡邊 圭子
	看護科	伊藤 優子
	看護科	高橋 優子
	臨床検査科	小丹まゆみ
	食養科	天羽 勝義
	総務課	黒澤 雄悦
	医事課	佐藤 恵

【委員会開催】

平成26年 6月17日

今年度の年報編集の原稿依頼について

【作業記録】

原稿締切 平成26年 7月23日

校正完了 平成27年 2月

年報完成 平成27年 3月

<文責 黒澤雄悦>

医療ガス安全管理委員会

構成員

委員長 江畑公仁男（副院長：整形外科）（監督責任者）
副委員長 吉岡 浩（副院長：外科）
委員 寺田 宏達（医師：麻酔科） 照井 洋子（看護科） 赤川恵理子（看護科）
高橋 正子（看護科） 佐藤 悦子（看護科） 高田真紀子（看護科）
石橋由紀子（看護科） 柏谷 肇（ME） 佐々木洋子（薬剤科）
柿崎 更正（ボイラー技士） 阿部 光子（総務課：事務局）
伊藤 建一（総務課：実施責任者）

委員会開催日

平成27年3月6日（月）

委員会での協議、活動報告

1. 平成26年度の医療ガス供給設備保守点検の結果報告及び不良箇所改善事項協議。
2. 平成26年度のヒヤリハット報告（0件）
3. 平成26年度の医療ガス供給設備修繕工事の施工報告。
4. 平成27年度の事業計画として保安講習会の開催、医療ガス供給設備の整備工事の施工、保守点検の実施時期を確認。
5. 酸素ガス取扱い上の周知文書を配布。各部署への周知を図る。

●医療ガスは目に見えないものであり、なお且つ、高圧ガスであることから取扱いを間違えると重大な事故につながる恐れがあります。

当委員会では、医療ガスの取扱い上の周知を図り、安全な使用のため、知識の習得にも力を入れていきたいと思っております。

<文責 伊藤建一>

医療廃棄物管理委員会

構成員

委員長 丹羽 誠（院長・外科）管理責任者
副委員長 佐藤 正弘
委員 石田 良樹・和賀 幸子・照井 洋子・赤川恵理子・高橋 正子・佐藤 悦子
高田真紀子・小田嶋明子・石橋由紀子・小田嶋恵美子・小川 伸・藤原 理吉
高本 和子・伊藤 建一

開催日

平成26年10月28日

委員会の業務

医療廃棄物処理状況の把握
医療廃棄物処理計画の作成
医療廃棄物処理マニュアルの作成
医療廃棄物処理マニュアル及び知識の普及啓発に努める

委員会協議・活動など

- ・医療廃棄物の適正処理がされているか、各部署の巡回点検を実施。
 - ・医療廃棄物の排出量、処理費用が年々増加傾向にある。医療の質を確保しつつ排出量を抑制していく必要がある。
 - ・医療廃棄物処理業者（委託業者）の視察を実施。
 - ・感染性ダンボール容器の密封方法を変更。
 - ・病院機能評価受審に向けた廃棄物の適正処理を確認。
- 当委員会では、院内感染防止の観点からも院内感染対策委員会との連携を強化し、医療廃棄物の適正処理と処理費用の削減に一層努めていきたいと考えております。

<文責 伊藤建一>

防災対策委員会

委員構成

自衛消防隊長 丹羽 誠
自衛消防副隊長 吉岡 浩、船岡 正人、藤盛 修成
防火管理者 佐藤 正弘
委員 佐藤セツ子、佐々木佳子、藤井 洋子、和賀美由紀、下夕村優子、高橋 礼子、高橋 共子、木村真貴子、佐藤 昌悦、高本 和子、川越 弦、藤原 理吉、佐藤恵美子、原田 優子、小田嶋尚人、末次エリカ、石田 良樹、佐藤 超、浮嶋 優子、高橋 功、阿部 光子、亀谷 良文、伊藤 建一

開催日

第1回 平成26年6月17日
第2回 平成26年10月17日

第1回委員会

○平成26年7月3日（水）に実施する防災訓練について協議

【概要】2A病棟から火災が発生した想定で避難訓練を実施する。⇒職員を患者役として非常用ストレッチャーを使用して階段からの避難訓練のほか、指揮、通報連絡、初期消火、防護安全、非常持出訓練などを実施し、災害対策本部へ避難状況等について報告を行う。また、病棟では別の防火区画へ横移動による避難訓練を実施する。消火器を使用したことのない職員を対象に消火訓練を実施し、消火器の使用方法を習得する。

○トラッキング火災予防について

平成25年10月に福岡市の医院で10人が死亡する病院火災が発生したことを受けて、横手保健所の立入検査において、トラッキング火災の予防に努めるよう指導がありました。それにより当院では、年2回コンセンートの清掃を実施する体制を整備し実施することとしました。

第2回委員会

○平成26年10月24日（金）に実施する防災訓練について協議

【概要】秋田県内陸部を震源とする震度6弱の地震が発生し、停電、断水となった想定で、東日本大震災での反省を生かした対応訓練を実施する。⇒被害状況確認、ライフラインチェック、災害対策本部の機能、医薬品・食料・燃料などの備蓄確認などを実施し、災害対策本部への報告、指示命令に基づく行動などについて訓練を実施する。

○食料・飲料の供給体制について

労働組合では運営している売店内の食料と飲料を非常時に供給できる体制を検討中である。

●今年度は火災想定による避難訓練と地震対応訓練を実施しました。今後は防火体制を再確認し、あらゆる場面・災害を想定した訓練を積み重ね、安全確保に努めていきたいと思っております。

<文責 伊藤建一>

省エネ推進委員会

構成員

委員長 丹羽 誠 (院長・外科)

副委員長 佐藤 正弘

委員 佐藤セツ子、照井 洋子・小田嶋恵美子・藤原 理吉・柿崎 更生・伊藤 建一

開催日

平成27年1月27日

委員会の業務

エネルギー使用状況の把握と改善策の検討に関すること
省エネルギー対策の決定と実施に関すること
省エネルギーのための設備の改善に関すること
省エネルギーのための啓蒙活動に関すること
その他省エネルギーに関すること

委員会協議・活動など

- ・ H25年度に実施した節電対策の実施報告並びにエネルギー使用量の報告。
- ・ 照明のLED化、省エネ家電への切り替えなど、今後の省エネ対策について協議。
- ・ 全職員が節電の徹底を実施する具体的な取り組みを提示して周知を図る。
- ・ 省エネ法による当院の管理標準の作成を進める。

○当委員会では、院内の快適な療養環境を維持しながらエネルギーの使用を効率的に行うことにより、省エネルギーを推進し、経費節減と経営改善に資することを目的に活動をしております。平成22年度からハード面では省エネ家電への切り替えや照明のLED化などを順次進めておりますが、こまめな節電を実施するなどのソフト面では、まだまだ職員の意識改善が徹底されていないようです。

職員による節電の徹底や設備投資による省エネ機器への切り替えなどで、更なる省エネを推進したいと思います。

<文責 伊藤建一>

看護科の委員会

教育委員会

【委員会目的】

専門職業人として、個々の資質や能力を伸ばし、主体的に学習し成長していくために継続的に支援することを目的とする。

【構成メンバー】

委員長 木村真貴子
副委員長 石橋由紀子
企画委員 佐藤セツ子 佐々木佳子 石橋由紀子 高橋 佳子 木村真貴子
運営委員 田中 由江 桐原 峰子 高橋まゆみ 室澤 陽子 佐藤 秀子
小田嶋ゆう子 佐藤恵美子 小松ルリ子

【委員会目標】

卒後3年間で看護の基礎・技術が身に付く教育プログラムの作成

【活動報告】

4月 新人教育

☆看護科新規採用職員研修

6月 新人研修

☆「輸血投与について」 講師 柿崎美幸看護師

☆新人研修

☆心電図研修会（日本光電）

出席者 19名（看護師 新人5名、消防士9名、看護師5名）

☆新人フォローアップ 3か月研修

☆副主任研修 「看護を語る会」 対象5名

7月 経験3年目までの研修

☆「エンゼルケアについて」 講師 黒沢真知子看護師

出席者 11名

8月 新人評価①

☆新人技術チェック表 夜勤前に吸引、点滴、採血の3項目について行う

プリセプターも同様のチェックを行い、合格したら新人のチェックを行う

新人5名、プリセプター5名

8～9月 ☆手術室見学及び挿管、抜管介助11名

うち手術室勤務者2名は術前術後の病棟看護研修

11月 ☆2年目研修 ケーススタディ発表

「化学療法の副作用に対するセルフケア指導」

2 A病棟 伊藤 望

- 「認知症をもつ患者の経口摂取増加に向けた関わり」 2 A病棟 菅原なつき
「オピオイド使用に対して不安がある患者とその家族への関わりについて」
3 A病棟 佐々木洋子
「終末期患者が抱く精神的苦痛に対する関わりとその変化について」
3 A病棟 伊藤 開
「中心静脈カテーテルを挿入したまま退院する患者・家族への個別性を考えた指導」
3 A病棟 藤原佑美子
「食事療法・水分制限が守れず体重増加が多い慢性透析患者への対応」
3 B病棟 鈴木 早希
「人工肛門造設患者（オスメイト）の退院支援について」
3 B病棟 佐々木沙也佳
「家族のニーズの変化に合わせた退院指導」
3 B病棟 小松孝太朗
「高齢者のアクセラスの実施手技獲得に向けて」 4 C病棟 江畑 祐佳
◎各部署副主任が2年目担当となりケーススタディの指導を行った。

3月 新人評価③ プリセプター、プリセプティ、各師長が反省
プリセプター研修 来年度予定の6名に研修行う

【総括】

昨年度より教育委員会の体制をプログラムの企画と運営にわけて活動を開始した。

2年目となるが、企画がなかなか定例化できず、運営がスムーズにできなかった。昨年創り上げた新人プログラムに関しては順調に実施でき、リアルタイムで修正できた。しかし、2，3年目の教育内容が現場での看護ケアに反映できていない。今後は現場と企画の連携を整え、看護基礎教育の基盤をつくりたい。

<文責 木村真貴子>

看護研究委員会

【構成メンバー】

委員長 高橋 礼子
副委員長 小田島恵美子 高田真紀子
委員 森本 和子 佐藤 秀子 高橋 美里 高橋亜由美
鈴木真紀子 佐藤 鋼子 小田島ひとみ 小松 智美

【H25年度委員会目標】

・研修会や学会への参加を通して研究委員のレベルアップを図る

【行 事】（委員会は毎月1回実施）

* 5月	看護研究計画書作成研修会	高田真紀子 高橋美里
* 10月	日本看護学会 在宅看護学会参加	高田真紀子 小田島ひとみ
* 10月	全国自治体病院学会 ポスターセッション参加	3 A 小松智美 梅川瑠依
* 11月	秋田県医療学術交流大会	2 A 鈴木智都 発表
* 12月	秋田県看護協会地区支部研究発表会参加	3 C 高橋愛美 発表
* 3月25日	H26年度看護研究発表会	

H25年度研究発表 H27年3月25日（水） 参加人数：80名

○一群 座長 小田嶋主任

演題1	「鏡視下食道癌再建術における早期退院の試みとその要因」	3 B病棟 藤澤 親子
演題2	「吸引指導に対する看護師の意識調査」～グループインタビューを通して～	3 C病棟 小川千夏子
演題3	「コルセット装着自立に向けての援助」～パンフレットを用いての指導～	3 C病棟 高橋 愛美
講評	リハビリテーション科技師長 小田島尚人先生	

○二群 座長 高橋悦子主任

演題4	「在宅における多職種との情報伝達のあり方」～処置シートを活用しての取り組み	訪問看護センター 安藤 宏子
演題5	「尿道留置カテーテル早期抜去に向けたカンファレンスの実践と検討」	2 A病棟 平塚加奈子
演題6	「ウォーキングカンファレンスにおけるチェック表使用の有効性について」	3 A病棟 佐々木洋子
講評	薬剤科科長 石田 良樹先生	

【総 括】

研究委員としての指導がなかなかできず、積極的に研修会へ参加し、もっと関わりをもちながら指導できればと感じた。計画書作成の段階で文献検索など時間をかけて作成できるように段取りよく指導できればと思う。

今年度は機能評価の年でもあり機能評価の日程がぎりぎりまで決まらなかったことで研究発表が3月末の開催になってしまった。慌ただしい中、講評の先生方にも快く引き受けていただき、無事発表会を終えることができた。

現在、論文作成にあたり、外部講師による専門的且つ継続する指導がない状態で看護研究に取り組んでいる。院内の認定看護師の協力を頂きながら取り組んでいるが、今後の展望として、研究委員の教育研修を促進し、研究班を支える能力を高めることが必須と考えている。

研究的視点を持って日々の看護業務をすることが即ち看護の質向上へ繋がると考える。来年度は研究委員がそれぞれの部署に於いて積極的に指導ができる事を目標としたいと考えている。

<文責 高橋礼子>

看護支援委員会（看護必要度記録班）

【看護必要度、記録班 委員】

高橋 共子 藤井 洋子 末次エリカ 赤川恵理子 高橋 正子
大山十亜良 佐藤 悦子 佐藤さとみ 和賀美由紀

【H26年度 看護支援委員会目標】

「看護必要度」に応じた看護サービスの提供と適切な評価を目指す。

【H26年度の活動計画】

1. 「看護必要度」院内研修を行い、評価者のスキルアップに努める。
2. 「看護必要度」に関する看護カルテ入力の実
10月から当該患者の評価の根拠を示す看護記録になるようにする。
入力時間の設定等
3. 毎月の記録監査は現行通り継続する。

【H26年度 反省】

1. 病棟看護師全員へ必要度院内研修を行い周知を図った。
2. 監査後、各病棟へフィードバックしてきたが、まだ十分ではなく、来年度はフィードバックの方法を検討し、周知徹底して行く。
3. B項目の水準を上げるため、記録を充実させて行く必要がある。

<文責 和賀美由紀>

看護支援委員会（看護計画班）

【構成メンバー】

班長 下夕村優子

委員 照井 洋子 小田嶋恵美子 高橋 佳子 藤沢 親子 小田嶋ゆう子

小松ルリ子 高橋 美里 高橋 康子

【H26年度 班目標】

1. 看護必要度とリンクした看護計画を作成する
2. 機能評価受審に向け、患者参画看護計画を作成する

【活動内容】

1. 抗がん剤、麻薬、免疫抑制剤の看護計画の見直し（医療情報の入力差し替え依頼）
2. 患者参画看護計画書の作成、運用実施（適宜変更）
3. 看護計画評価の統一

【今年度の反省】

看護必要度の不可欠な看護計画を見直し、計画は完成したが、入力差し替えが進まず活用できていない。現行で計画は立案されている。今後、状況を確認して整理していく必要あり。患者用看護計画書は意見を取り入れ、適宜変更して完成でき、機能評価受審時には順調に運用された。また、計画を見直すことで記録のまちまちな部分が表面化され、統一を図るマニュアルを変更できた。

<文責 下夕村優子>

看護支援委員会（入院時基礎情報班）

【構成メンバー】

班長 高橋 礼子

委員 高田真紀子 石橋由紀子 小田島千津子 伊藤 優子

阿部 萌子 室澤 陽子 遠藤ちずる

【H26年度 班目標】

現在の入院時基礎情報の見直しをし、退院支援にむけた情報収集ができる。

【活動内容】

1. 現在の基礎情報シートの内容を分析し、退院支援にむけて足りない情報を検討
2. 65歳以上もしくは、40歳以上で特定疾患か終末期の患者のスクリーニングをする
3. スクリーニングシートの作成（テンプレートの作成）
4. スクリーニングシートの運用（外来での入力困難な緊急入院などの場合は病棟での入力とする）
5. 基礎情報シートの内容に、ドナーカードの（あり・なし）を追加した

【今年度の反省】

入院時に、外来でも退院支援に関われるよう入院時スクリーニングシートを作成し、運用を開始した。その結果、入院早期から退院支援計画を立案することができるようになり、退院支援は外来と連動することが可能となった。

今後の課題として、スクリーニングシートの内容と基礎情報シートの内容が二重になっている項目があり、今後見直しが必要である。

<文責 高橋礼子>

看護支援委員会（固定チーム班）

【構成メンバー】

班長 木村真貴子

委員 佐藤 昌悦 小田嶋明子 吉水 桃子 高橋亜由美 武田フミエ

【H26年度 班目標】

1. 責任と継続性のあるチーム作りができる

【活動内容】

1. 各部署における現状と課題の把握
2. 各部署での問題点と改善策の検討

【小集団活動報告】

H27年2月25日（水） 17:30～19:00

- | | | |
|------------------------------------|------|--------|
| *患者家族の心理的援助に向けた術中訪問導入の取り組み | 手術室 | 岩村 久子 |
| *小集団活動報告 | 2 A | 吉水 桃子 |
| *患者の意思を尊重し速やかにチームケアを行い在宅療養が実現できた症例 | 3 A | 阿部 萌子 |
| *固定チームナーシングにおける退院支援の有効性 | 3 B | 大山十亜良 |
| *地域包括ケア病棟での退院支援の関わり | 3 C | 塚本 梢 |
| *技術と知識の統一を目指して | 4 C | 遠藤ちづる |
| *自己血採血時における観察項目の再考 | 外 来 | 佐藤由美子 |
| *処置シートを見直し新たに作成するための取組 | 訪問看護 | 佐藤 友紀 |
| *標準看護計画を検討して | 透析室 | 小田嶋ゆう子 |

〈総師長からの総評〉

1年間目標をたてて評価し、小集団活動のために文字に起こせたことは有意義であった。
昨年よりプレゼンテーション能力もあがっている。

今後は今回の発表をもとに内容を深め、院外での発表なども積極的に行なって欲しい。

【今年度の反省】

小集団活動報告は軌道にのってきた。班活動については定期的に開催した割には各部署報告に留まってしまった。事実上の活動開始が9月からということもあり、現状把握や改善策の検討が奥まで入りこめなかった。どのようにすれば責任ある役割分担ができ、チーム活動に反映しているのかが今後の課題である。

〈文責 木村真貴子〉

師長会

目的 1. 看護科における諸問題を協議し、看護科運営の円滑をはかる

2. 病院運営に関する諸問題について看護科の意見を反映する

内容 1. 看護科の諸問題を協議し決議する

2. 予算、決算、人事、各委員会に関すること

3. 病院経営への提案及び答弁

4. リーダー教育

5. 部署会議・委員会からの報告

6. 医療安全からの報告

構成 11名

総看護師長 1名 副総看護師長 1名

看護師長 9名（うち医療安全副室長 1名 感染対策室副室長 1名）

会議 月 1回

【平成26年度目標】

看護の質の向上に向けて、新人からベテランまでの教育システムの構築

1. 固定チームナーシングのクリニカルリーダーの導入

2. 副主任会の発足

3. 病院機能評価、合格に向けて看護科全体で取り組む

【1年間の動き】

・ 4月 10月の地域包括ケア病棟始動にむけて、大がかりな病棟編成と人事異動

・ 5月 副主任会発足

化学療法リンクナース始動

・ 6月 掛け布団、肌掛け布団の包布交換を委託

・ 7月 毎週（金）11時～12時まで病院機能評価受審のための会議開催決定

17日 東北厚生局監査

・ 10月 地域包括ケア病棟届出

主任 6名昇格（病棟主任 2名体制、中材 1名、OP室 1名の体制とした）

10日 病院機能評価のプレ受審

・ 2月 25日 小集団活動発表会 8題

・ 3月 10日 看護研究発表会 7題

19日・20日 病院機能評価

【まとめ】

目標に関して副主任会の発足と病院機能評価受審については、目標を達成できたが、教育システムの構築に関しては、来年度に持越しとなった。

<文責 佐藤セツ子>

師長主任会

目的 看護科における諸問題を討議し、看護科運営の円滑を図る。

内容 ・業務、看護科の諸問題を取り入れた意見交換の場

・抄読会（最新の医療、看護、トピックス的なできごとなどに対すること）

（前回の当番が次回の発表者 持ち時間一人2～3分）

構成

4月～9月

21名（総看護師長1名 副総看護師長1名 看護師長9名 看護主任10名）

10月～

27名（総看護師長1名 副総看護師長1名 看護師長9名 看護管理主任7名
看護主任9名）

開催日時 毎月1日（祝祭日に当たった場合は翌日）

16：30～17：15

【内容】

4月 新体制での取り組み

5月 今年度の師長主任会のあり方について

6月 **抄読会** ①山菜について・・・佐藤昌悦

②内視鏡に関連したコストについて・・・小田島千津子

7月 **抄読会** ①結核について・・・小川 伸

②電気メスについて・・・石橋由紀子

東北厚生局の監査 7/17（木）決定

8月 **抄読会** ①臓器提供の現状について・・・木村真貴子

②「貴乃花、不惜身命、再び」長山聡著・・・高橋佳子

・地域包括病棟について・・・佐々木佳子 資料あり

・東北厚生局の監査報告

9月 **抄読会** ①PSA（パートナーシップナーシングシステム）について

・・・佐々木佳子

②Skin Tear（テア）について・・・佐藤美夏子

がん患者指導管理料の算定について・・・緩和ケア認定看護師 高橋麻里子

10月 **抄読会** ①第10回県南緩和医療研究会の報告・・・藤井洋子

②昨年度の疾病に係る道路交通法改正について・・・小田嶋恵美子

・肺炎球菌ワクチン接種（公費）の開始について・・・医事課 照井圭子

・地域包括ケア病棟始動・・・高橋礼子

・今月から新規に主任6名昇格、管理主任へ7名昇格

・機能評価のプレ受審 11/11（火）に決定

11月 **抄読会** ①新人看護職員の育て方研修会報告・・・高橋共子

12月 **抄読会** ①看護サービスにおける経済性・・・照井洋子

②特定看護師について・・・赤川恵理子

・看護補助者会よりの提案

H27. 2月 **抄読会** ①「50歳過ぎたら物は引き算、心は足し算」・・・高橋礼子
②むのたけじ（横手市出身 100歳）元ジャーナリスト
・・・下夕村優子

③DMATについて・・・高橋正子

・機能評価受審について

3月 **抄読会** ①医療安全研修会に参加して・・・和賀美由紀
・機能評価受審に向けた病棟ラウンドの結果について

【まとめ】

しばらく休止していた抄読会を再開した。以前は、医学、看護と関係のない本の紹介を主におこなっていたが、今年度からは、今のトピックス的なものを話題提供するような形で、師長、主任がみんなで学べる場とする目的ではじめた。

それぞれが、とてもよい内容の発表であり、今後も継続していきたい。

10月からは、主任が6名昇格し、師長・主任会が総勢27名となった。月に1度の定例会であるが、定着し、よい意見交換の場になっている。

<文責 佐藤セツ子>

看護補助者会

構成 45名（看護補助者28名 業務員17名） 平成27年3月末

急性期看護補助者体制加算 25 : 1

夜間急性期補助者体制加算 100 : 1

【平成26年度の目標】

病棟 看護補助者間の結束を強化し、横との連携を図る。
外来（業務員） 各科との連携を密にし、業務改善を図る。

【平成26年度の反省】

- ・ 日常の業務に係る感染の研修会等、多く行ってもらい、終了後も、お互い確認し合い、業務に反映できた。今後も積極的に研修会に参加するようにし、レベルアップを図ってきたい。
- ・ 看護主任から「オムツのあて方」の研修を受けたことにより、病棟看護師と共に前向きに取り組んでいきたい。
- ・ 年間計画されている研修が多かったが、今年度は補助者の希望も取り入れたことにより、看護補助者間の連携もとれた。
- ・ 昨年度より看護補助者と業務員にそれぞれリーダーを決めたことにより、「報・連・相」がスムーズにできるようになった。

【まとめ】

10月から3C病棟で地域包括ケア病棟が開設となり、病棟それぞれの特殊性が明確になってきた。それに伴い、看護補助者の役割も変化してきており、重要な位置付けになってきた。

年間に計画されている研修会も多岐にわたり、内容も高度になりつつある中、ほぼ全員が真面目に研修会に参加している。

また、それぞれのリーダーが役割をきちんとこなしており、特に連絡事項がある際の伝達は、とてもスムーズになった。補助者会でも自分達の意見をきちんとまとめ、さらに業務内容への提案も何回かあった。

来年度も看護チームの一員として、レベルの向上を目標に研鑽していく予定である。

26年度研修実績

	開催月	内容	担当
1	5/21	標準予防策について	感染管理認定看護師 小川 伸
2	6/11. 12. 13	手洗いと个人防护具の着服をマスターする	感染管理認定看護師 小川 伸

3	7/9. 10. 11. 14. 16. 22. 28. 29. 31	N95マスクの装着方法・演習	感染管理認定看護師 小川 伸
4	7/11	当院の医療安全管理について	医療安全管理者 高本和子
5	9/16	あなたの標準予防策は正しいの	感染管理認定看護師 小川 伸
6	10/7	離床センサー研修会	医療安全管理者 高本和子
7	10/23	褥瘡予防ケアの演習	皮膚排泄ケア認定看護師 佐藤美夏子
8	11/25	もれないオムツのあて方	看護師 末次エリカ・田中由江
9	11/28. 12/3	接遇・個人情報保護研修会	患者サービス向上委員会
10	12/16	医療安全シンポジウム	医療安全管理者 高本和子
11	1/26	医療ガスの取扱いについて	総務課 伊藤建一

<文責 佐藤セツ子>

學術研究業績

医局勉強会

平成26年4月～平成27年3月

- 平成26年4月 早期からの緩和ケア・・・・・・・・・・丹羽 誠 (外科)
- 平成26年4月 心房細動治療 (薬物) ガイドライン・・・・・・・・・・根本 敏史 (循環器内科)
- 平成26年5月 化膿性腱鞘炎後の皮膚欠損に対して・・・・・・・・・・富岡 立 (整形外科)
- 平成26年5月 下垂体後葉ホルモンと母子愛着形成、社会行動に関する最近の知見
・・・・・・・・・・滝澤 淳 (産婦人科)
- 平成26年6月 当院採用抗生剤について・・・・・・・・・・渡邊 圭子 (薬剤科)
- 平成26年6月 Mechanical Ventilationの基本中の基本・・・・・・・・・・寺田 宏達 (麻酔科)
- 平成26年7月 ICT活動報告・・・・・・・・・・武石 知希 (薬剤科)
- 平成26年7月 退院調整部門、地域包括ケア病棟について・・・・・・・・・・和泉千香子 (循環器内科)
- 平成26年9月 睡眠指診・・・・・・・・・・鈴木 直志 (内科)
- 平成26年10月 n-3系 不飽和脂肪酸について・・・・・・・・・・岩崎 渉 (外科)
- 平成26年10月 当院健診センターの現状・・・・・・・・・・船岡 正人 (消化器内科)
- 平成26年11月 C型肝炎の抗ウイルス療法・・・・・・・・・・杉本 侑孝 (消化器内科)
- 平成26年11月 悪性消化管狭窄に対するステント治療・・・・・・・・・・奥山 厚 (消化器内科)
- 平成26年12月 IBSについて・・・・・・・・・・渡邊 健太 (消化器内科)
- 平成27年1月 化学療法同意書運用について・・・・・・・・・・小宅 英樹 (薬剤科)
- 平成27年1月 アニサキス症・・・・・・・・・・三浦 孝也 (消化器内科)
- 平成27年2月 大腿骨近位部骨折 転子部骨折と頸部骨折・・・・・・・・・・湯浅 悠介 (整形外科)
- 平成27年2月 単孔式腹腔鏡下胆のう摘出術・・・・・・・・・・伊勢 憲人 (外科)
- 平成27年3月 病院機能評価について・・・・・・・・・・藤盛 修成 (消化器内科)
- 平成27年3月 妊娠・授乳と薬・・・・・・・・・・佐々木洋子 (薬剤科)

平成26年 学術発表

No.	月 日	学 会 名	開催地	演 題	発 表 者	
1	H26. 1. 25	第 24 回 東北脊椎外科研究会	仙台市	緊急手術を行った腰椎椎間板ヘルニアの2例	医局	江畑公仁男
2	H26. 3. 9	日本超音波医学会東北地方会 第 47 回学術集会	仙台市	胆嚢内にみられたくも状エコーの検討	医局	中島 裕子
3	H26. 5. 10	日本超音波医学会 第 87 回学術集会	横浜市	超音波検査における 3Dreview 画像の活用		
4	H26. 5. 10	日本超音波医学会 第 87 回学術集会	横浜市	Fly thru 法におけるアーチファクト		
5	H26. 9. 21	日本超音波医学会東北地方会 第 48 回学術集会	山形市	肝腫瘍の輸出血管に関する検討		
6	H26. 11. 14	第 42 回 日本頭痛学会総会	下関市	頭痛診療のヒヤリ・ハット (medical incident):秋田県横手市での8年の経験から	医局	塩屋 斉
7	H26. 10. 3	第 27 回 日本内視鏡外科学会総会	盛岡市	地方の小病院における腹腔鏡下胃切除術の導入と短期成績	医局	伊勢 憲人
8	H26. 2. 22	第 44 回 日本人工関節学会	宜野湾市	Cementless THA の術後早期脱臼に対し、modular neck 型 cementless stem に再置換した1例	医局	富岡 立
9	H26. 7. 16	第 69 回 日本消化器外科学会総会	郡山市	タブレット端末を用いた 2 施設間での腹腔鏡下教育手術教育システム	医局	岩崎 渉
10	H26. 3. 9	日本超音波医学会東北地方会 第 47 回学術集会	仙台市	超音波診断上興味ある鏡像 (Chagall phenomenon)について	医局	吉岡麻依子
11	H26. 5. 9	日本超音波医学会 第 87 回学術集会	横浜市	High frame 造影超音波検査が腫瘍塞栓の診断確定に有効であった2例		
12	H26. 9. 21	日本超音波医学会東北地方会 第 48 回学術集会	山形市	肝左葉内側区域の走査方法の検討		
13	H26. 7. 5	第 153 回 日本消化器内視鏡学会 東北支部例会	秋田市	CT colonography が診断・治療に有用であった腸管囊腫様気腫症の2例	医局	渡邊 健太
14	H26. 7. 5	第 153 回 日本消化器内視鏡学会 東北支部例会	秋田市	内視鏡的に切除し得た巨大胃脂肪腫の一例	医局	三浦 孝也
15	H26. 5. 10	日本超音波医学会 第 87 回学術集会	横浜市	肝膿瘍例の検討	医局	高橋 晋
16	H26. 8. 29	第 16 回 日本褥瘡学会学術集会	名古屋市	外力が除去できず陰圧閉鎖療法が継続できなかった仙骨部褥瘡の1症例	看護科	佐藤美夏子
17	H26. 10. 31	第 53 回 全国自治体病院学会	宮崎市	在宅移行スクリーニング表を使用した退院支援の取り組み	看護科	小松 智美
18	H26. 2. 1~2	第 25 回 日本臨床微生物学会	名古屋市	当院における ESBL 産生大腸菌の細菌学的検討	臨床検査科	佐々木絹子
19	H26. 5. 10	日本超音波医学会 第 87 回学術集会	横浜市	外側陰影を伴った肝血管腫の考察	臨床検査科	小丹まゆみ
20	H26. 2. 14	第 29 回 日本環境感染学会総会	東京都港区	結腸手術における S S I サーベイランスの取り組み	感染対策室	小川 伸
21	H26. 8. 23	第 6 回 J 感染制御ネットワークフォーラム	仙台市	抹消静脈カテーテル留置のベストプラクティス~新人教育へ使用して~		
22	H26. 11	月刊 新医療 2014 年 11 月号		HIS 端末管理・運用におけるクライアント管理システムが果たすコスト削減	医療情報管理室	千葉 崇仁

職員等互助会

職員等互助会

概 要

職員等互助会は、当院に勤務する職員及び嘱託職員並びにパート職員（会員）の相互共済を図り、福利増進に寄与することを目的としている。職員歓送迎会、盆踊り大会参加、研修旅行、大忘年会など各種行事の主催・運営、祝い金・見舞金・弔慰金の給付、院内同好会活動への補助を行っている。今後もこれらの福利厚生事業などを通じ、会員の親睦と交流を深め、所期の目的を達成するため活動をしていく予定である。

役員氏名

会長	藤盛 修成
副会長	郡山 邦夫
幹事	高橋 功、平塚多喜雄、原田 優子、小田嶋恵美子、 丹 厚子、後藤美佐子
監事	佐藤セツ子、浮嶋 優子
事務	亀谷 良文

26年度に実施した主な病院行事等

- 平成26年4月18日 職員歓送迎会 よこてシャイニーパレス 参加者115名
実行委員長 高木 遥子
実行委員 根岸 裕介、古関 佳人、近江真梨子、佐々木美奈子、川越 真美
佐々木 薫、山田百合子、高橋エリ子、佐々木洋子、遠藤ちずる
三浦 君子、佐藤 純平、三浦 幸恵、木村 宏樹
- 平成26年8月15日 市民盆踊り大会 横手市役所前 おまつり広場 参加者58名
実行委員長 渡邊 健太
実行委員 藤原 理吉、加賀 直之、新山由香子、加賀谷美智子、小松 信宏
大黒 成美、阿部絵里香、武藤 夏子、佐藤 悦子、大澤 恵美
小野ゆう子、高橋 智子、柿崎 更生、千葉 禎彦、藤原 明子
- 平成26年8月30日～31日、9月20日、13日、10月1日、18日、18日～19日
10月22日～23日、25日～26日、29日～30日
研修旅行 仙台市、仙北市、浦安市、横浜市・鎌倉市 参加者77名
実行委員長 武内 郷子
実行委員 郡山 邦夫、鈴木 務、武石 知希、平塚多喜雄、佐藤 殉子
丹 久美、佐藤富美江、高橋加緒里、松田 希、藤原真喜子
高橋 華澄、菅原 祐司、長澤 克彦、伊藤 雅子（横）
- 平成26年12月19日 大忘年会 横手セントラル 参加者206名
実行委員長 吉岡麻依子

実行委員 高橋 愛美、小田嶋鷹哉、藤井 香織、和賀 幸子、小松 信宏
菅原 千尋、藤沢 菜穂、鈴木 利恵、福田 渡、高橋 雅子
小田嶋ゆう子、柴田 昌洋、谷口 明美、佐藤 恵

○平成26年12月23日 白衣のクリスマスコンサート 一般80名、職員40名

実行委員長 伊藤 周一

実行委員 法花堂 学、渋谷 美紀、高橋 紀子、柴田 一美、藤原 由香
佐藤セツ子、山石久美子、池田 律子、丹 久美、佐藤富美江
高橋 陽子、布袋屋沙樹、齊藤 由佳、高橋 華澄、伊藤有希子
佐藤 裕香、照井 奏

○平成27年3月13日 送別会 よこてシャイニーパレス 参加者144名

実行委員長 伊勢 憲人

実行委員 佐藤 裕基、山谷 加奈、嶋田 裕子、石田 拓耶、幕沢 美紀
桐原 江莉、佐々木洋子、新田 信衛、高橋 康子、江畑 祐佳
小田嶋千津子、小田嶋ひとみ、伊藤 建一、山中慎太郎
伊藤 雅子（大）

○サークル補助等 5件

○慶弔給付 結婚祝金 10件、弔慰金 14件、退職報償金 12件、入院見舞金 1件

<文責 亀谷良文>

同好会活動

野 球 部

平成26年度 野球部活動報告

今年度の野球部の活動は、新入部員も加入して公式戦である県南病院対抗野球大会に出場しました。結果は11対6で平鹿病院に敗れました。天気にも恵まれ、練習もいつもより行う事ができましたが後一步及びませんでした。

徐々に年齢もフレッシュになってきたので、来年は大会で優勝目指して頑張っていきたいと思っています。

○ 主な活動内容

日付	内容	場所
6月8日	練習	大鳥公園
7月5日	練習	大鳥公園
7月12日	練習	大鳥公園
	病院対抗野球大会（サンスポーツランド協和）	
7月19日	横手病院対平鹿病院 結果・・・11対6で敗退。	サンスポーツランド協和
9月23日	病院交流野球大会	グリーンスタジアム横手
11月28日	忘年会	

<文責 加賀直之>

バレーボール部

【活動】

平成26年 7 月 2 日	さかえ館で練習
平成26年 7 月 9 日	さかえ館で練習
平成26年 7 月16日	さかえ館で練習
平成26年 7 月23日	さかえ館で練習
平成26年 7 月30日	さかえ館で練習
平成26年 8 月 2 日	さかえ館で練習
平成26年 8 月 9 日	さかえ館で練習
平成26年 8 月23日	さかえ館で練習
平成26年 8 月30日	さかえ館で練習
平成26年 8 月20日	白山館で練習試合
平成26年 9 月 3 日	ふるさと館で練習
平成26年 9 月 6 日	第35回秋田県病院対抗バレーボール大会出場 (会場：県営トレーニングセンター)

【第35回秋田県病院対抗バレーボール大会出場メンバー】

1. 石川 順基	リハビリテーション科	2. 古関 佳人	リハビリテーション科
3. 加賀 直之	リハビリテーション科	4. 小田嶋鷹哉	リハビリテーション科
5. 後藤沙央里	リハビリテーション科	6. 高橋まゆみ	看護科
7. 高橋 朋子	看護科	8. 池田 律子	看護科
9. 三浦 静香	看護科	10. 大台美紗子	薬剤科
11. 黒澤 雄悦	総務課	12. 奥州 理湖	医事課
13. 青池 満雄	医事課	14. 石塚 紫	医事課
15. 小松田はつみ	医事課		

【第35回秋田県病院対抗バレーボール大会結果】

<予選リーグ>

- 1 試合目 仙北市立病院と対戦し、セットカウント2 - 0で勝利。
- 2 試合目 山本組合病院と対戦し、セットカウント2 - 0で勝利。
- 2勝したものの、得失点差でブロック 2位となり、惜しくも予選リーグ敗退。

<文責 阿部千鶴子>

卓球部

われわれ市立横手病院卓球部「YHTC」は平成24年に発足し、横手体育館の小体育館で、リフレッシュ、ダイエット、フレンドシップ等を目的に、週一回、2時間程度の練習を行っております。平成25年からは己の実力の自覚と反省をしながら年に2回行われる秋田県職場対抗卓球大会に参加しております。卓球経験者のみならず、スポーツでいい汗をかきたいと思っているかたの参加をお待ちしております。

[大会結果]

○第92回秋田県職場対抗卓球大会 平成26年4月29日 秋田県立体育館

第92回秋田県職場対抗卓球大会は、平成26年4月29日秋田市の県立体育館で行われ、過去4大会の成績を基に分けた1～10部に県内41事業所から78チームが出場し、熱戦を繰り広げました。1部～10部までが4チームずつA・Bの2ブロックにわかれてリーグ戦を行った後、両ブロックの同順位チームで各部の順位決定戦を行いました。

市立横手病院はA、Bと2チームが7部と10部に出場し、Aチーム、Bチームがともに優勝という輝かしい結果を残すことが出来ました。

参加メンバーと結果をご報告いたします。

「市立横手病院Aチーム」

メンバー：藤盛修成、本郷修平、伊藤周一、佐々木諒

・7部予選リーグ：Aブロック

市立横手病院A 1-3 (株)プラスチックホンダA

市立横手病院A 3-0 東北電力秋田C

市立横手病院A 3-2 県南ふくし会B 1位通過！

・7部1位2位決定戦

市立横手病院A 3-0 ハローワークA 7部優勝！

「市立横手病院Bチーム」

メンバー：渡邊健太、高橋 晋、高橋明久

・10部予選リーグ：Bブロック

市立横手病院B 3-1 県総合保健事業団C

市立横手病院B 3-1 県南ふくし会C 1位通過！

・10部1位2位決定戦

市立横手病院B 3-1 JAおぼこB 10部優勝！

○第93回秋田県職場対抗卓球大会 平成26年12月7日 秋田県立体育館

第93回秋田県職場対抗卓球大会は、平成26年12月7日秋田市の県立体育館で行われ、過去4大会の成績を基に分けた1～10部に県内46事業所から89チームが出場し、熱戦を繰り広げました。1部～12部までが4チームずつA・Bの2ブロックにわかれてリーグ戦を行った後、両ブロックの同順位チームで各部の順位決定戦を行いました。

市立横手病院はA、Bと2チームが6部と9部に出場し、Aチームは6位、Bチームは8位でした。

参加メンバーと結果をご報告いたします。

「市立横手病院Aチーム」

メンバー：藤盛修成、伊藤周一、佐々木諒、高橋明久

・6部予選リーグ：Aブロック

市立横手病院A 1-3 日本製紙A

市立横手病院A 3-0 キャタピラー東北（株）

市立横手病院A 0-3 大館桂工業（株） B 3位通過！

・6部5位6位決定戦

市立横手病院A 3-0 J A秋田おばこ 残念6位！

「市立横手病院Bチーム」

メンバー：渡邊健太、高橋 晋、杉本侑孝

・9部リーグ：Bブロック

市立横手病院B 1-3 J R東日本秋田D

市立横手病院B 1-3 日本郵便 秋東連

市立横手病院B 0-3 山岡工業 4位通過！

・9部7位8位決定戦

市立横手病院B 0-3 J AおばこB 残念8位！

<文責 藤盛修成>

編集後記

この病院で働き始めて16年が過ぎた。来た当初は医者数が16人ぐらいで、医局の机も余裕があった。院長、事務長さんたちのおかげでジワジワと医師数は増え続け、さらに研修医制度も開始され、現在では30名を優に超えるドクターたちが常勤する大所帯となっている。

この大所帯を仕切るのが秘書の谷口さんだ。院長も誰も頭が上がらない。会計はもちろんのこと、図書の整理まで一手に引き受けてくれており、感謝、感謝である。むかしはみんな若かったわけだが、我々も年を喰う。体には気を付けて。

<文責 小松 明>